

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第277集

江刺家IV遺跡発掘調査報告書

県営畜産経営環境整備事業関連遺跡発掘調査

(財)岩手県文化振興事業団
埋蔵文化財センター

江刺家N遺跡発掘調査報告書

<正誤表> 表7の空欄部分

頁	表	番号	出土地点・層位
128	7	635	B05区 II層
"	"	636	C18区 II層
"	"	637	B06区 II層

江刺家Ⅳ遺跡発掘調査報告書

県営畜産経営環境整備事業関連遺跡発掘調査

序

本県には、縄文時代の遺跡をはじめとする数多くの埋蔵文化財包蔵地があり、10,000カ所にも及ぶ遺跡が確認されております。これら先人の残した文化遺産を保存し、後世に伝えていくことは、県民に課せられた重大な責務であります。

一方、広大な面積を有する本県の大部分は山地であり、地域開発にともなう社会資本の充実もまた重要な一施策であります。

このような埋蔵文化財の保護・保存と開発の調和も今日的課題であり、当文化振興事業団は、埋蔵文化財センター創設以来、岩手県教育委員会の指導と調整のもとに、開発事業によって止むを得ず消滅する遺跡の発掘調査を行い、記録保存する措置をとってまいりました。

本報告書は、県営畜産経営環境整備事業に関連して、平成8年度に調査した江刺家IV遺跡の調査結果をまとめたものであります。調査によって、縄文時代中期・後期の住居跡や土坑・炉跡などの遺構のほか、縄文時代前期から晩期にかけての土器や石器が発見され、貴重な資料を提供することができました。

この報告書が広く活用され、斯学の研究のみならず、埋蔵文化財に対する理解の一助となれば幸いです。

最後になりましたが、これまでの発掘調査及び報告書作成にご援助・ご協力を賜りました二戸地方振興局農政部・九戸村教育委員会をはじめ、関係各位に衷心より謝意を表します。

平成10年1月

財団法人 岩手県文化振興事業団
理事長 船越昭治

例 言

1. 本報告書は、九戸郡九戸村江刺家第13地割字鍋倉45ほかに所在する、江刺家IV遺跡の発掘調査結果を収録したものである。
2. 本遺跡の発掘調査は、県営畜産経営環境整備事業に伴う事前の緊急発掘調査である。調査は、岩手県教育委員会と二戸地方振興局の協議を経て、(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが担当した。
3. 岩手県遺跡登録台帳に記載される遺跡番号・遺跡略号はJ F 0 2 - 1 0 6 7 ・ E S K I V - 9 6 である。
4. 発掘調査期間は、平成8年4月11日～6月21日、発掘調査面積は2,000㎡である。室内整理期間は、平成8年11月1日～平成9年1月31日である。ともに濱田 宏・篠根敬志が担当した。
5. 本報告書の執筆は、Iを高橋興右衛門が、それ以外を濱田が担当し、編集は濱田が行った。
6. 遺物の分析・鑑定は次の方々へ依頼した。(敬称略)
 - ・石質鑑定 佐藤二郎(長内水源工業)
 - ・樹種同定 早坂松次郎(社団法人岩手県木炭協会)
 - ・種子同定 (株)パリオ・サーズエイ
7. 本報告書作成にあたり、次の方々にご協力・ご指導いただいた。(敬称略)
稲野裕介(北上市埋蔵文化財センター)、小笠原善範(八戸市博物館)、桐生正一・佐藤敬枝(滝沢村教育委員会)、日下和寿・柳沢忠明(岩手県立博物館)、昆野 靖(岩手県立平館高等学校)、高橋憲太郎(宮古市教育委員会)
二戸地方振興局、九戸村教育委員会、九戸村役場産業課
8. 野外調査では九戸村と軽米町の作業員20名、室内整理では当センターの期限付職員数名のご協力をいただいた。
9. 土層の観察は、「新版標準土色帖」(小山・竹原:1989)によった。
10. 遺跡内の基準点測量・基準杭の設置は、(株)ハイマーテックに委託した。
11. 写真測量および平面図の図化は、(株)シン技術コンサルに委託した。
12. 調査成果の一部は、現地説明会資料や調査略報に概略を発表しているが、本書と記載事項が異なる場合は、すべて本報告書が優先する。
13. 調査で得られた出土遺物や整理に関わる諸記録等については、岩手県立埋蔵文化財センターで保管・管理している。

本文目次

序

例言

I 調査に至る経過	3
II 遺跡の立地と環境	4
1. 遺跡の位置と地形	4
2. 遺跡の立地	4
3. 基本層序	4
4. 周辺の遺跡	7
III 調査・整理の方法	13
1. 野外調査	13
2. 室内整理	14
IV 検出された遺構と遺構内出土遺物	15
1. 竪穴住居跡	15
2. 竪穴状遺構	33
3. 土坑	36
4. 土器埋設遺構	48
5. 伊跡	48
6. 焼土遺構	50
V 遺構外出土遺物	86
1. 石器・石製品	86
2. 土器	87
3. 土製品類	122
VI まとめ	129
1. 遺構	129
2. 遺物	130
3. おわりに	131
VII 分析・鑑定	
岩手県江刺家IV遺跡における種実同定	133

図 版 目 次

図1 岩手県全国……………1	図35 第1号住居跡出土遺物(7)……………59
図2 遺跡の位置……………2	図36 第1号住居跡出土遺物(8)……………60
図3 周辺の地形……………5	図37 第2号住居跡出土遺物(1)……………61
図4 基本層序……………7	図38 第2号(2)・第3号住居跡出土遺物……………62
図5 周辺の遺跡分布図……………8	図39 第4号住居跡出土遺物(1)……………63
図6 遺構配置図……………11	図40 第4号住居跡出土遺物(2)……………64
図7 遺構図凡例……………14	図41 第5号・第6号(1)住居跡出土遺物……………65
図8 第1号住居跡……………17	図42 第6号住居跡出土遺物(2)……………66
図9 第2号住居跡……………19	図43 第6号住居跡出土遺物(3)……………67
図10 第3号住居跡……………21	図44 第6号住居跡出土遺物(4)……………68
図11 第4号住居跡……………22	図45 第8号・第9号(1)住居跡出土遺物……………69
図12 第5号住居跡……………24	図46 第9号住居跡出土遺物(2)……………70
図13 第6号住居跡(1)……………26	図47 第9号住居跡出土遺物(3)……………71
図14 第6号住居跡(2)……………27	図48 竪穴状遺構出土遺物……………72
図15 第7号住居跡……………28	図49 土坑内出土遺物(1)……………73
図16 第8号住居跡……………29	図50 土坑内出土遺物(2)……………74
図17 第9号住居跡(1)……………31	図51 土坑内出土遺物(3)……………75
図18 第9号住居跡(2)……………32	図52 土坑内出土遺物(4)……………76
図19 第1号竪穴状遺構……………33	図53 土坑内出土遺物(5)……………77
図20 第2号・第3号竪穴状遺構……………35	図54 土坑内(6)・土器埋設・炉跡・ 焼土遺構出土遺物……………78
図21 土坑(1)……………42	図55 遺構外出土石器(1)……………89
図22 土坑(2)……………43	図56 遺構外出土石器(2)……………90
図23 土坑(3)……………44	図57 遺構外出土石器(3)……………91
図24 土坑(4)……………45	図58 遺構外出土石器(4)……………92
図25 土坑(5)……………46	図59 遺構外出土石器(5)……………93
図26 土坑(6)……………47	図60 遺構外出土石器(6)……………94
図27 土器埋設遺構・炉跡……………49	図61 遺構外出土石器(7)……………95
図28 焼土遺構……………51	図62 遺構外出土石器(8)……………96
図29 第1号住居跡出土遺物(1)……………53	図63 遺構外出土石器(9)……………97
図30 第1号住居跡出土遺物(2)……………54	図64 遺構外出土石器(10)……………98
図31 第1号住居跡出土遺物(3)……………55	図65 遺構外出土石器(11)……………99
図32 第1号住居跡出土遺物(4)……………56	図66 遺構外出土石器(12)……………100
図33 第1号住居跡出土遺物(5)……………57	図67 遺構外出土石器(13)……………101
図34 第1号住居跡出土遺物(6)……………58	

図68	遺構外出土石器 (14)・石製品 (1) ……	102	図78	遺構外出土土器 (9) ……	115
図69	遺構外出土石製品 (2) ……	103	図79	遺構外出土土器 (10) ……	116
図70	遺構外出土土器 (1) ……	107	図80	遺構外出土土器 (11) ……	117
図71	遺構外出土土器 (2) ……	108	図81	遺構外出土土器 (12) ……	118
図72	遺構外出土土器 (3) ……	109	図82	遺構外出土土器 (13) ……	119
図73	遺構外出土土器 (4) ……	110	図83	遺構外出土土器 (14) ……	120
図74	遺構外出土土器 (5) ……	111	図84	遺構外出土土器 (15) ……	121
図75	遺構外出土土器 (6) ……	112	図85	遺構外出土ミニチュア土器 ……	122
図76	遺構外出土土器 (7) ……	113	図86	遺構外出土土製品類 ……	123
図77	遺構外出土土器 (8) ……	114	図87	時期別全体図 ……	129

写 真 図 版 目 次

写真図版 1	空中写真 ……	137	写真図版24	焼土遺構 (1) ……	160
写真図版 2	基本階層 ……	138	写真図版25	焼土遺構 (2)・作業風景ほか ……	161
写真図版 3	第 1 号住居跡 ……	139	写真図版26	第 1 号住居跡出土遺物 (1) ……	162
写真図版 4	第 2 号住居跡 ……	140	写真図版27	第 1 号住居跡出土遺物 (2) ……	163
写真図版 5	第 3 号住居跡 ……	141	写真図版28	第 1 号住居跡出土遺物 (3) ……	164
写真図版 6	第 4 号住居跡 ……	142	写真図版29	第 1 号住居跡出土遺物 (4) ……	165
写真図版 7	第 5 号住居跡 ……	143	写真図版30	第 1 号住居跡出土遺物 (5) ……	166
写真図版 8	第 6 号住居跡 ……	144	写真図版31	第 1 号住居跡出土遺物 (6) ……	167
写真図版 9	第 7 号住居跡 ……	145	写真図版32	第 2 号住居跡出土遺物 ……	168
写真図版10	第 8 号住居跡 ……	146	写真図版33	第 3 号・第 4 号住居跡出土遺物 (1) ……	169
写真図版11	第 9 号住居跡 ……	147	写真図版34	第 4 号 (2)・第 5 号住居跡出土遺物 ……	170
写真図版12	第 1 号整穴状遺構 ……	148	写真図版35	第 6 号住居跡出土遺物 (1) ……	171
写真図版13	第 2 号整穴状遺構 ……	149	写真図版36	第 6 号住居跡出土遺物 (2) ……	172
写真図版14	第 3 号整穴状遺構 ……	150	写真図版37	第 6 号 (3)・第 8 号・第 9 号 住居跡出土遺物 (1) ……	173
写真図版15	土坑 (1) ……	151	写真図版38	第 9 号住居跡出土遺物 (2) ……	174
写真図版16	土坑 (2) ……	152	写真図版39	整穴状遺構出土遺物 ……	175
写真図版17	土坑 (3) ……	153	写真図版40	土坑内出土遺物 (1) ……	176
写真図版18	土坑 (4) ……	154	写真図版41	土坑内出土遺物 (2) ……	177
写真図版19	土坑 (5) ……	155	写真図版42	土坑内出土遺物 (3) ……	178
写真図版20	土坑 (6) ……	156	写真図版43	土坑内 (4)・炉跡・焼土遺構 出土遺物 ……	179
写真図版21	土坑 (7) ……	157	写真図版44	埋設土器 ……	180
写真図版22	土坑 (8) ……	158			
写真図版23	炉跡・土器埋設遺構 ……	159			

写真図版45	遺構外出土石器 (1)……………181	写真図版56	遺構外出土土器 (1)……………192
写真図版46	遺構外出土石器 (2)……………182	写真図版57	遺構外出土土器 (2)……………193
写真図版47	遺構外出土石器 (3)……………183	写真図版58	遺構外出土土器 (3)……………194
写真図版48	遺構外出土石器 (4)……………184	写真図版59	遺構外出土土器 (4)……………195
写真図版49	遺構外出土石器 (5)……………185	写真図版60	遺構外出土土器 (5)……………196
写真図版50	遺構外出土石器 (6)……………186	写真図版61	遺構外出土土器 (6)……………197
写真図版51	遺構外出土石器 (7)……………187	写真図版62	遺構外出土土器 (7)……………198
写真図版52	遺構外出土石器 (8)……………188	写真図版63	遺構外出土土器 (8)……………199
写真図版53	遺構外出土石器 (9)……………189	写真図版64	遺構外出土土器 (9)……………200
写真図版54	遺構外出土石器 (10)・ 石製品 (1)……………190	写真図版65	遺構外出土土器 (10)……………201
写真図版55	遺構外出土石器製品 (2)……………191	写真図版66	遺構外出土土器 (11)……………202
		写真図版67	遺構外出土ミニチュア土器・ 土製品……………203

表 目 次

表1	周辺の遺跡一覧……………9
表2	土坑観察表……………36
表3	住居跡・竪穴状遺構内出土遺物観察表……………79
表4	土坑内ほか出土遺物観察表……………84
表5	遺構外出土石器・石製品観察表……………104
表6	遺構外出土土器観察表……………124
表7	遺構外出土土製品類観察表……………128

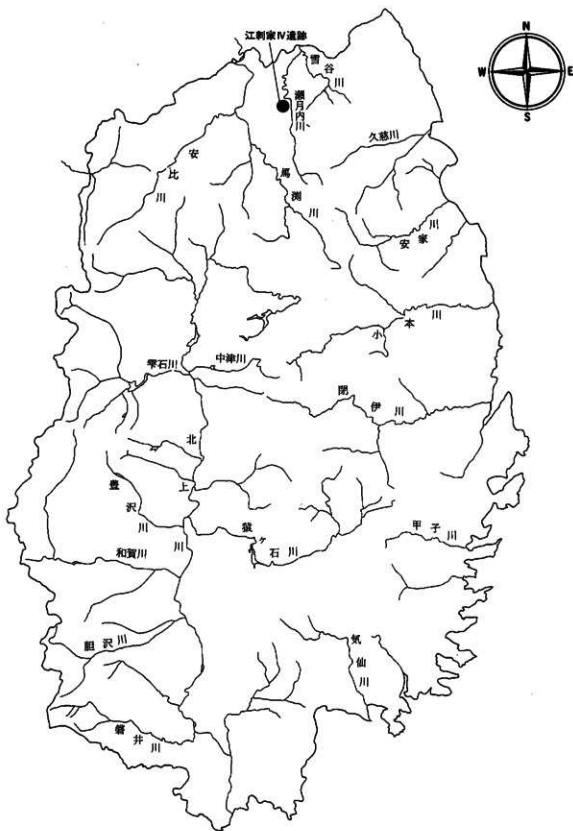


図1 岩手県全図



図2 遺跡の位置

I 調査に至る経過

当地域の畜産振興を図ることを目的に、平成2年度から実施している県営畜産経営環境整備事業軽米・九戸地区において整備する畜産農道部坂線については、一部区間が江刺家IV遺跡分布範囲に位置することから、事業施行に伴い発掘調査することとなった。

県営畜産経営環境整備事業軽米・九戸地区の特設道路部坂線は、家畜の糞尿を農地に還元するため、特別に国から道路整備を認められ、平成7年度より、工事着手している。

これにかかる埋蔵文化財の取り扱いについては、事業者の岩手県二戸地方振興局と岩手県教育委員会との間で協議がなされた。協議の結果は、以下のとおりである。

平成5年12月8日付け「二地畜第238号」により、岩手県二戸地方振興局長から岩手県教育委員会教育長あてに、「埋蔵文化財の有無及び取り扱いについて」照会し、平成5年12月28日付け「教文第818号」で回答があり、本工事が遺跡に係ることから、文化財保護法に基づく手続きを教育委員会文化課と協議するよう回答があった。

平成6年1月17日付け「二地畜第276号」により、岩手県二戸地方振興局農政部長から岩手県教育委員会事務局文化課長あてに、「試掘調査実施予定遺跡に係る現地調査立会について」の依頼をし、文化課は、平成6年3月16日に支障物件のない部分において遺跡の分布について第1回目の試掘調査を実施した。

その後、岩手県二戸地方振興局農政部長で支障物件の損失補償を行い、立木等の撤去後、平成7年6月23日付け、「二地畜第81号」により、岩手県二戸地方振興局農政部長から岩手県教育委員会事務局文化課長あてに同様の依頼があり、岩手県教育委員会は平成7年7月28日に遺跡の分布について第2回目の試掘調査を実施した。

試掘調査の結果は、平成7年7月31日付け「教文第414号」「県営畜産経営環境整備事業に係る埋蔵文化財の試掘調査について（回答）」で本調査を必要とする旨を付記した上で回答された。

その後、実際の調査は、岩手県教育委員会教育長から、平成8年3月6日付け、「教文第1069号」「平成8年度埋蔵文化財調査事業の実施について（通知）」で財団法人岩手県文化振興事業団の調査事業として実施する旨通知された。

通知を受けた事業者は、本調査について財団法人岩手県文化振興事業団と協議を進め、平成8年4月1日に契約を締結して埋蔵文化財センターが調査を実施した。

II 遺跡の立地と環境

1. 遺跡の位置と地形

江刺家IV遺跡は、九戸村の中心地である伊保内から、国道340号線をおよそ5.5km北上した付近にある東北自動車道八戸線九戸インターチェンジの西北西約1kmに所在する。その地点は、北緯40度15分18秒、東経141度24分10秒である。九戸村は、岩手県の北端部にあって、東方を県内最北端の軽米町と山形村、西方を二戸市と一戸町、南方を葛巻町と接している。

本遺跡の西側は、標高852.2mの折爪岳を中心とする山地がほぼ南北に延び、東側はその山々とほぼ平行するかたちで瀬月内川が北流する。折爪岳の東麓は、そのすそ野部分がより低い丘陵部に接しているが、この丘陵部は、崖錐性堆積物（古生層の粘板岩とチャートからなる）を基盤とする複合扇状地である。この基盤層の上には、火山灰土（八戸火山灰層）が厚く堆積し、更にその上には下位から、南部浮石・中振浮石・十和田b・十和田a・白頭山一苦小牧などの火山灰がのる。表土は、雪谷統・盆花統と呼ばれる黒ボク土壌である。先述のように、この扇状地は東流する多くの沢や湧水によって開析を受けて丘陵状を呈している。その付近には、これらの沢や湧水を利用したと考えられる数多くの遺跡が分布している。かつて当センターが、東北縦貫自動車道八戸線建設に関連する調査を実施した九戸村内の遺跡のほとんどは、この豊かな水源の周辺に形成された遺跡群である。

2. 遺跡の立地

今回の江刺家IV遺跡の発掘調査は、先述の東北自動車道建設に際する昭和56年の調査について2回目のものである。今回の調査区の標高は、320～340mで前回より20～35mほど高い部分にあたる。

遺跡は扇状地のほぼ中央部にあり、すぐ北側にはアイクボ沢が東に向かって流れている。流量は少ないが、周辺ではこの沢を利用している水田が数多くみられる。また遺跡内には、かつては近くの江刺家小学校（旧校舎）まで引いていたという湧水がある。流量も一定しており、調査の際には飲料水としても使用した。遺跡に隣接する集落は、西側の低い緩斜面に立地し、尾根筋を畑地や山林として、谷筋を水田として開田して利用している。

遺跡の周辺は、アスパラ・ピーマン・長芋などの畑地や水田で、調査区域のほぼ半分はこれらに通じる農作業用道路であった。地元の方々によると、水田の開田時やその農道建設の際には、数多くの土器類が出土したとのことで、遺跡の一部（道路部分や水田）は大きく地形改変が行われているようである。また、調査区に隣接するアイクボ沢の北側には、九戸村教育委員会によって立てられた「銅倉包含遺跡」という標柱がある。昭和40年代に立てられており、本遺跡は地元では昔から「土器が出る場所」として知られていたようである。

3. 基本層序

調査区内では、基本的に図4のような土層が観察される。以下、表土から順に層序を示す。

第1層 黒褐色土 (10YR 2/3) シルト

現在の表土および畑地の耕作土。草木根を多く含む。下位ほどしまりを増すが、粘性はほとんど変わらずに乏しい。部分的に灰白色火山灰を含む。層厚10～30cm。

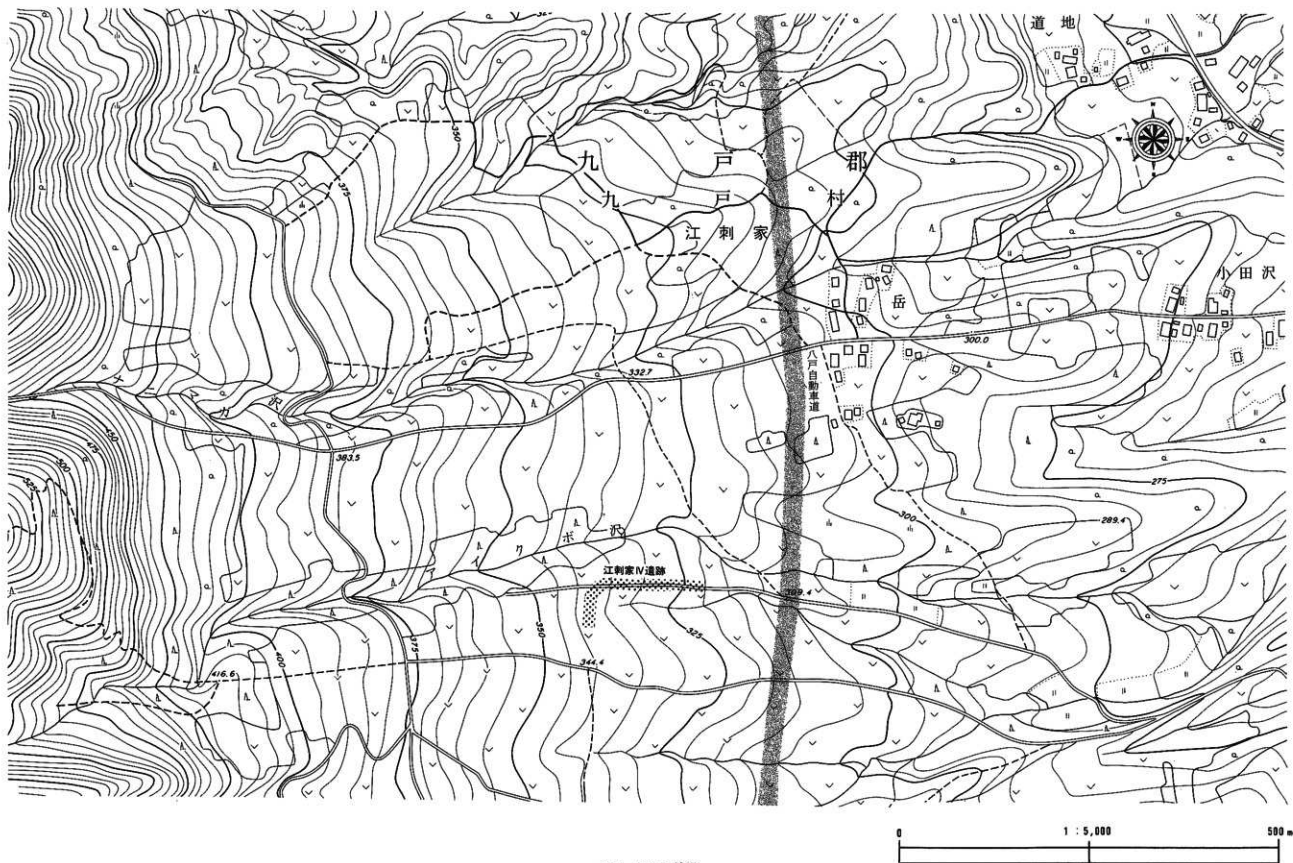


図3 周辺の地形

第II層 黒褐色土 (10Y R 2 / 2) シルト
十和田b降下火山灰および中振浮石粒 (通称アズナ) をまばらに含む。やや粘性を感じる。層厚10~20cm。

第III層 暗褐色土 (10Y R 3 / 4) 砂質シルト
中振浮石相当層で、この層の上面が遺構検出面である。しまりは強くなるが、粘性はやや感じる程度である。層厚50cm前後。

第IV層 明黄褐色 (10Y R 6 / 6) 火山性軽石
南部浮石 (通称ゴロク) 層である。部分的にこの層で検出された遺構もある。層厚は40cm以上である。

第V層 八戸火山灰層で層厚は不明。

第VI層 扇状地堆積物である砂礫層。層厚不明。

第V・VI層については前回の調査での結果を参考にし、今回は第IV層の途中までしか深掘をかけていない。

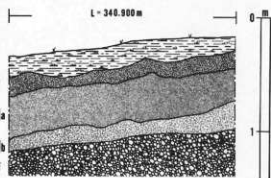


図4 基本層序

4. 周辺の遺跡

九戸村内の遺跡は、昭和55年度以降の東北縦貫自動車道八戸線建設 (田代、道地II・III、嶽I・II、江刺家、江刺家IV・V、滝谷III遺跡)、同年以降の九戸地区畑地帯総合土地改良事業 (川向、伊保内I a・I b遺跡)、昭和63年度以降の国道350号線改良工事 (管波I、栗ノ木沢、丸木橋遺跡) 平成2年度以降の農免農道整備 (田代IV・VI、田代遺跡) などの各事業によって発掘調査されたものが多い。これらの遺跡は、特に東北縦貫道八戸線の事前の分布調査によって存在が確認され、その際に新たに遺跡として登録されたものがほとんどである。

一方、学術調査も数回行われており、昭和30年田代遺跡・35年妻の神遺跡・47年山根遺跡の各遺跡が、当時岩手大学教授であった草間俊一によって調査されている。

これら村内の遺跡の多くは、伊保内・江刺家地区に集中する。近年は、この2つの地区がおもな各種事業の対象地域となり、特に江刺家地区はこれに伴う遺跡の緊急発掘調査が継続して実施されている。この江刺家地区は、瀬月内川左岸の緩斜面上にあって、折爪岳から東流する沢や多くの湧水に恵まれている。この生活に適した地形や豊富な水源を利用した、縄文時代を中心とする集落跡が数多く存在することは以前から指摘されている。具体的には、標高250~280mの低位段丘相当の台地上には、縄文早期から中期・奈良時代・平安時代・中世の遺跡が立地し、標高280~350mの中位丘陵地状地形面上には、縄文後期・晩期の遺跡が立地する傾向があることが述べられている。

図5に九戸村内の主要な遺跡について図示し、表1にその時代・内容等を記した。ここでは、縄文時代の住居跡が検出されている遺跡を中心に記述する。

縄文時代前期の住居跡は、昭和55年度の田代遺跡の調査で円筒下層d式期のものが1棟確認されている。平面形は不整の円形で、該期の一括土器が5個体見つかった。また、単独で同時期の石囲炉も1基検出されている。その他には、管波I遺跡で住居跡1棟、平成7年度の田代遺跡の調査でも住居跡1棟が確認されている。

中期になると遺構の検出例が増加する。7遺跡 (田代・嶽II・江刺家・滝谷IIIなど) で60棟を超える住居

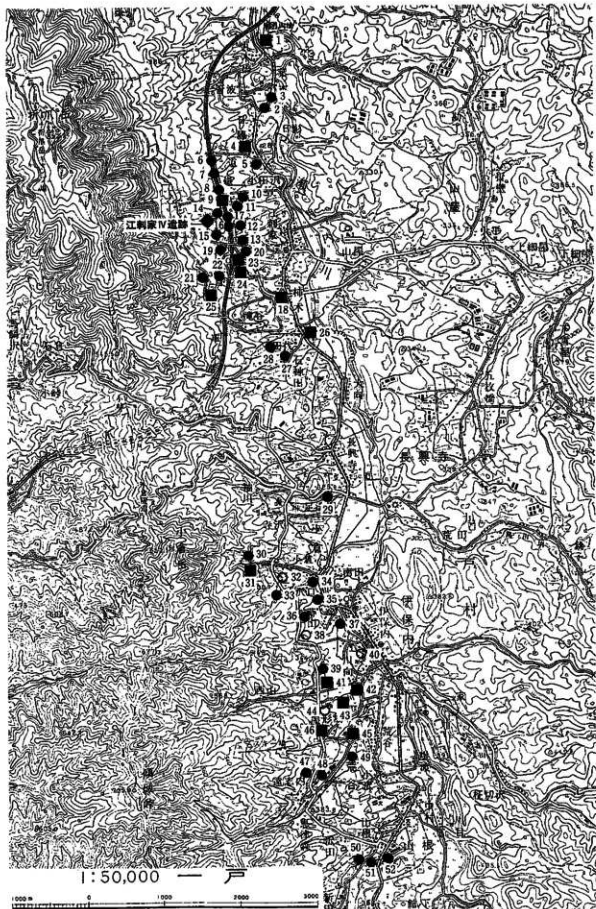


図5 周辺の遺跡分布図

表1 周辺の遺跡一覧

番号	遺跡名	時代	主な遺構	備考
1	丸木橋	縄文(早・前)・古墳～奈良	竪穴住居跡(古代11棟)、土坑、陥し穴状遺構など	岩文振報告書第189集
2	菅波Ⅰ	縄文(早・前・後)	竪穴住居跡(縄文4棟)、土坑、陥し穴状遺構など	岩文振報告書第139集
3	兼ノ木沢	縄文(早・前・後)	土坑、陥し穴状遺構、基壇(中世以降)	岩文振報告書第154集
4	菅波Ⅱ	縄文(晩)・平安		
5	遺地			
6	遺地Ⅱ	縄文(後・晩)	土坑	岩文振報告書第64集
7	遺地Ⅲ	縄文(前・中・後・晩)	竪穴住居跡(縄文1棟)、住居状遺構、土坑、配石遺構など	岩文振報告書第64集
8	塚Ⅰ	縄文(前・後・晩)	竪穴住居跡(縄文1棟)、土坑、伊跡など	岩文振報告書第50集
9	塚Ⅱ	縄文(早～晩)・平安	竪穴住居跡(縄文23棟、平安3棟)、土坑、焼土遺構など	岩文振報告書第78集
10	塚Ⅲ	縄文(晩)		
11	塚Ⅳ	縄文(晩)		
12	塚Ⅴ	縄文(後・晩)		
13	江刺家Ⅰ	縄文(晩)		
14	江刺家Ⅱ	縄文(後・晩)		
15	江刺家Ⅲ	縄文(中・後・晩)		
16	江刺家Ⅳ	縄文(前・中・後・晩)	竪穴住居跡(縄文7棟)、土坑、焼土遺構	岩文振報告書第59集
17	江刺家Ⅴ	縄文(中・晩)	竪穴住居跡(縄文3棟)、土坑、焼土遺構	岩文振報告書第59集
18	江刺家Ⅵ	縄文(早・中・後)・平安	竪穴住居跡(縄文13棟、平安32棟、中世3棟)、土坑など	岩文振報告書第70集
19	若宮Ⅰ	縄文(晩)		
20	若宮Ⅱ	縄文(晩)		
21	滝谷Ⅰ	縄文(晩)		
22	滝谷Ⅱ	縄文(晩)		
23	滝谷Ⅲ	縄文(前・中・後・晩)・平安	竪穴住居跡(縄文16棟、平安2棟)、土坑、陥し穴状遺構など	岩文振報告書第49集
24	滝谷Ⅳ	縄文(晩)・平安		
25	滝谷Ⅴ	縄文(前・中・後・晩)・平安		
26	田代	縄文(早・前・中)・奈良	竪穴住居跡(縄文18棟、古代1棟)、土坑、石垣伊跡など	(日本考古学年報No.13) 岩文振報告書第41集
27	田代Ⅳ	縄文(早・前・中)	竪穴状遺構、配石遺構、土坑、埋設土器遺構	岩文振報告書第223集
28	田代Ⅵ	縄文(早・前・中)	竪穴住居跡(縄文1棟)、土坑	岩文振報告書第223集
29	長興寺	縄文(中)		
30	小倉Ⅰ	縄文(中・後)		
31	小倉Ⅱ	縄文(中)・奈良・平安		
32	小倉Ⅲ	奈良・平安		
33	小倉Ⅳ	縄文(中)		
34	南田Ⅰ	縄文(晩)		
35	南田Ⅱ	縄文(中・後・晩)		
36	壽田Ⅰ	縄文(晩)		
37	壽田Ⅱ	縄文(中)		
38	壽田Ⅲ	奈良・平安		
39	伊保内Ⅰa	縄文(早・後・晩)	竪穴住居跡(縄文3棟)、土坑、陥し穴状遺構など	岩文振報告書第53集
40	伊保内Ⅰb	中世	堀、陥し穴状遺構	岩文振報告書第53集
41	川向Ⅰ	縄文(中)・奈良・平安		
42	川向Ⅱ	縄文(中)・奈良・平安		
43	川向Ⅲ	縄文(中・晩)・平安	竪穴住居跡(縄文2棟、平安3棟)、土坑など	岩文振報告書第26集
44	川向Ⅳ	奈良・平安		
45	尾形場Ⅰ	縄文(中?)・奈良・平安		
46	尾形場Ⅱ	縄文(中?)・奈良・平安		
47	遠志内Ⅰ	縄文(後?)		
48	遠志内Ⅱ	縄文(中?)		
49	遠志内Ⅲ	縄文(中)		
50	山根Ⅰ	縄文(晩)		
51	山根Ⅱ			
52	山根Ⅲ	縄文(晩)		

● 縄文時代の遺跡

○ 古代(古墳・奈良・平安時代のいずれか)の遺跡

■ 縄文時代と古代の複合遺跡

※ No.16の江刺家Ⅳ遺跡は昭和56年の東北縦貫自動車道に関連する調査

跡が確認され、特に田代遺跡からは、南の大木式土器文化と北の円筒式土器文化の接触を示す資料が見つかった。昭和33年の草間俊一の報告によると、九戸地方における円筒式土器文化の衰退と大木式土器文化の進出は、大木8式期という具体的な時期を推定していたようである。その他に、隣接する田代IV遺跡からは、中期中葉から後葉にかけての配石遺構が検出され、集落跡である田代遺跡との関連が注目される。

後期では、滝谷III遺跡で前葉の住居跡が11棟、管波I遺跡で2棟検出されている。この時期の遺構は、九戸地区では検出例が少ないようである。

晩期では、道地III遺跡で前葉を中心とした住居跡が7棟、伊保内I a 遺跡で大洞B式相当のもの1棟など、6遺跡で確認されている。道地III遺跡でまとまって検出されているほかは、1遺跡から見つかる該期の住居跡は少ない。

縄文時代以降、まず古代では、古墳時代末から奈良時代にかけての住居跡11棟が検出された丸木橋遺跡や、平安時代では住居跡32棟が検出された江刺家遺跡などが挙げられる。

中世の城館跡は、17箇所が確認されているが、現在でも堀や土塁などが残されているものが多い。伊保内館・江刺家館・戸田館などが著名である。

以上、検出された遺構の時期から村内の遺跡について概観してきたが、記述したものはごく僅かであり、詳しくは他の報告書および『全国遺跡地図 岩手県』（文化庁文化財保護部）等を参照していただきたい。

〈引用・参考文献〉

- 石野公一 (1972)：『北上山地開発地域土地分類基本調査（一戸）』 岩手県
遺跡発掘調査報告書 岩埋文報告書第41集 (財) 岩埋文
草間俊一 (1958)：『岩手県田代遺跡調査報告書』 岩手大学文学部研究年報第13巻
国生 尚 (1983)：『江刺家IV・V遺跡発掘調査報告書』 岩埋文報告書第59集 (財) 岩埋文
斎藤邦雄 (1989)：『管波I遺跡発掘調査報告書』 岩埋文報告書第139集 (財) 岩埋文
斎藤 実 (1985)：『田代IV・田代VI遺跡発掘調査報告書』 岩埋文報告書第223集 (財) 岩埋文
佐々木清文 (1983)：『滝谷III遺跡発掘調査報告書』 岩埋文報告書第49集 (財) 岩埋文
樋市 達 (1983)：『道地II・III遺跡発掘調査報告書』 岩埋文報告書第64集 (財) 岩埋文
樋市 達 (1982)：『折爪岳東麓の遺跡と湧水』『紀要II』 (財) 岩埋文
平井 達ほか (1984)：『康II遺跡発掘調査報告書』 岩埋文報告書第78集 (財) 岩埋文
三浦謙一 (1983)：『伊保内I a・I b 遺跡発掘調査報告書』 岩埋文報告書第53集 (財) 岩埋文

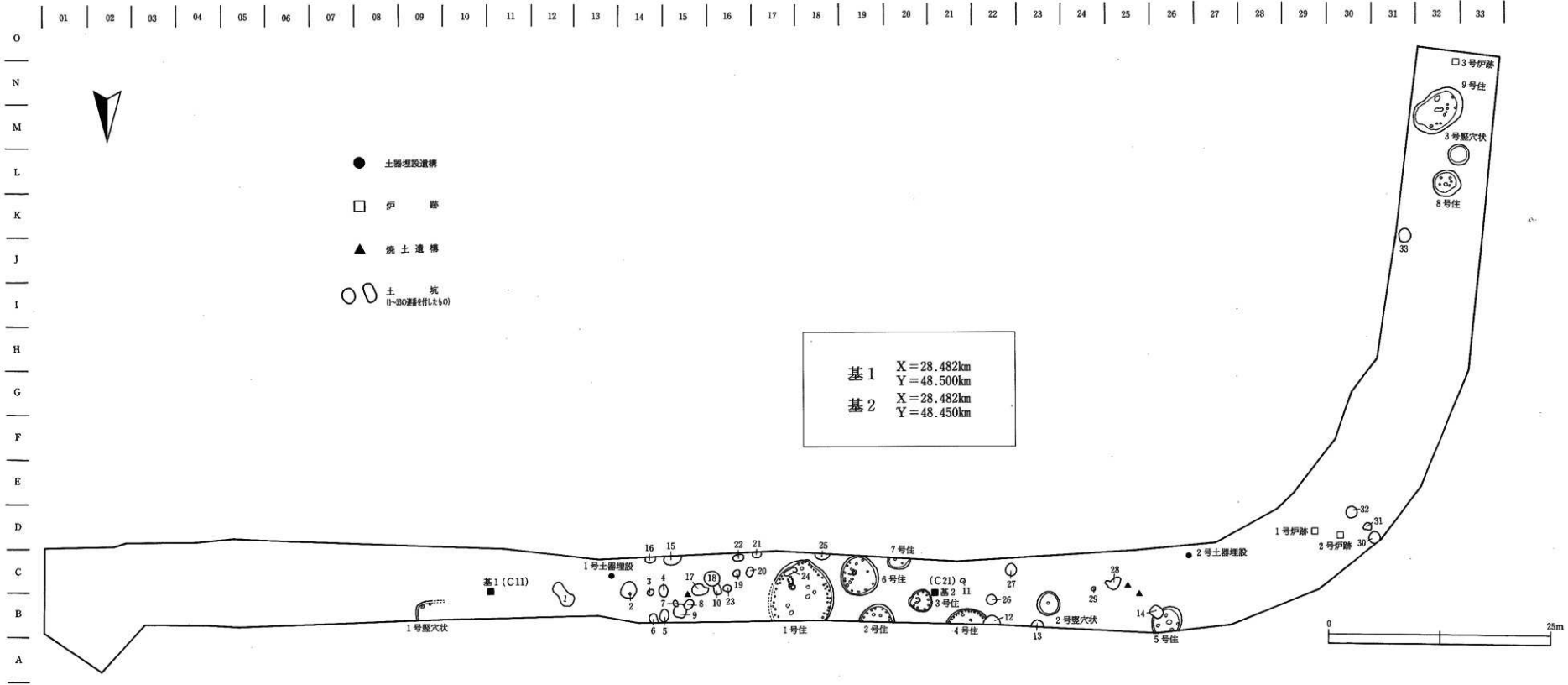


图6 遺構配置図

Ⅲ 調査・整理の方法

1. 野外調査

(1) 調査区の設定

今回の調査区は、南北には道路分の幅約10～13m、東西方向の長さは165mに及んだ。段丘の低い側である東側から西側に130mほど直線的に延び、この地点から南側にほぼ直角に曲がっている。幸いにも調査区域は、長い直線部分がうまく平面直角座標第X系のX方向に平行しており、このことから公共座標軸を利用することにした。東西方向の調査区内に2点の基準点を設定し、それを基にグリッドを区画した。基準点1・2の成果値は以下のとおりである。

基準点1 X=28482.000m Y=48500.000m H=326.187m

基準点2 X=28482.000m Y=48450.000m H=331.873m

調査区内には上記の基準点のほか、補点を5カ所に設置している。

グリッドは、起点を北東に置き5×5mを1区画とした。南北方向はAからOまで、東西方向は01から33までを与え、その組み合わせによってグリッド名とした。(A01区・B02区など)

なお、基準点1はC11区、基準点2はC21区の各グリッドにあたる。

(2) 粗掘・遺構検出

調査は、まず雑物の除去後に文化課が実施した試掘結果の確認とトレンチのクリーニングを行った。その後、表土の厚さや遺構の有無、遺物の出土状況を確認する目的で、2m幅のトレンチを調査区全体に14本設定した。その結果、遺物が表土からもほぼ全域にみられたため、粗掘についてはほとんど人力によって行い、重機の使用は土山の移動等、最小限に止めた。

遺構の検出は、II層(十和田b降下火山灰を含む黒褐色土層)上面およびIII層(中冨浮石相当層)で行った。II層で検出されたものはわずかであり、ほとんどがIII層上面である。部分的にIV層(南部浮石層)で検出されたものもあるが、III層が薄いあるいはみられない地点である。

(3) 遺構名の付け方

検出された遺構は、その属するグリッド名を付して、A01住居跡・B02土坑などのように呼称した。1つのグリッドに同種の遺構が複数ある場合は、B02土坑-2・B02土坑-3などとした。なお、本報告書では、第1号住居跡・第2号土坑などとすべて遺構名を付け替えている。

(4) 精査・実測

住居跡は4分法で、土坑類は2分法で精査し、必要に応じて使い分けた。実測は簡易造り方で行い、遺構の平・断面図は、20分の1の縮尺を基本とした。炉跡・埋設土器などは、10分の1で実測したものもある。また、一部外部業者による写真測量を実施し、平面図の図化までを委託している。この縮尺も20分の1としている。

(5) 写真撮影

野外での写真撮影は、35mm版2台(モノクローム・カラーリバーサル1台ずつ)と6×7cm版モノクロームを使用した。また、メモ的にポラロイドカメラも使用した。調査終了直前には、セスナ機による空中写真撮影を行った。

2. 室内整理

(1) 遺物の処理

遺物は、野外調査と並行して雨天時などに水洗まで行い、その後室内で注記・接合・復元の順に進めた。土器類は報告書掲載用のものを選別後、登録作業・実測・拓本・写真撮影・トレースを行い、遺物図版を作成した。石器類は器種毎に登録し、土器類と同様に進めた。

(2) 遺構図面

野外調査で得られた図面類は、標高等の確認・平断面図の点検をし、必要に応じて合成した。その後トレース・遺構図版作成の順に進めた。

(3) 図版について

遺物の図版は遺構種別毎に作成し、遺構外出土のものは本報告書による分類基準によってまとめて掲載した。縮尺は、土器実測図が3分の1および4分の1、拓影図は2分の1および3分の1、剝片石器・石製品は2分の1、礫石器は3分の1で、土製品は3分の2、ミニチュア土器は原寸大である。また、各図版内にはそれぞれスケールを付している。

遺構図版は、遺構の種類毎に掲載した。縮尺は、土器埋設遺構が20分の1である以外は、各遺構とも40分の1である。遺構の図版に使用したスクリーン・トーンについては、図7に凡例として示した。

(4) 遺物写真図版について

遺物写真図版の縮尺は、剝片石器3分の2、礫石器3分の1、土器の立体が3分の1・9分の2、土器破片3分の1、土製品・石製品類は3分の2・3分の1を原則とした。なお、一部この縮尺に合わないものがある。

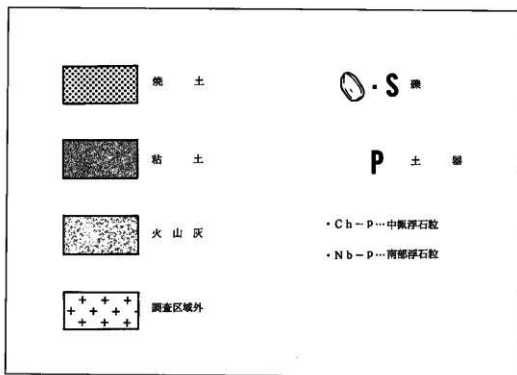


図7 遺構図凡例

IV 検出された遺構と遺構内出土遺物

1. 竪穴住居跡

縄文時代の竪穴住居跡が9棟検出された。時期は、前期末葉から中期初頭にかけてが3棟、中期末葉から後期初頭にかけてが3棟、後期中葉から後葉にかけてが2棟で、出土遺物が少なく、詳細な時期が不明なものが1棟である。

各住居跡ともⅢ層（中葉浮石相当層）上面で検出されている。住居跡相互の重複関係は認められないが、土坑類と切り合うものも見られる。また、住居跡が検出される付近のⅡ層中には、灰白色の火山灰が含まれているものが多い。層準から十和田aあるいは白頭山-苫小牧降下火山灰と思われるが、この火山灰が降下した時期（10世紀初～中ごろ）にもこれらの住居跡が埋まりきらずに窪んでいたことを示している。

第1号住居跡（B18住）

■（ ）内は旧遺構名

遺構（図8、写真図版3）

〈位置・重複〉調査区中央部の住居跡が集中する地区（B18～B21区）の東端に位置する。第24号土坑が本遺構の床面で検出された。

〈規模・平面形〉直径6.9m前後の円形を呈するものと思われる。（北側が調査区域外にあり不明）

〈埋土〉黒褐色土を主体とし、壁際にⅢ層崩落土がみられる。下位ほど南部浮石粒を多く含み、炭化材や焼土粒もまばらに混じる。

〈壁〉Ⅲ層・Ⅳ層（南部浮石層）およびⅤ層（八戸火山灰層）を壁とする。西壁・南壁は直立ぎみに外傾して立ち上がり、現状の壁高は40～65cmである。北壁は調査区域外で不明、東壁は斜面の下側のため検出できなかった。

〈床面〉Ⅴ層を床面とする。ほぼ平坦で、全体が硬くしまる。

〈柱穴〉20個あまりの柱穴状ピットと60数個の壁柱穴が検出された。西壁・東壁の一部には、壁柱穴が2列に配されている部分がある。深さは柱穴状ピットで7～40cm、壁柱穴で9～44cmである。配置は不明瞭であるが、P P 1～5の五角形の主柱穴と数十の壁柱穴から構成されていた可能性がある。

〈炉〉長径110cm×短径100cmの長方形の石囲いに、40×60cmの石囲いが組み合わされた形状の炉が検出された。複式炉の一種になるか。大きい方の石囲いは礎が全周していないが、破壊されたものかどうかは不明である。構成礎は、10～50cmほどの角礎・円礎が30個あまり用いられている。燃焼部の焼土は両方の石囲い内に形成されているが、ともに厚さ2～4cmと薄い。小さい方の石囲い内の焼土中には、炭化物粒を多く含んでいる。

〈その他〉東側が出入口と思われる。

遺物（図29～36、写真図版26～31）

〈出土状況〉本遺構の調査開始当初は、このような大型の住居跡を想定しておらず、埋土からと思われる遺物を包含層の一部としてグリッドで取り上げてしまっている。接合・復元の際は、この点に注意して行った結果、かなりの点数が復元された。

埋土から土器・石器とも大量の遺物が出土した。特に、土器は大コンテナ3箱ほどの量があり、前期末葉から晩期に至るまでのものが出土している。石器類は、剥片を含めると30点以上出土している。

<石器> 1～6は石鏃で、6は定形的なものではなく、別に分類すべきかもしれない。すべて有茎と思われるが、1・2は基部が短い。7～9・11は石匙で、7・8は縦形、9～11は横形である。12は全線加工の石筥、13～20は不定形石器で、13は全線加工、16・18は2線刃加工、他は1線刃加工である。21・22は残核、23・24は使用痕を有する剝片、25・26は細部加工剝片で、27は炉内から出土した剝片である。礫石器では、28は欠損した磨石、29・30はともに凹石である。本遺構からは、石製品が2点出土している。31は円盤状石製品で、打ち欠きが全周するもの。32は軽石製品で、穿孔はみられない。浮子としての用途ではなく、装飾品の未製品と思われる。

<土器> 33は口縁部から下方に向く4つの突起をもち、撚紐瓦葺が付される粘土紐による区画文が体部中位まで展開する。区画内は棒状工具による連続刺突がみられる。円筒上層d式に相当しよう。34・35も同様の口縁部破片である。36・37は深鉢の突起部で、粘土紐を貼り付けることから沈鉢主体の装飾に変化している。いわゆる円筒上層e式に属する。38～40も同様の時期であるが、口唇部に刺突列が付く。41は口縁部に横位の綾絡文の付く破片。42は十層内I式に属する深鉢の体部。43～48は後期中葉から後葉にかけての瘤付土器である。43・44にはボタン状の瘤が付き、それ以外は先端が尖る瘤である。器形は壺・鉢類であろう。48は瘤が剥落しているが、小型の鉢である。折り返しの口縁をもち、体部外面には赤色顔料が付着している。49・50は細い刻目列を有するもので、田柄貝塚第III群相当。50にはタスキ掛け状の縄文帯がみられる。51・52は頸部から口縁部に向かってすばまる後期後葉と思われる壺で、52は縄文帯と無文帯からなる。53の小型の鉢や54～56の口縁部も同様の時期と思われる。57～60は無文の深鉢で、58のみ口縁部に連続する刺突列をもつ。すべてミガキが施されている。61も無文でミガキが施される台付きの浅鉢である。62も61と同様の壺である。63は折り返し口縁の深鉢、64は単節斜行縄文が施される鉢で、ともに後期に属する。65・66も後期に属すると思われる深鉢で、65は網目摺糸文、66は羽状縄文が施されている。67は三叉文の付く鉢、68は羊歯状文が施された浅鉢、69は平行沈線と刺突のある鉢、70は上下の平行沈線間が部分的に突起状につながる浅鉢である。71・72・73は晩期に属する口縁部破片で、73は壺、それ以外は鉢と思われる。74～85は粗製の深鉢で、単節斜行縄文がみられるものと羽状縄文のものがある。80は検出状況から、一括廃棄されたものと思われる。86は折り返しの口縁で、連続する細い刺突列と山形の沈線が特徴的である。弥生時代前期あたりに相当するものか。

時期 検出された住居跡の炉の形態や出土した遺物の一部から、縄文時代中期末葉から後期初頭の時期と考えられる。

第2号住居跡 (B19住)

遺構 (図9・写真図版4)

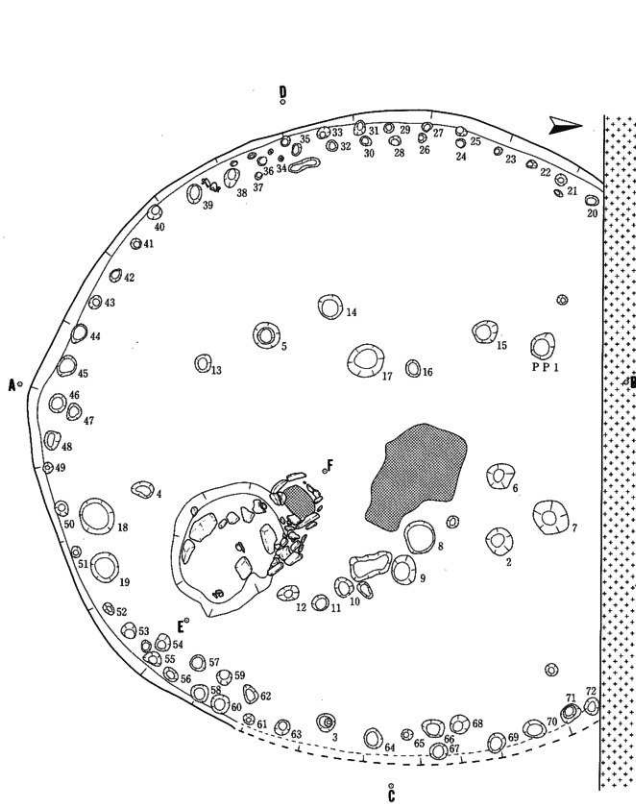
<位置> 調査区中央部の住居跡が集中する地区の北側B19区に位置する。全体のほぼ半分は、調査区域外にあって、精査した部分では炉も検出されなかった

<規模・平面形> 直径4.1m前後の円形を呈するものと考えられる。

<埋土> 黒褐色土が主体であるが、上位と下位では南部浮石粒の混入する割合が異なる。壁際にはII層の崩落土がみられる。層下位に厚さ4cm程度の焼土があるが、流れ込んだものと思われる。

<壁> III層・IV層を壁とする。西壁は直立ぎみに外傾して立ち上がり、東壁は緩く外傾して立ち上がる。壁高は10～52cmである。

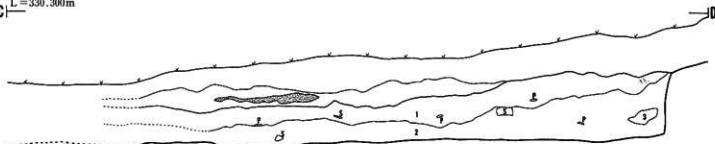
<床面> V層を床面とし比較的やわらかい。全体に平坦であるが、東側にわずかに傾斜している。



A L=330.300m



C L=330.300m



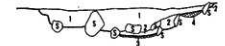
A-B・C-D

- 1 10YR 2/2 黄褐色土・Ch-p全体 Nb-p5% 焼土殻 炭化材をわずかに含む
- 2 10YR 3/2 黄褐色土・Ch-p全体 Nb-p7~10%含む
- 3 10YR 2/2 黄褐色土・Ch-p全体 Nb-p7~10%含むブロック
- 4 10YR 4/4 褐色土・Ch-p全体 Nb-p3%含む田圃腐植土

E-F

- 1 10YR 2/2 黄褐色土・Ch-p全体 Nb-p3% 焼土殻 炭化物 ローム殻をまばらに含む
- 2 10YR 3/5 黄褐色土・石の塊あり
- 3 7.5YR 4/6 褐色土・焼土殻を焼土だが、厚さがない
- 4 7.5YR 4/4 褐色土・焼成不良の焼土 炭化物を含む

E L=329.000m



No.	PF1	PF2	PF3	PF4	PF5	PF6
径 cm	24×28	28×29	26×30	18×23	27×28	27×29
深さ cm	24	34	-	-	-	40

No.	PF7	PF8	PF9	PF10	PF11	PF12
径 cm	34×41	32×35	26×31	19×21	17×18	18×23
深さ cm	29	18	-	-	-	7

No.	PF13	PF14	PF15	PF16	PF17	PF18
径 cm	17×18	26×26	23×26	15×18	34×40	36×38
深さ cm	-	-	16	-	10	-

No.	PF19	PF20	PF21	PF22	PF23	PF24
径 cm	29×32	19×14	12×13	9×12	9×9	10×10
深さ cm	-	23	-	29	20	19

No.	PF25	PF26	PF27	PF28	PF29	PF30
径 cm	10×12	8×10	10×12	10×12	10×10	10×12
深さ cm	12	22	9	19	-	19

No.	PF31	PF32	PF33	PF34	PF35	PF36
径 cm	12×16	12×12	12×15	9×13	10×11	10×10
深さ cm	-	-	-	18	18	23

No.	PF37	PF38	PF39	PF40	PF41	PF42
径 cm	8×8	16×20	16×20	15×16	11×11	12×13
深さ cm	16	25	27	22	27	30

No.	PF43	PF44	PF45	PF46	PF47	PF48
径 cm	14×14	16×12	19×24	18×20	15×18	16×20
深さ cm	38	28	44	29	24	27

No.	PF49	PF50	PF51	PF52	PF53	PF54
径 cm	11×12	14×17	11×12	10×14	16×18	15×18
深さ cm	-	-	-	-	25	27

No.	PF55	PF56	PF57	PF58	PF59	PF60
径 cm	14×20	12×18	16×18	20×20	16×16	20×20
深さ cm	-	-	-	-	34	-

No.	PF61	PF62	PF63	PF64	PF65	PF66
径 cm	12×12	14×20	16×18	20×21	12×12	18×24
深さ cm	-	-	37	35	-	-

No.	PF67	PF68	PF69	PF70	PF71	PF72
径 cm	18×19	20×20	19×21	19×25	16×22	16×18
深さ cm	-	-	-	-	16	-

図8 第1号住居跡

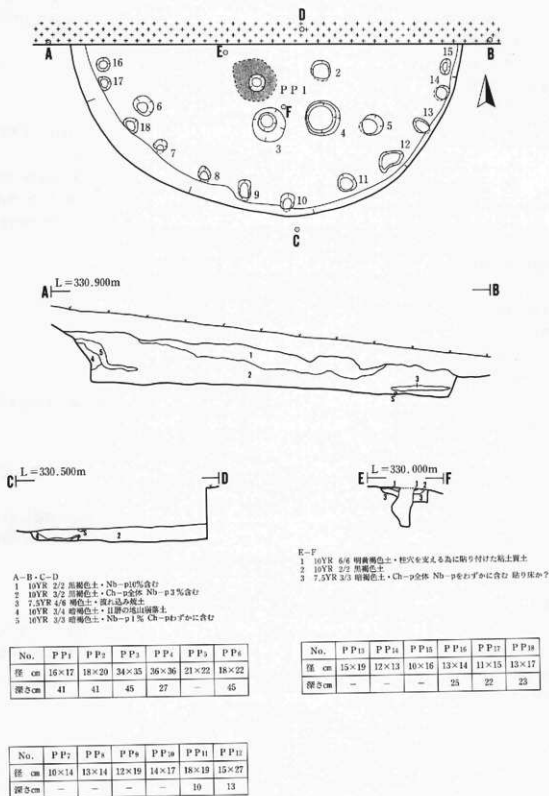


図9 第2号住居跡

<柱穴>精査できたもので、6個の柱穴状ピットと12個の壁柱穴が検出された。P P 1は主柱穴の1つと考えられるが、まわりに粘土が張り付けられており、柱との隙間に充填したものであろう。深さは柱穴状ピットが32~45cm、壁柱穴が10~25cmである。

<炉>検出されなかった。調査区域外にあると思われる。

遺物 (図37・38、写真図版32)

<出土状況>埋土および床面直上から、土器片・石器類が出土している。

<石器>87は有茎石鏃、88は縦形石匙としたが、尖頭器の可能性もある。89は石鏃、90・91は不定形石器、92はチャート質の残核である。93は細部加工が施される剥片、94は使用痕のある剥片である。

<土器>95は大きな波状口縁をもち、口唇部外面と頸部に2列の刻目を有する。体部はタスキ掛け状の入組文が施文されている。96は曲線入組文をもつ体部破片、97は95のような刻目を有する。98は山形の沈線と刻みをもつ。99~102はいずれも羽状縄文が施文される深鉢で、99は突起を有する。101は柱穴内から出土している。

時期 出土遺物と住居跡の形態から、縄文時代後期中葉に属する。

第3号住居跡 (B20住)

遺構 (図10、写真図版5)

<位置>調査区中央部の住居跡が集中する地区の西側B20区に単独である。

<規模・平面形>2.4×2.6mの不整形を呈する。東側にわずかに張り出しを持つ。

<埋土>上位は黒褐色土、下位は暗褐色土が主体で、前者には焼土のブロックを後者には炭化物粒を含む。

<壁>IV層を壁とする。すべて緩く外傾して立ち上がり、壁高は20~36cmである。

<床面>V層を床面とする。ほぼ平坦で、全体が硬くしまる。

<柱穴>5個の柱穴状ピットと14個の壁柱穴が確認された。このうち、主柱穴と思われるものはP P 1~3である。深さは柱穴状ピットで13~59cm、壁柱穴で12~13cmである。

<炉>40×40cmの方形の石囲炉が検出された。各辺に1個ずつ、計4個の偏平な礫を配して構築している。そのすぐ東側には、出入口部に続く40×60cm程度のわずかな窪みを有する。炉内の焼土は直径20cmの円形に形成され、厚さは3~4cmである。

<その他>東側に出入口と思われる約40cmの張り出しを有している。

遺物 (図38、写真図版33)

<出土状況>埋土から土器片、床面からほぼ完形の深鉢が1点出土している。石器は出土していない。

<土器>103はほぼ完形の大木系のプローションをもつ深鉢である。最大径は体部の上位にあり、口縁部はほぼ直立ぎみに立ち上がる。104は粗製深鉢の口縁部破片である。

時期 出土した遺物から、縄文時代中期後葉から末葉にかけての時期と考えられる。

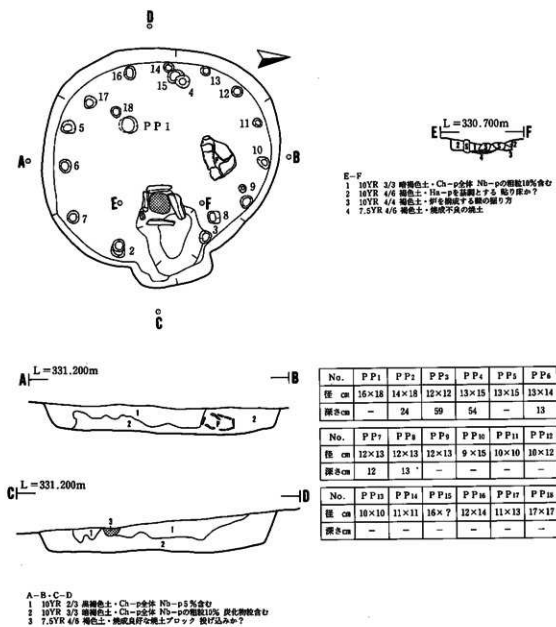


図10 第3号住居跡

第4号住居跡 (B21住)

遺構 (図11、写真図版6)

<位置・重複> 調査区中央部の住居跡が集中する地区の最も西側 (B21区) に位置する。第3号住居跡とは2mほどの距離がある。西側で第12号土坑と切り合うが、土坑の方が新しい。

<規模・平面形> 調査の状況から、おそらく円形を呈すると思われる。精査できた部分は、全体のおよそ3分の1～4分の1程度であろう。現況から、直径5.3～5.5mぐらいの規模と推定される。

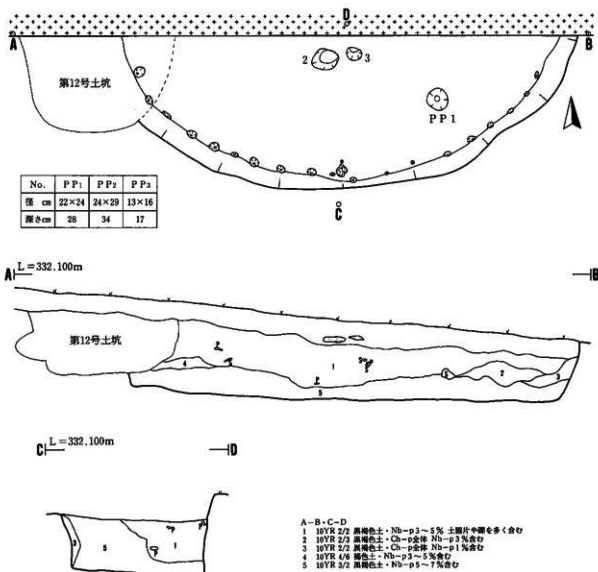


図11 第4号住居跡

<埋土>黒褐色土を主体とするが、中位に小礫を多く含む。地山の崩落土と思われる褐色土を層状に含む。
<壁>Ⅲ層・Ⅳ層・Ⅴ層を壁とする。東壁は直立ぎみに外傾して立ち上がり、壁高は46～58cmである。西壁は土坑と重複している。

<床面>Ⅴ層を床面とする。平坦でかつ全体が硬くしまっている。

<柱穴>精査できた範囲では、柱穴状ピット3個と20個あまりの壁柱穴が検出された。このうち、主柱穴はP P 1・2である。深さは柱穴状ピットで28～34cm、壁柱穴で10cm程度である。

<炉>検出されなかった。

遺物 (図39・40、写真図版33・34)

<出土状況>埋土から土器片(後期が主体)・石器類が出土している。

<石器>105は欠損のある磨石、106はいわゆる円盤状石製品である。

<土器>107は床面から出土した透かしのある台付きの浅鉢である。口縁部には瘤が付けられるが、刻みをもつ瘤とそうでない瘤が交互に配されている。透かしは、体部に付される瘤の上下と左右に交互にあげられている。そこを縁取るように平行する数条の沈線が器面全体に描かれている。108も瘤が付く深鉢の体部破片であるが、細い縄文帯上に格子目が付けられている。109はボタン状の瘤が付く、帯状の入組文が展開すると思われる鉢か注口の体部。110は瘤が落ちているが、細い縄文帯上に瘤の付く深鉢の口縁部である。111は縦位の櫛歯状沈線と縄文帯が交互にみられる突起の付く深鉢の口縁部である。112～115は無文の土器である。114・115は丁寧なミガキが施されるが、112・113の深鉢・鉢は、調整が雑で胎土も良くない。115は台付きの注口、114は壺か鉢である。116は口縁部が直立ぎみに立ち上がる壺、117はボタン状の瘤が付く鉢の体部、118は十層内I式あたりの小型の鉢、119は補修孔をもつ後期に属する深鉢の口縁部である。120は三叉文、121は羊歯状文の施される精製土器の口縁部で、122もそのあたりの深鉢の口縁部か。123・124は晩期初頭から中葉あたりの鉢で、123は補修孔がある。125・126はともに注口であるが、125はミニチュア、126は小型のものである。127・128は後期か晩期の粗製深鉢である。

時期 107などの土器や住居跡の形態などから、縄文時代後期中葉から後葉にかけてと考えられる。

第5号住居跡 (B26住)

遺構 (図12、写真図版7)

<位置・重複>調査区中央部の住居群の西側20～25mのB26区に位置する。第14号土坑と重複しており、南東壁を土坑に切られている。

<規模・平面形>直径約3.2mの不整形を呈する。北壁はわずかに調査区域外に延びている。

<埋土>暗褐色土が主体で、部分的に焼土がからむ黒褐色土がみられる。まばらにロームブロック・炭化物粒を含む。

<壁>Ⅲ層を壁とする。すべて直立ぎみに外傾して立ち上がる。壁高は13～16cmである。

<床面>Ⅳ層を床面とする。ほぼ平坦であるが、中央部から東側が5cm程度高くなる。この部分は貼床だった可能性もある。

<柱穴>柱穴状ピットが4個確認されたが、いずれも主柱穴と思われる。深さは15～35cmである。

<炉>土器埋設炉が1基検出された。深鉢が埋め込まれ、その周辺には直径約40cm、厚さが6cmの焼土が形成されている。土器は焼土面から下に50cmほどの掘り方を伴って埋設されている。

遺物 (図41、写真図版34)

<出土状況>埋土から土器片数点と土器埋設炉の深鉢1点、その埋設土器内から石器が出土している。

<石器>129は上記の剣片で1点のみ出土した。

<土器>130・131は円筒下層d 2式に相当する深鉢の破片で、ともに短い口縁部と体部の境に刺突が走り、体部には本目状捺糸文が施される。132は伊の埋設土器で、円筒上層a～b式に相当するものと思われる。垂下する隆帯と口縁部およびそれと体部を分ける部分の隆帯上には、爪形の摺紐匠痕がみられる。押しされたためか、一見半截竹管によるものように見える。体部は結束のある羽状縄文が施されている。

時期 出土した土器から、縄文時代前期末から中期初頭にかけてのものと考えられる。

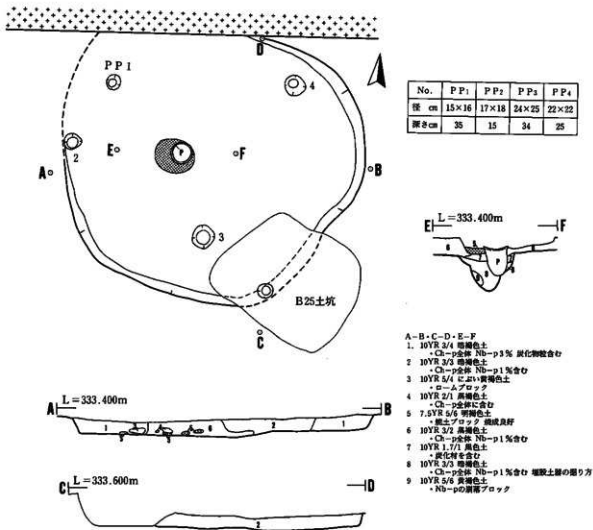


図12 第5号住居跡

第6号住居跡（C19住）

遺構（図13・14、写真図版8）

＜位置＞調査区中央部の住居群内にあり、第1号住居跡の西約1m、第2号住居跡の南東約0.5mに位置する。

＜規模・平面形＞直径4.2mの円形を呈する。

＜埋土＞黒褐色土を基調とし、壁際に崩落土と思われる褐色土や暗褐色土を含む。

＜壁＞Ⅲ層・Ⅳ層を壁とする。西壁が緩く外傾するほかは、すべて直立ぎみに立ち上がる。壁高は24～66cmである。

＜床面＞Ⅴ層を床面とする。ほぼ平坦であるが、部分的にわずかな凹凸がみられる。

＜柱穴＞柱穴状ピット・壁柱穴とも20個あまりが検出されたが、後者の中には木根の可能性の高いものもある。前者の深さは22～44cm、後者は9～18cmである。主柱穴は、炉の両脇のPP2・3とPP1・4・5と考えられ、柱穴配置は方形で、その中心付近に1個が配されるものか。

＜炉＞住居跡の南東壁寄りに、60×80cmの石囲いに直径1mの前庭部を伴う複式炉が1基検出された。石囲いの部分は10～40cmほどの隙が20個あまり用いられているが、小さい隙は2重にして大きい隙と大きさをあわせているようである。前庭部は硬くしまり、その上方の石囲い寄りには、一部数個の隙が配されている。石囲い内に焼土は形成されていないが、その西側25cmに厚さ4cm程度の焼土がある。炉との関係は不明である。

遺物（図41～44、写真図版35～37）

＜出土状況＞埋土および床面から土器片・石器類が出土している。土器では、大木系と円筒系の両者が混在して出土している。

＜石器＞133は有茎石鏃、134は大型の横形石匙、135～138は不定形石器、139は使用痕を有する剥片である。140は磨石で凹石としても使用されているもの。141はいわゆる半円状偏平打製石器であるが擦面は明瞭でない。

＜土器・土製品＞142・143は円筒系の深鉢の口縁部で、142は粘土紐とボタン状の突起を特徴とする円筒上層d2式、143は弁状突起部分が粘土紐によって裝飾されるが、体部は3条の平行する沈線による弧状の文様が描かれる。いわゆる円筒上層e式に相当しよう。144～146は大木系の深鉢である。144は波状口縁の頂部に刻みが入り、体部との境に下方からの刺突列が付く。体部は垂下する槽円文が施される。146も同様の体部破片である。145はJ字状になるものと思われる無文帯をもつ鉢の体部で、大木10式ぐらいか。147～149は後期に属するもので、147は十層内I式あたりか。148は後期中葉から後葉、149はタスキ掛け状の文様が櫛歯状工具によって施される後期末葉の深鉢の体部破片である。150～160は深鉢で、160のみ柱穴から出土した。このうち中期の円筒系に属すると思われるものは、152～154である。161は内外面の底に赤色顔料の付着するもの。162はミガキが丁寧な施された深鉢のミニチュア、163は筒形土製品とした。用途は不明である。164は板状土偶で、頭部と左側の腕部・胸部を欠く。左右の乳房をあらわすボタン状の突起の内側は2カ所穿孔されている。文様は、胸部付近から下に櫛歯状工具による沈線が施される。妊娠をあらわすと思われる突起の下には、左右斜めの方向に刺突がみられる。

時期 住居跡に伴う炉の形態および出土遺物の一部から、縄文時代中期末葉のものと考えられる。

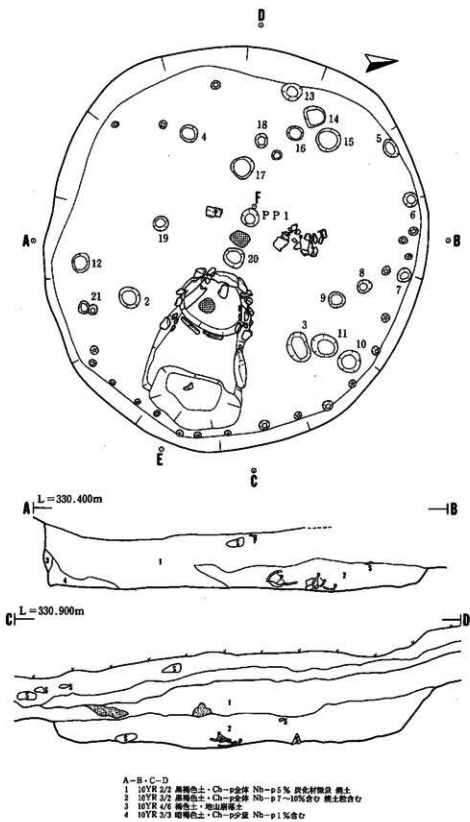
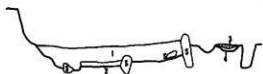


图13 第6号住居跡(1)

E—L=333.100m



E—F

- 1 10YR 3/2 黒褐色土・Ch-p全層 Nb-p ロー-A酸と炭化物粒をまばらに含む
- 2 10YR 4/4 褐色土・灰の崩壊部埋土
- 3 7.5YR 4/6 褐色土・段地性灰土
- 4 10YR 2/2 黒褐色土・粘り灰か?

No.	PP1	PP2	PP3	PP4	PP5	PP6
径 cm	19×19	22×22	22×32	18×18	15×20	15×16
深さ cm	22	44	35	24	25	-

No.	PP7	PP8	PP9	PP10	PP11	PP12
径 cm	15×15	14×16	17×18	24×24	24×28	18×20
深さ cm	-	22	24	-	-	2

No.	PP13	PP14	PP15	PP16	PP17	PP18
径 cm	18×22	22×22	26×26	15×18	24×25	13×16
深さ cm	-	5	5	5	4	-

No.	PP19	PP20	PP21
径 cm	16×16	22×22	12×13
深さ cm	5	3	17

図14 第6号住居跡(2)

第7号住居跡(C20住)

遺構(図15、写真図版9)

<位置>調査区中央部の住居群の南側にあり、ほぼ半分は調査区域外に延びる。第3号住居跡の南約1.5mに位置する。

<規模・平面形>直径3.1mの不整形円形を呈すると思われる。

<埋土>黒褐色土を基調とし、下位に南部浮石粒の崩落ブロックを多く含む。III層起源の黄褐色土のブロックや褐色土を壁際を含む。

<壁>II層・III層を壁とし、直立ぎみに立ち上がる。壁高は26~36cmである。

<床面>IV層を床面とする。東にわずかに傾斜し、細かい凹凸がみられる。

<柱穴>主柱穴と思われる柱穴状ピットが2個のみ検出された。深さは17cmと40cmである。

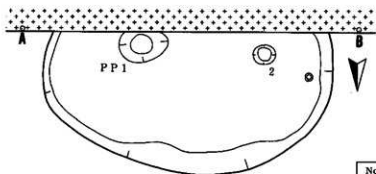
<炉>検出されなかった。

<その他>遺物は出土しておらず、堅穴状遺構としたほうが適切だったかもしれない。

遺物

<出土状況>土器・石器とも出土していない。

時期 不明である。



No.	PP1	PP2
径 cm	7×52	21×24
深さ cm	40	17

A' L = 331.200m



- A-B
- 1 10YR 3/2 黒褐色土
・Ch-p全体 Nb-p5~7%含む
 - 2 10YR 4/4 褐色土
・Ch-p全体 Nb-p10%含む
 - 3 10YR 5/8 黄褐色土・田畑腐熟土
 - 4 10YR 4/6 褐色土・Nb-p腐葉プロット
 - 5 10YR 2/2 黒褐色土
・Ch-p全体 Nb-p3%含む
 - 6 10YR 3/2 黒褐色土
・Ch-p全体 Nb-p5%含む 柱穴の掘り方
 - 7 10YR 4/3 に近い黄褐色土
・Ch-p Nb-pともわずかに含む
 - 8 10YR 3/0 暗褐色土
・Nb-p10%含む

図15 第7号住居跡

第8号住居跡 (K32住)

遺構 (図16・写真図版10)

<位置>調査区南西端のL32区にあり、第3号竪穴状遺構に隣接する。

<規模・平面形>直径3.0mの円形を呈する。

<埋土>上位が黒色土、下位が暗褐色で、ともに中粒径土粒を全体に含んでいる。

<壁>III層・IV層を壁とする。各壁とも緩やかに外傾して立ち上がる。壁高は8~40cmである。

<床面>IV層を床面とする。ほぼ平坦で、硬くしまっている。。

<柱穴>柱穴状ピットが10個あまり検出された。配置は明瞭でない。深さは11~35cmである。主柱穴はP P1~4か。

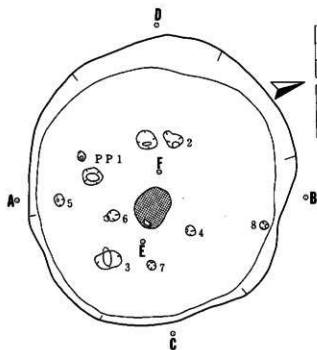
<炉>住居跡中央部に地床炉様の焼土が確認された。33×42cmの規模で、その南東部分に12cmの礫が1個埋め込まれている。立石炉となるものかどうか不明である。

遺物 (図45、写真図版37)

<出土状況>埋土から土器が数点出土したのみである。

<土器>165は円筒下層d 2式か円筒上層a 式に属する深鉢と思われる口縁部破片、166は櫛歯状の施文具による条線のみられる深鉢の体部、167・168は羽状縄文が施される粗製深鉢である。

時期 出土遺物から、縄文時代前期末葉から中期初頭にかけての時期と考えられる。



No.	PP1	PP2	PP3	PP4	PP5	PP6
径 cm	18×21	15×21	18×27	10×10	10×12	12×13
高さ cm	11	35	13	22	28	24

No.	PP7	PP8
径 cm	9×10	9×10
高さ cm	13	24

L=339.800m
E F
30

E-F
1 10YR 4/6 褐色土・Ch-p全体 Nb-pをわずかに含む 粘土
2 10YR 2/4 暗褐色土・Ch-p全体に含む 細の顆り方



A-B-C-D
1 10YR 2/1 黒色土・Ch-p全体 Nb-p1%含む
2 10YR 3/3 暗褐色土・Ca-p全体 Nb-p3%含む
3 10YR 2/1 褐色土・ロームブロック

図16 第8号住居跡

第9号住居跡 (M31住)

遺構 (図17・写真図版11)

<位置>調査区南西端のM31区にあり、第8号住居跡の南約4.5mに位置する。

<規模・平面形>4.6×5.7mの長楕円形を呈する。

<埋土>上位は黒褐色土、下位は暗褐色土を基調とし、下位ほど炭化物粒の混入が多くなる。黒褐色土中には土器片を多く含む。壁際は、褐色～黄褐色の崩落土がみられる。

<壁>Ⅲ層・Ⅳ層を壁とする。東西壁は緩やかに外傾して立ち上がるが、西壁は崩落が著しい。南北壁は直立ぎみに外傾して立ち上がる。壁高は62～94cmである。

<床面>基本的にⅣ層を床面とするが、一部Ⅴ層の部分もあり、これが貼床の可能性もある。南部浮石層の床のためかしまりはよくないが、全体に平坦である。

<柱穴>柱穴状ピットが7個検出された。主柱穴はP P 1～6の六角形に配置されるものと思われる。それらの深さは26～73cmである。また、P P 1の開口部は大きく、直径約70cmである。

<炉>住居跡中央部に土器埋設炉様の炉1基が検出された。40×70cmの不整形の焼土上に、深鉢の大きな破片がかぶるような形で見つかった。断ち割りをしてみたが、土器を埋め込んだという状況ではない。地床炉としたほうが適切かもしれない。

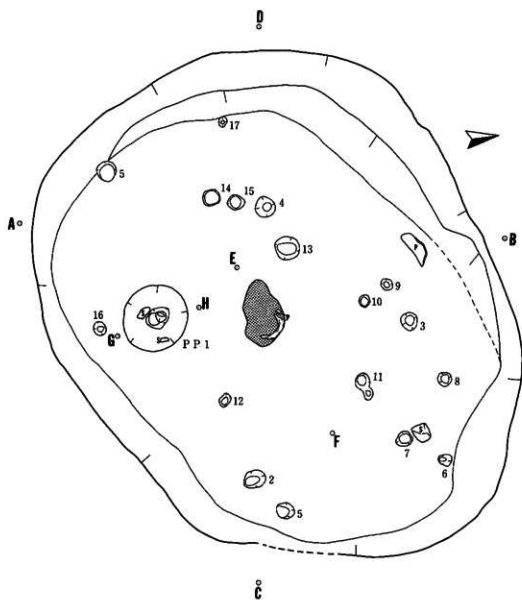
遺物 (図45～47、写真図版37・38)

<出土状況>埋土を主体として、土器・石器とも比較的大量の遺物が出土した。

<石器>169～171はすべて有茎石鏃、172～174は不定形石器、175・176は使用痕を有する刮片である。177は磨石、178は明瞭な加工痕のない石皿である。

<土器>179～181は、すべて円筒上層a式に相当する。179は炉の埋設土器である。横位と縦位の撻紐圧痕、およびそれらなる隆帯によって口縁部が構成される。体部は、複節の斜行縄文と縦位の綾絡文からなるが、一部分のみ歯による横位の条線がみられる。180は短い弁状突起を有し、その突起に向けて山形の撻紐圧痕が付される。以上が上層a 1式。181は弁状突起部分に、外面から内面方向に撻紐圧痕の隆帯を重ねて付けている。ボタン状の突起もあり、179や180よりは新しい上層a 2式に相当しよう。182は口縁部文様帯が体部上位まで下がり、撻紐圧痕の隆帯と棒状工具による刺突を特徴とする円筒上層c式に相当する。183は口縁部には円筒上層c式にみられる平縁で連続する山形の撻紐圧痕隆帯をもち、体部には大木8式にみられる隆縁と沈縁で描かれる渦巻文や曲線文が施されている。184は大木系と思われる深鉢。185も大木7式あたり口縁部に圧痕文を有するもの。186は壺の肩部付近の破片と思われる。187は小型鉢の口縁部である。

時期 炉内の土器 (179) と住居跡の形態から、縄文時代前期末から中期初頭の時期が考えられる。



No.	PP1	PP2	PP3	PP4	PP5	PP6
径 cm	67×70	18×22	17×18	21×21	21×21	12×14
深 cm	70	26	57	58	73	45

No.	PP7	PP8	PP9	PP10	PP11	PP12
径 cm	18×18	15×15	12×12	12×14	14×19	12×15
深 cm	14	22	70	27	14	24

No.	PP13	PP14	PP15	PP16	PP17
径 cm	24×26	17×18	16×18	13×14	9×11
深 cm	14	39	53	11	47

图17 第9号住居跡(1)

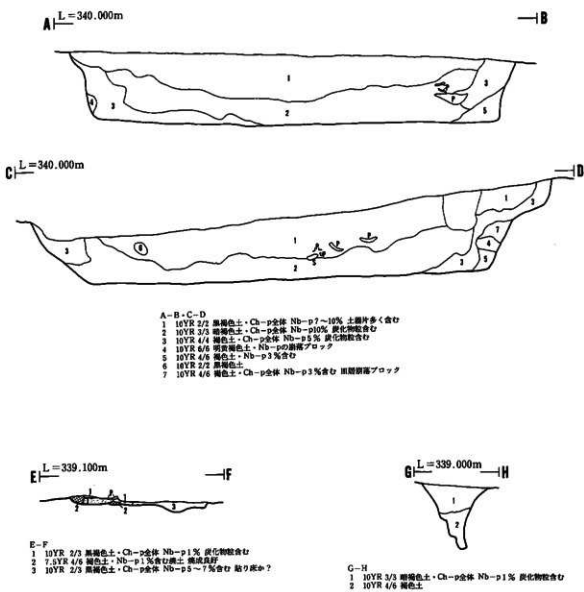


図18 第9号位層跡(2)

2. 竪穴状遺構

小型の竪穴住居跡ほどの規模をもつが、炉が設置されていないものを竪穴状遺構とした。3棟検出されているが、第1号竪穴状遺構以外は出土遺物が少なく、詳細な時期を決定するに至らない。第2号竪穴状遺構については、貯蔵穴などの大型土坑の可能性はある。

第1号竪穴状遺構 (B09竪穴状)

遺構 (図19、写真図版12)

<位置・重複>調査区中央部の西側B09区にある。この付近は、後・晩期を中心とする遺物が出土するが、他の遺構は確認されていない。本遺構は北側の調査区域外に延びていることと、風倒木によると思われる攪乱を受けていることから、全体の規模等は不明な点が多い。

<規模・平面形>平面形は方形を基調とすると思われる。具体的な規模は不明である。

<埋土>炭化物粒を含む褐色土の単層。西側は攪乱を受けていて不明である。

<壁>IV層を壁とする。東壁は立ち上がりが数cmである。壁高は現状で6~50cmである。

<底面>IV層を底面とし、全体にほぼ平坦である。これは、竪穴状遺構とした根拠の1つである。

<柱穴状ピット>壁際に2個検出された。深さはともに25cm程度である。

遺物 (図48、写真図版39)

<出土状況>埋土から、おもに後期と晩期の土器や石器が出土している。

<石器>188は6面に使用痕をもつ薄砥石である。側面に擦面もみられる。

<土器>189・190はいわゆる瘤付の土器で、189は十腰内IV群に、190は十腰内V群に相当するものと思われる。189は壺で、口縁部は細い縄文帯と無文帯からなり、体部は入組帯状文が施される。瘤は尖らず、横方

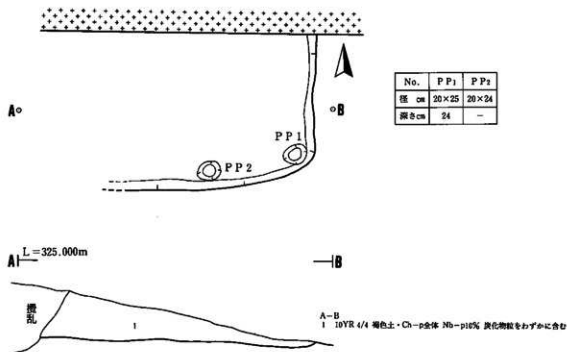


図19 第1号竪穴状遺構

向に刻みが入っている。190は先端の尖る層が口唇部以下に付される。体部中央に最大径をもち、その文様は曲線帯状文である。191は鉢の底部付近、192は本体から欠落した注口部、193と194は同一個体と思われる注口土器で、入組三叉文が施されている。

時期 出土した土器は、縄文時代後期末葉と晩期前葉であり、遺構の時期もそのあたりと考えられるが、詳細は不明である。

第2号壺状遺構（B23壺状）

遺構（図20、写真図版13）

<位置>調査区中央部の住居跡群の西側B23区に位置する。

<規模・平面形>2.3×2.6mの楕円形を呈する。

<埋土>黒褐色土を主体とし、壁際から中央に向かって暗褐色土が入り込む。

<壁>Ⅲ・Ⅳ層を壁とする。すべて直立ぎみに外傾して立ち上がる。壁高は32～43cmである。

<底面>Ⅳ層を底面とし、全体にほぼ平坦で、硬くしまる。

<柱穴状ピット>中央に深さ10cmほどの柱穴状ピットが1個検出された。このことから、貯蔵穴に類する大型土坑であった可能性も考えられる。

遺物（図48、写真図版39）

<出土状況>埋土からわずかに土器片が出土している。

<土器>195は口縁部に撚紐瓦痕、体部に木目状撚糸文が施され、その境には連続した刺突が巡る鉢である。円筒下層d 2式相当と思われる。

時期 出土遺物から縄文時代前期末葉あたりの時期が想定されるが、詳細は不明である。

第3号壺状遺構（L32壺状）

遺構（図20、写真図版14）

<位置>調査区南西端のL32区付近にあり、第8号住居跡に隣接する。

<規模・平面形>直径2.2mの円形を呈する。

<埋土>上位の中心部は黒色土、上位の壁際から下位にかけては暗褐色土である。炭化物等は含まれない。

<壁>Ⅲ層を壁とする。すべて緩く外傾して立ち上がる。壁高は12～36cmである。

<底面>Ⅲ層を底面とし、全体にほぼ平坦でしまっている。

<柱穴状ピット>検出されていない。

遺物（図48、写真図版39）

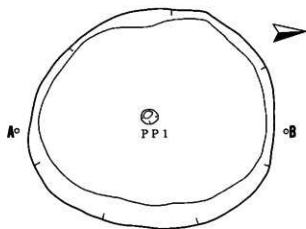
<出土状況>埋土から土器片・石器がわずかに出土した。

<石器>196は細部加工剥片である。

<土器>197は円筒上層a 2式の深鉢の口縁部である。

時期 出土遺物からは縄文時代中期初頭の時期が考えられるが確定できない。

第2号整穴状



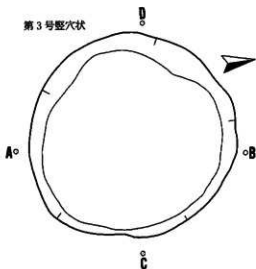
No.	PP1
径 cm	14×18
深 cm	10



A-B

- 1 10YR 2/3 黒褐色土・Ch-p全体 Nb-p5~7%含む
- 2 10YR 3/4 暗褐色土・Ch-p全体 Nb-p3%
- 3 10YR 3/3 暗褐色土・Nb-pをわずかに含む
- 4 10YR 3/2 黒褐色土・木炭ブロック

第3号整穴状



A-B・C-D

- 1 10YR 2/1 黒色土・Ch-p全体 Nb-p1%含む
- 2 10YR 3/3 暗褐色土・Ch-p全体 Nb-p3%含む
- 3 10YR 3/4 暗褐色土・田畑腐土

図20 第2号・第3号整穴状遺構

3. 土坑

縄文時代に属する土坑を中心に33基検出されている。それ以外の時期の土坑は5基で、詳細な時期は不明であるが、このうち4基については縄文時代に属する可能性がある。

本ページ以降の表2に規模・形状等についてまとめた表を掲載した。各土坑の所属時期や出土遺物の詳細についてもそれに示した。

ここでは、検出された33基の土坑群のおもな特徴について簡単に記述する。

33基の土坑のうち、平面形が円形を基調とするものは23基で、長方形基調のものは10基である。円形のものうち、断面がフラスコ形の土坑は4基で、第26・27号土坑からは炭化堅果類が出土している。これらは、貯蔵穴に類する用途をもつ土坑であろう。

その他には、第2・22・25号のように、土坑の埋土上部に大型の礫が1個から数個置かれているものがある。平面形は円形のもの2基、長方形のもの1基で、これらは基壇であった可能性がある。特に第2号土坑では、その直下に礫の広がりよりも大きい焼土が形成され、その後柱穴状のピットが掘られた痕跡が認められた。このことは、この土坑内において火の使用があったことを示しているが、土壌中から骨片等は出土しなかった。断言はできないが、火葬墓であった可能性も考えられる。なお遺物を伴っており、時期は前期末葉と考えられる。この他、第7・8・10号土坑のように底面の一部に周溝を有するもの、第2・21・23土坑のごとく柱穴状のピットを伴う例もある。

これらの土坑群の時期は、出土遺物から縄文時代前期末葉と後・晩期が主体となるものと考えられる。

表2 土坑観察表

※()内は旧遺構名

遺構名	第1号土坑(B12土坑)				遺構名	第2号土坑(B13土坑)				遺構名	第3号土坑(B14土坑-1)			
図版	遺構	21	遺物	49	図版	遺構	21	遺物	49	図版	遺構	21	遺物	49
写真図版	遺構	15	遺物	40	写真図版	遺構	15	遺物	40	写真図版	遺構	15	遺物	40
位置	B12区				位置	B13区、C13区				位置	B14区、C14区			
検出状況・重複関係					検出状況・重複関係	5個の扁平な礫を伴って検出された。墓塚の可能性が高い。				検出状況・重複関係				
形状	平面形	長楕円形			形状	平面形	楕円形			形状	平面形	円形		
断面形	皿状				断面形	皿状				断面形	フラスコ状			
規模	開口部径	151×312			規模	開口部径	158×189			規模	開口部径	91×92		
底部径	111×282				底部径	148×181				底部径	108×110			
深さ	34				深さ	6~18				深さ	43			
埋土	暗褐色土の単層で、Ch-p、Nb-p含む。褐色土が混入する。				埋土	Ch-pを含む黒褐色土が主体で、Nb-p、焼土粒を少量含む。				埋土	Ch-pを含む黒色土を主体とし、Nb-p、炭化物粒を少量含む。			
底面	ほぼ平坦				底面	わずかに傾斜				底面	ゆるやかに傾斜			
壁	緩やかに外傾				壁	崩落部分あり				壁	内彎して外反			
副穴	なし				副穴	有(1個) 深さ30cm				副穴	なし			
出土遺物	土器片数十点(前期~後期) 198は磨盤圧痕、刺突の施される深鉢口縁部。				出土遺物	前期の土器片数十点ほか 199は半円状扁平石器、200・201は前期円筒下層d式の深鉢。				出土遺物	土器片数十点(前期~後期) 202は磨石、203は円筒上層c式の深鉢。			
時期	縄文時代?				時期	縄文時代				時期	縄文時代			

遺構名	第4号土坑(B14土坑-2)			遺構名	第5号土坑(B14土坑-3)			遺構名	第6号土坑(B14土坑-4)			
図版	遺構	21	遺物	図版	遺構	21	遺物	図版	遺構	22	遺物	50
写真図版	遺構	15	遺物	写真図版	遺構	16	遺物	写真図版	遺構	16	遺物	40
位置	B14区、C14区			位置	B14区			位置	B14区			
検出状況・重複関係				検出状況・重複関係				検出状況・重複関係	北側が調査区域外へ延びる			
形状	平面形	楕円形		形状	平面形	不整形		形状	平面形	長楕円形と思われる		
断面形状	逆台形状			断面形状	逆台形状			断面形状	ビーカー状			
開口部径	95×128			開口部径	126×144			開口部径	88× ?			
底部径	63×98			底部径	106×132			底部径	74× ?			
深さ	31			深さ	42			深さ	43~48			
埋土	Ch-p、Nb-pを含む黒褐色土の単層で、角礫多数、土層片を含む。			埋土	Ch-p、Nb-pを含む黒褐色土を主体とする。			埋土	Ch-p、Nb-pを含む黒褐色土を主体とする。			
底面	やや丸味をもつ			底面	平坦			底面	ほぼ平坦			
壁	外傾			壁	ゆるやかに外傾			壁	ほぼ直立			
副穴	なし			副穴	なし			副穴	調査区内ではなし			
出土遺物	前期、中期の土器片十数点			出土遺物	土器片十数点(後期)			出土遺物	土器片十数点(後・晩期) 204はチャート質の石核、205は浅鉢の口縁部			
時期	縄文時代			時期	縄文時代			時期	縄文時代			

遺構名	第7号土坑(B14土坑-5)			遺構名	第8号土坑(B14土坑-6)			遺構名	第9号土坑(B15土坑)					
図版	遺構	22	遺物	50	図版	遺構	22	遺物	50	図版	遺構	22	遺物	50・51
写真図版	遺構	16	遺物	40	写真図版	遺構	16	遺物	40	写真図版	遺構	17	遺物	41
位置	B14区			位置	B15区			位置	B14区、B15区					
検出状況・重複関係	第9号土坑を切る。			検出状況・重複関係	第9号土坑を切る。墓塚か？			検出状況・重複関係	第7・8号土坑に切られる。					
形状	平面形	円形		形状	平面形	長方形		形状	平面形	円形				
断面形状	逆台形状と思われる。			断面形状	逆台形状			断面形状	皿状					
開口部径	86× ?			開口部径	82× ?			開口部径	137×140					
底部径	52× ?			底部径	66× ?			底部径	111×113					
深さ	20			深さ	19~31			深さ	45					
埋土	Ch-pを含む黒褐色土で、Nb-pを少量含む。			埋土	Ch-pを含む黒褐色土の単層。Nb-pを少量含む。			埋土	Ch-pを含む黒褐色土を主体とし、Nb-pをわずかに含む。炭、炭化物粒を含む。					
底面	ゆるやかに傾斜する。周溝をもつ。			底面	平坦。周壁にのみ周溝をもつ。			底面	ほぼ平坦					
壁	外傾			壁	外傾			壁	ゆるやかに外傾					
副穴	なし			副穴	なし			副穴	なし					
出土遺物	土器片3点(後期)・残核 206は香炉形土器の一部か？			出土遺物	土器片十数点 207は深鉢の口縁部。			出土遺物	上~中位に土器片十数点(後・晩期) 208は陶器石環、209は石環、211は磁石、212は中円状磁石。土層は213~220まで。214・215は大木灰か？ 220は香炉形土器の破片と思われる。					
時期	縄文時代			時期	縄文時代			時期	縄文時代					

遺構名	第10号土坑 (B16土坑)			遺構名	第11号土坑 (B21土坑)			遺構名	第12号土坑 (B22土坑-1)				
図版	遺構	22	遺物	図版	遺構	22	遺物	51	図版	遺構	23	遺物	51
写真図版	遺構	17	遺物	写真図版	遺構	17	遺物	41	写真図版	遺構	17	遺物	41
位置	B15区、C15区			位置	B21区、B22区			位置	B21区、B22区				
検出状況・重複関係	第18号土坑に切られる。			検出状況・重複関係				検出状況・重複関係	第4号住居跡を切る。北側は調査区域外に延びる。				
形状	平面形	長方形		形状	平面形	円形		形状	平面形	円形と思われる			
断面形状	逆台形状			断面形状	逆台形状			断面形状	ビーカー状				
規模	開口部径	91×?		開口部径	95×96			開口部径	158×?				
	底部径	75×?		底部径	81×82			底部径	108×?				
	深さ	16~22		深さ	20~25			深さ	53~68				
埋土	Ch-pを含む黒褐色土の単層からなる。Nb-pをわずかに含む。			埋土	Ch-pを含む黒褐色土を主体とし、Nb-pを少量含む。上位に炭化物粒を少量含む。			埋土	Ch-pを含む黒褐色土を主体とする。Nb-pを少量、下位に地山崩落土を含む。				
底面	平坦			底面	ほぼ平坦			底面	ほぼ平坦				
壁	外傾			壁	外傾			壁	直立して外傾				
副穴	北壁に周溝状のもの有(16×24cm、深さ約17cm)			副穴	なし			副穴	なし				
出土遺物	土器の細片十数点			出土遺物	後期の土器片数点			出土遺物	土器片数十点(前期~後期)				
時期	縄文時代			時期	縄文時代			時期	縄文時代				

遺構名	第13号土坑 (B22土坑-2)			遺構名	第14号土坑 (B25土坑)			遺構名	第15号土坑 (B14土坑-1)			
図版	遺構	23	遺物	図版	遺構	23	遺物	図版	遺構	23	遺物	51・52
写真図版	遺構	18	遺物	写真図版	遺構	18	遺物	写真図版	遺構	18	遺物	42
位置	B22区、B23区			位置	B25区			位置	C14区			
検出状況・重複関係	北側が調査区域外へ延びる			検出状況・重複関係	第5号住居跡を切る。			検出状況・重複関係	南側が調査区域外へ延びる			
形状	平面形	円形と思われる		形状	平面形	長方形		形状	平面形	不整形円形と思われる		
断面形状	ビーカー状			断面形状	逆台形状			断面形状	皿状			
規模	開口部径	113×?		開口部径	108×136			開口部径	195×?			
	底部径	98×?		底部径	88×106			底部径	85×?			
	深さ	43~56		深さ	20~28			深さ	66			
埋土	Ch-pを含む黒褐色土が主体。Nb-p、炭化材をわずかに含む。			埋土	暗褐色土の単層で、Ch-p、炭化物粒を含む。Nb-pを少量含む。			埋土	Ch-p、Nb-pを含む黒褐色土を主体とし、下位に砂利層が崩落した層を含む。			
底面	平坦			底面	平坦			底面	ほぼ平坦			
壁	ほぼ直立			壁	外傾			壁	外傾			
副穴	なし			副穴	なし			副穴	調査区内ではなし			
出土遺物				出土遺物	土器片数十点			出土遺物	土器片数十点(前期~後期が中心) 227・228は前期末、229・232は粗製深鉢、230は晩期の浅鉢? 231は弥生か?			
時期	縄文時代と思われる			時期	縄文時代?			時期	縄文時代			

遺構名	第16号土坑(C14土坑-2)			遺構名	第17号土坑(C15土坑-1)			遺構名	第18号土坑(C15土坑-2)				
図版	遺構	23	遺物	図版	遺構	24	遺物	52	図版	遺構	22	遺物	53
写真図版	遺構	18	遺物	写真図版	遺構	19	遺物	42	写真図版	遺構	19	遺物	43
位置	C14区			位置	B15区、C15区			位置	C15区				
検出状況・重複関係	南側が調査区域外へ延びる			検出状況・重複関係				検出状況・重複関係	第10号土坑を切る。				
形	平面形	円形と思われる		形	平面形	不整形円形		形	平面形	円形			
状	断面形	フラスコ状		状	断面形	逆台形状		状	断面形	皿状			
規模	開口部径	117×?		開口部径	167×203		開口部径	162×169					
	底部径	128×?		底部径	129×150		底部径	132×144					
	深さ	33		深さ	43~47		深さ	27					
埋土	上位はCh-p、Nb-pをわずかに含む黒褐色土。下位はCh-p、Nb-pを含む暗褐色土を主体とする。			埋土	Ch-pを含む黒褐色土を主体とし、Nb-pを少量含む。			埋土	Ch-p、Nb-pをわずかに含む黒色土を主体とする。礫を含む。				
底面	ほぼ平坦			底面	やや傾斜			底面	ゆるやかに傾斜				
壁	内壁して外傾			壁	外傾			壁	外傾				
副穴	調査区内ではなし			副穴	なし			副穴	なし				
出土遺物	土器片数十点			出土遺物	土器片百点余(中期~晩期) 233・235・238・244は晩期、239~241は後期、他は後・晩期の粗製深鉢。			出土遺物	土器片数十点(中期末~後期) 245は前期末の深鉢。				
時期	縄文時代			時期	縄文時代			時期	縄文時代				

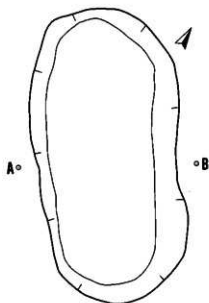
遺構名	第19号土坑(C16土坑-1)			遺構名	第20号土坑(C16土坑-2)			遺構名	第21号土坑(C16土坑-3)				
図版	遺構	24	遺物	53	図版	遺構	24	遺物	図版	遺構	24	遺物	53
写真図版	遺構	19	遺物	43	写真図版	遺構	19	遺物	写真図版	遺構	20	遺物	43
位置	C16区			位置	C16区			位置	C16区				
検出状況・重複関係				検出状況・重複関係				検出状況・重複関係	南側が調査区域外へ延びる				
形	平面形	円形		形	平面形	円形		形	平面形	円形と思われる			
状	断面形	ビーカー状		状	断面形	逆台形状		状	断面形	逆台形状			
規模	開口部径	86×104		開口部径	84×89		開口部径	87×?					
	底部径	68×74		底部径	60×69		底部径	70×?					
	深さ	33~49		深さ	20~28		深さ	20~28					
埋土	Ch-p、Nb-pを含む黒色土、黒褐色土を主体とする。			埋土	Ch-pを含む黒褐色土			埋土	Ch-pを含む黒褐色土を主体とする。Nb-pをわずかに含む。				
底面	ほぼ平坦			底面	傾斜あり			底面	平坦				
壁	直立して外傾			壁	外傾			壁	外傾				
副穴	なし			副穴	なし			副穴	調査区内に1個(深さ約12cm)				
出土遺物	土器片数点(後期?) 246は深鉢の底部。			出土遺物				出土遺物	247はミニチュアで、LR縄文のみ施文される。				
時期	縄文時代			時期	縄文時代?			時期	縄文時代?				

遺構名			第22号土坑(C16土坑-4)			遺構名			第23号土坑(C16土坑-5)			遺構名			第24号土坑(C17土坑)		
図版	遺構	24	遺物	53	図版	遺構	24	遺物		図版	遺構	25	遺物				
写真図版	遺構	20	遺物	43	写真図版	遺構	20	遺物		写真図版	遺構	20	遺物				
位置	C16区				位置	C15区、C16区				位置	C17区						
検出状況・重複関係	大形の扁平な鏝を伴って検出された。墓塚の可能性が高い。				検出状況・重複関係					検出状況・重複関係	第1号住居跡の床面で検出。第1号住居跡より古いと思われる。形状から墓塚か？						
形状	平面形状	長楕円形			形状	平面形状	円形			形状	平面形状	長方形					
	断面形状	皿状			形状	断面形状	ピーカー状			形状	断面形状	逆台形状					
規模	開口部径	75×136			規模	開口部径	104×120			規模	開口部径	72×158					
	底部径	66×110			規模	底部径	90×105			規模	底部径	40×123					
	深さ	13			規模	深さ	35			規模	深さ	24					
埋土	Ch-pを含む黒褐色土の単層で、Nb-p、炭化物粒を少量含む。中央部に30×25cm程度の鏝を伴う。				埋土	Ch-pを含む黒褐色土を主体とする。Nb-pを少量含む。				埋土	Ch-pを含む黒褐色土の単層で、Nb-p、炭化物粒を少量含む。						
底面	平坦				底面	やや丸味を帯びる				底面	やや丸味を持つ						
壁	外傾				壁	やや外傾				壁	外傾						
副穴	なし				副穴	有(1個) 深さ19cm				副穴	なし						
出土遺物	土器片数点(後期) 248・249はともに後期で、249は羽状縄文が施される。				出土遺物					出土遺物							
時期	縄文時代後期				時期	不明				時期	縄文時代中期末以前						

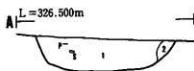
遺構名			第25号土坑(C18土坑)			遺構名			第26号土坑(C21土坑)			遺構名			第27号土坑(C22土坑)		
図版	遺構	25	遺物	53	図版	遺構	25	遺物	53	図版	遺構	25	遺物	53			
写真図版	遺構	21	遺物	43	写真図版	遺構	21	遺物	43	写真図版	遺構	21	遺物	43			
位置	C18区				位置	C21区				位置	C22区						
検出状況・重複関係	南側に調査区域外に延びる。鏝を伴っており、墓塚の可能性がある。				検出状況・重複関係					検出状況・重複関係							
形状	平面形状	円形と思われる			形状	平面形状	円形			形状	平面形状	円形					
	断面形状	皿状			形状	断面形状	フラスコ状			形状	断面形状	皿状					
規模	開口部径	115× ?			規模	開口部径	129×138			規模	開口部径	119×129					
	底部径	99× ?			規模	底部径	144×149			規模	底部径	98×107					
	深さ	30			規模	深さ	76			規模	深さ	13~22					
埋土	上位は黒色土、下位はCh-pを含む黒褐色土からなり、Nb-p、炭化物粒を少量含む。				埋土	Ch-pを含む黒褐色土、暗褐色土、褐色土からなり、Nb-pを少量含む。下部に炭化剤と焼山の崩落ブロックを含む。				埋土	黒褐色土の単層で、Nb-p、Ch-pをわずかに含む。						
底面	ほぼ平坦				底面	ほぼ平坦				底面	やや傾斜						
壁	外傾				壁	内彎して外反				壁	緩やかに外傾						
副穴	調査区内にはなし				副穴	なし				副穴	なし						
出土遺物	土器片数十点 250は細部加工刺片、251は磨石、252は羽状縄文の鏝跡。				出土遺物	土器片数十点(前期~後期)と炭化堅果類(オニグルミ) 256~258で、256は弁状突起?のある深鉢。258は無節L。				出土遺物	土器片数点(後期)と炭化堅果類(クリ) 259は晩期の竝で突起をもつ。						
時期	縄文時代				時期	縄文時代				時期	縄文時代						

遺構名 第28号土坑(C24土坑)				遺構名 第29号土坑(C25土坑)				遺構名 第30号土坑(D30土坑-1)						
図版	遺構	25	遺物	53	図版	遺構	25	遺物	53	図版	遺構	26	遺物	54
写真図版	遺構	21	遺物	43	写真図版	遺構	22	遺物	43	写真図版	遺構	22	遺物	43
位置	C24区			位置	E25区、C25区			位置	D30区					
検出状況・重複関係	新期の柱穴状土坑に切られる。			検出状況・重複関係				検出状況・重複関係	北西側が一部調査区域外に延びる。					
形状	平面形	不整形円形		形状	平面形	不整形円形		形状	平面形	円形				
断面形	皿状			断面形	皿状			断面形	逆台形状					
規	開口部径	97×152		規	開口部径	63×109		規	開口部径	139×150				
模	底部径	82×137		模	底部径	52×93		模	底部径	128×130				
様	深さ	15		様	深さ	9		様	深さ	35~47				
埋土	Ch-pを含む黒褐色土の単層。Nb-pを少量含む。			埋土	Ch-pを含む黒褐色土と暗褐色土からなる。			埋土	Ch-pを含む黒褐色土を主体とする。Nb-pを少量含む。					
底面	緩やかに傾斜する			底面	ほぼ平坦			底面	平坦					
壁	外傾			壁	ゆるやかに外傾する			壁	外傾					
副穴	なし			副穴	なし			副穴	なし					
出土遺物	土器片数十点(前期末・後期) 260は粘土紐の貼り付けられた口縁部破片。			出土遺物	土器片2点(晩期) 261は晩期中葉の鉢。			出土遺物	土器片20点余(後期) 262は沈線による区画文、263は網目状襷糸文が施される。					
時期	縄文時代			時期	縄文時代			時期	縄文時代後期					

遺構名 第31号土坑(D30土坑-2)				遺構名 第32号土坑(E29土坑)				遺構名 第33号土坑(J30土坑)						
図版	遺構	26	遺物		図版	遺構	26	遺物		図版	遺構	26	遺物	54
写真図版	遺構	22	遺物		写真図版	遺構	22	遺物		写真図版	遺構	22	遺物	43
位置	D30区			位置	D30区			位置	J31区					
検出状況・重複関係				検出状況・重複関係	新期の擾乱を受けている。			検出状況・重複関係						
形状	平面形	円形		形状	平面形	円形		形状	平面形	円形				
断面形	皿状			断面形	浅ビーカー状(フラスコ状?)			断面形	皿状					
規	開口部径	99×104		規	開口部径	127×143		規	開口部径	166×175				
模	底部径	72×80		模	底部径	124×130		模	底部径	89×99				
様	深さ	12~21		様	深さ	42		様	深さ	49				
埋土	Ch-pを含む黒褐色土を主体とする。Nb-pを少量含む。			埋土	黒褐色土、暗褐色土が主体で、Ch-pを含む。Nb-p、炭化物粒を少量含む。			埋土	黒~黒褐色土で、Ch-pを含む。Nb-pを少量含む。					
底面	ほぼ平坦			底面	平坦			底面	ほぼ平坦だが、丸みを帯びている。					
壁	外傾			壁	直立と、わずかに内傾			壁	外傾					
副穴	なし			副穴	なし			副穴	なし					
出土遺物	土器片4点(前期・後期)			出土遺物	土器片8点(前期初頭が中心)			出土遺物	土器片5点(晩期) 264は晩期末の浅鉢か広口壺。					
時期	縄文時代			時期	縄文時代前期			時期	縄文時代晩期					

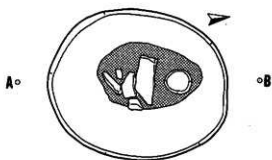


第1号土坑



第1号土坑

- 1 10YR 3/4 暗褐色土・Ch-p全体 Nb-p10%含む
- 2 7.5YR 4/6 褐色土・Ch-p全体 Nb-p3%含む 堆山崩落土

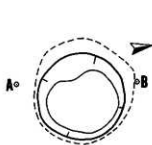


第2号土坑

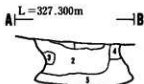


第2号土坑

- 1 10YR 3/2 黄褐色土・Ch-p全体 Nb-p3% 焼土粒含む
- 2 10YR 3/3 黄褐色土・Ch-p全体 Nb-p3%含む 山崩崩落土
- 3 10YR 4/8 赤褐色土・焼成良好な焼土
- 4 10YR 2/1 黒色土・焼土が作られた後埋められた柱穴

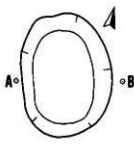


第3号土坑

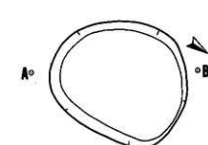
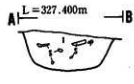


第3号土坑

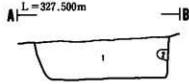
- 1 10YR 2/2 黄褐色土・Ch-p全体 Nb-p3%含む
- 2 10YR 2/1 褐色土・Ch-p全体 Nb-p10%含む
- 3 10YR 4/4 褐色土・Ch-p全体 Nb-p3%含む
- 4 10YR 2/2 黄褐色土・Ch-p全体 Nb-p1%含む
- 5 10YR 2/1 褐色土・Ch-p全体 Nb-p5% 黄化物を含む



第4号土坑



第5号土坑



第4号土坑

- 1 10YR 2/2 黄褐色土・Ch-p全体 Nb-p15%内砂多量含む

第5号土坑

- 1 10YR 2/3 黄褐色土・Ch-p全体 Nb-p20%含む
- 2 10YR 5/6 黄褐色土・堆山崩落土

图21 土坑(1)

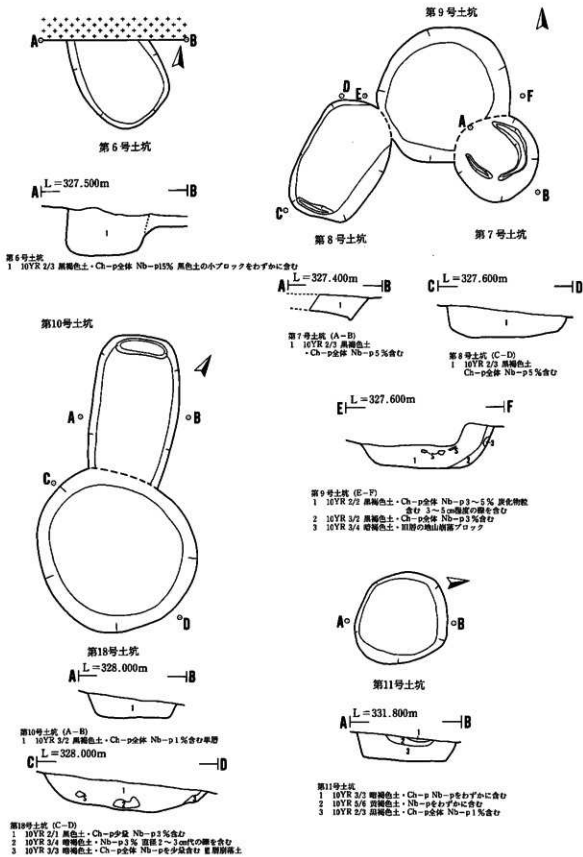


図22 土坑(2)

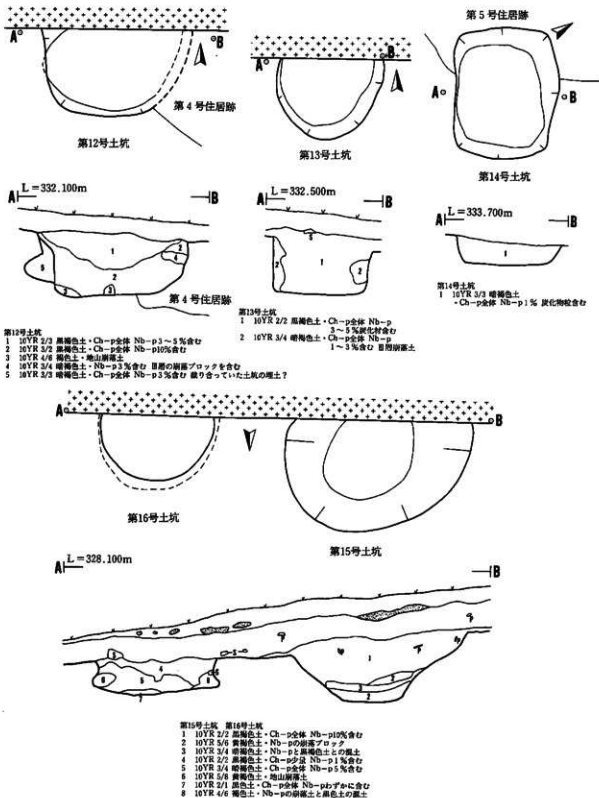
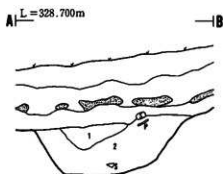


図23 土坑(3)

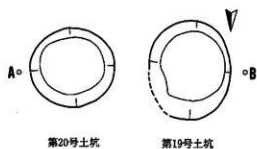


第17号土坑



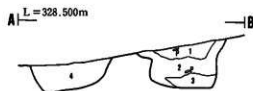
第17号土坑

- 1 10YR 2/3 黑褐色土・Ch-p全体 Nb-p3%含む
- 2 10YR 2/2 黑褐色土・Ch-p全体 Nb-p5~7%含む



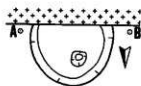
第20号土坑

第19号土坑

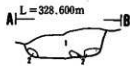


第19号土坑 第20号土坑

- 1 10YR 2/1 黒色土・Ch-pをまばらに・Nb-p3%含む
- 2 10YR 2/3 黑褐色土・Ch-p全体 Nb-p1%含む
- 3 10YR 2/1 黒色土・Ch-pをまばらに・Nb-p1%含む
- 4 10YR 2/2 黑褐色土・Ch-p全体 Nb-p3% 炭化物較少量含む

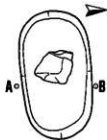


第21号土坑

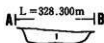


第21号土坑

- 1 10YR 2/2 黑褐色土・Ch-p全体 Nb-p1%含む
- 2 10YR 4/6 褐色土・Ch-p及びNb-pをわずかに含む

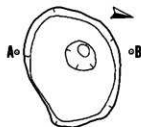


第22号土坑

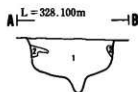


第22号土坑

- 1 10YR 2/2 黑褐色土・Ch-p全体 Nb-p3~5% 炭化物較含む



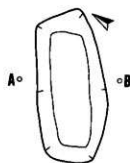
第23号土坑



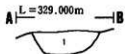
第23号土坑

- 1 10YR 2/3 黑褐色土・Ch-p全体 Nb-p5%含む
- 2 10YR 4/6 褐色土・炭化物多量

图24 土坑(4)



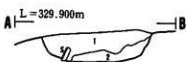
第24号土坑



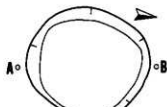
第24号土坑
1 10YR 2/2 黒褐色土・
Ch-p全体 Nb-p1% 炭化物粒を含む



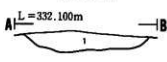
第25号土坑



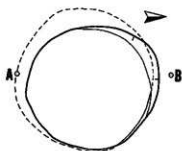
第25号土坑
1 10YR 2/1 黒色土・
Nb-p1% 炭化物粒をまばらに含む
2 10YR 2/3 黒褐色土・
Ch-p全体 Nb-p1% 炭化物粒を含む



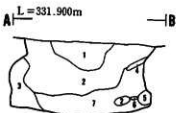
第27号土坑



第27号土坑
1 10YR 2/2 黒褐色土・
Nb-p1% Ch-pわずかに含む



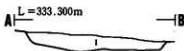
第26号土坑



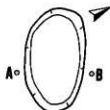
第26号土坑
1 10YR 4/4 褐色土・Ch-p全体 Nb-p5%含む 黒褐色土との混土
2 10YR 2/3 黒褐色土・Ch-p全体 Nb-p7% 炭化物粒を含む
3 10YR 4/4 褐色土・Ch-p全体 Nb-p3% 瓦器～IV期の粘土の混土
4 10YR 4/6 褐色土・Ch-p全体 Nb-p3%含む
5 10YR 4/6 褐色土・地山崩落土
6 10YR 5/6 黄褐色土・Nb-p0%腐葉ブロック
7 10YR 2/3 暗褐色土・Ch-p全体 Nb-p5% 層下部に炭化材を含む



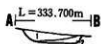
第28号土坑



第28号土坑
1 10YR 2/2 黒褐色土・
Ch-p全体 Nb-pわずかに含む

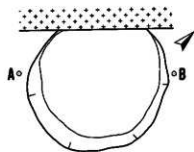


第29号土坑

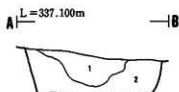


第29号土坑
1 10YR 2/3 黒褐色土・Ch-p全体を含む
2 10YR 3/4 暗褐色土・Ch-p全体を含む

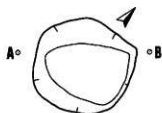
図25 土坑(5)



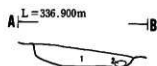
第30号土坑



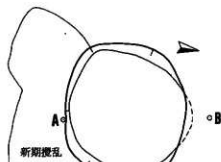
- 第30号土坑
 1 10YR 3/2 黄褐色土・Ch-p全体 Nb-p2%含む
 2 10YR 3/2 黄褐色土・Ch-p全体 Nb-p1%含む



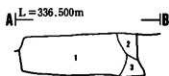
第31号土坑



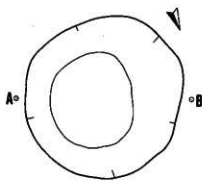
- 第31号土坑
 1 10YR 2/3 黄褐色土・Ch-p全体 Nb-p1%含む
 2 10YR 3/4 暗褐色土・Ch-p全体に含む



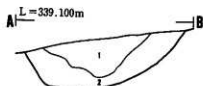
第32号土坑



- 第32号土坑
 1 10YR 2/2 黄褐色土・Ch-p全体 Nb-p1% 炭化物粒をまばらに含む
 2 10YR 2/4 暗褐色土・Ch-p全体 Nb-pをわずかに含む
 3 10YR 2/3 暗褐色土・Ch-p全体 Nb-pの細粒をわずかに含む



第33号土坑



- 第33号土坑
 1 10YR 2/1 黑色土・Ch-p全体 Nb-p3~5%含む
 2 10YR 2/3 黄褐色土・Ch-p全体 Nb-p7%含む

图26 土坑(6)

4. 土器埋設遺構

第1号土器埋設遺構

遺構（図27、写真図版23）

<位置>調査区中央部東側のC13区にあり、墓塚と思われる第2号土坑の東約2mに位置する。農作業用道路の真下にあつて、道路をつくる際に上部を壊されている。

<検出面>Ⅲ層中。

<規模>最大径33cmの深鉢型土器が正立の状態に埋設されている。

<状況>土器の左右に掘り方を伴い、土器の底部と掘り方の底は接している。

遺物（図54、写真図版44）

<土器>265は口縁部が内湾ぎみに立ち上がる深鉢である。器高は38cmである。

<時期>縄文時代後期か晩期に属する。

第2号土器埋設遺構

遺構（図27、写真図版23）

<位置>調査区中央部西側のC26区にあり、これも道路下で検出された。

<検出面>Ⅲ層上面。

<規模>最大径34cmの深鉢型土器が正立の状態に埋設されている。

<状況>土器の左右・底とも、それより比較的大きめの掘り方が確認された。

遺物（図54、写真図版44）

<土器>266は口縁部が外傾しながら直立ぎみに立ち上がる深鉢である。器高は36cmである。

<時期>縄文時代後期か晩期に属する。

5. 炉跡

ここで取り上げる炉跡は、堅穴住居跡に伴っていた可能性があるが、周辺に柱穴など住居跡の痕跡が確認されなかったものである。3基検出されているが、うち2基は石囲土器埋設炉で、残りの1基は石囲炉と思われる。

第1号炉跡

遺構（図27、写真図版23）

<位置>調査区西側のD29区にある。

<規模・種類>直径約50cmの円形の石囲炉で、炉内に鉢型土器が埋設されている。

<構成層>10~20cmほどの10個の円礫が用いられる。これらの礫の掘り方ははっきりとしない。

<焼土>確認されなかった。

<その他>焼土が確認されていないことから、炉としての使用期間が短いか、あるいは他の用途を持ったものとも考えられる。

遺物（図54、写真図版43）

<土器>267は炉の埋設土器で、2個一対の突起と口唇部に連続する刻目をもつ鉢である。

<時期>縄文時代晩期に属する。



第1号土器埋設遺構

A | L=327.000m | B



- 第1号土器埋設遺構
 1 10YR 2/2 黒褐色土・Ch-p全体 Nb-pをわずかに含む 土器の覆り方
 2 10YR 2/3 黒褐色土・Ch-p全体 Nb-p少量 炭化物をわずかに含む



第2号土器埋設遺構

A | L=334.400m | B

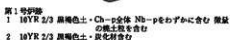


- 第2号土器埋設遺構
 1 10YR 2/3 黒褐色土・土器の覆り方
 2 10YR 2/2 黒褐色土・Nb-pをわずかに含む



第1号炉跡

A | L=336.200m | B



- 第1号炉跡
 1 10YR 2/3 黒褐色土・Ch-p全体 Nb-pをわずかに含む 炭灰の塊土器を含む
 2 10YR 2/3 黒褐色土・炭化物を含む

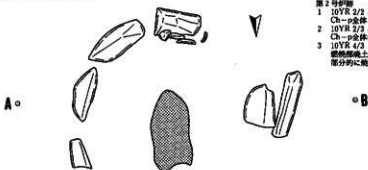


第2号炉跡

A | L=336.500m | B



- 第2号炉跡
 1 10YR 2/2 黒褐色土・Ch-p全体 ローム状 炭化物をわずかに含む
 2 10YR 2/3 黒褐色土・Ch-p全体を含む 炭の覆り方
 3 10YR 4/3 に近い黄褐色土・細粒の黒土と混ざっているが、焼成不良の為部分的に炭土灰を含むのみ



第3号炉跡

A | L=340.100m | B



- 第3号炉跡
 1 10YR 2/2 黒褐色土・Ch-p全体 Nb-pをわずかに含む
 2 10YR 2/1 黒色土・炭の覆り方

図27 土器埋設遺構・炉跡

第2号炉跡

遺構 (図27、写真図版23)

<位置>第1号炉跡と同じD29区にある。

<規模・種類>直径約40cmの円形の石囲炉で、これも炉内に小型の鉢型土器が埋設されている。

<構成礫>20~30cmぐらいの4個の礫が使われているが、北西側の礫は抜き取られたためか、2個ほど欠落している。しかしその痕跡はみられない。

<焼土>埋設土器の直下に、直径22cm、厚さ8cmの焼土が認められる。

<その他>炉周辺(炉を中心に約1.2m付近)の北側から南西側にかけて、わずかに住居跡の壁らしき段差がみられたが、柱穴は確認されなかったためこの項で扱った。

遺物 (図54、写真図版43)

<土器>268は埋設土器で、口縁部に貼瘤が付く。

<時期>縄文時代晩期に属する。

第3号炉跡

遺構 (図27、写真図版23)

<位置>調査区南西端の第9号住居跡の南側N32区に位置する。

<規模・種類>直径110cmほどの円形の石囲炉と思われるが、北側半分の礫を欠く。

<構成礫>最大で長さ36cmの礫1個のほか、25cm程度の5個の礫が使われている。前述のように北側の礫は抜き取られたためか、炉の半分ほど欠落している。

<焼土>20×40cm、厚さ数cmの焼土がみられるが、わずかに赤変している程度である。

<その他>構成礫が全周しないことや焼土の検出状況などから、煮炊き用の炉として使われたものではない可能性があるが詳細は不明である。

遺物は出土していない。

6. 焼土遺構

第1号焼土 (図28、写真図版24)

<位置>調査区中央部東側のB15区にある。

<検出面>Ⅲ層上面

<規模・形状>直径23cmの円形。

<厚さ>13cm。

<遺物>出土していない。

<時期>不明であるが、検出状況から縄文時代に属する可能性がある。

第2号焼土 (図28、写真図版24)

<位置>調査区中央部西側のB25区にある。

<検出面>Ⅲ層上面

<規模・形状>62×93cmの楕円形状。

<厚さ>5~8cm。

<遺物>(図54、写真図版43)> 焼土中から土器片2片が出土した。269は広口壺の口縁部、270は大型の壺の口縁部と思われ、いずれも晩期に属する。

<時期>出土遺物から縄文時代晩期であろう。

第3号焼土 (図28、写真図版24)

<位置>第2号焼土と同じB25区にある。それとは、南東方向に2.5m離れている。

<検出面>III層上面。

<規模・形状>38×50cmの不整形。

<厚さ>5cm程度。

<遺物>出土していない。

<時期>不明であるが、検出状況から縄文時代に属する可能性がある。

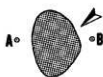
第4号焼土 (図28、写真図版24)

<位置>第5号住居跡上のB26区にある。

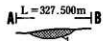
<検出面>II層中。

<規模・形状>70×132cmの不整な長方形。

<厚さ>最も厚い部分で10cm。



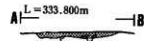
第1号焼土



第1号焼土
1 10YR 4/6 褐色土・構成良好な珪酸性焼土



第2号焼土



第2号焼土
1 5YR 4/8 赤褐色土・構成良好な珪酸性焼土・土器片含む



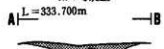
第3号焼土



第3号焼土
1 7.5YR 4/4 褐色土・珪酸性焼土



第4号焼土



第4号焼土
1 7.5YR 4/6 褐色土・Ch-p全体を含む 構成不良



第5号焼土



第5号焼土
1 7.5YR 5/6 明褐色土・構成良好な珪酸性焼土 固く締る

図28 焼土遺構

<遺物>出土していない。

<時期>検出面から縄文時代には属さない可能性があるが、不明である。

第5号焼土（図28、写真図版25）

<位置>調査区中央部西側のC24区にあり、第2号焼土の南東2.5mに位置する。

<検出面>Ⅲ層上面。

<規模・形状>直径20cmの円形。

<厚さ>4～5cm。

<遺物>出土していない。

<時期>不明であるが、検出状況から縄文時代に属する可能性がある。

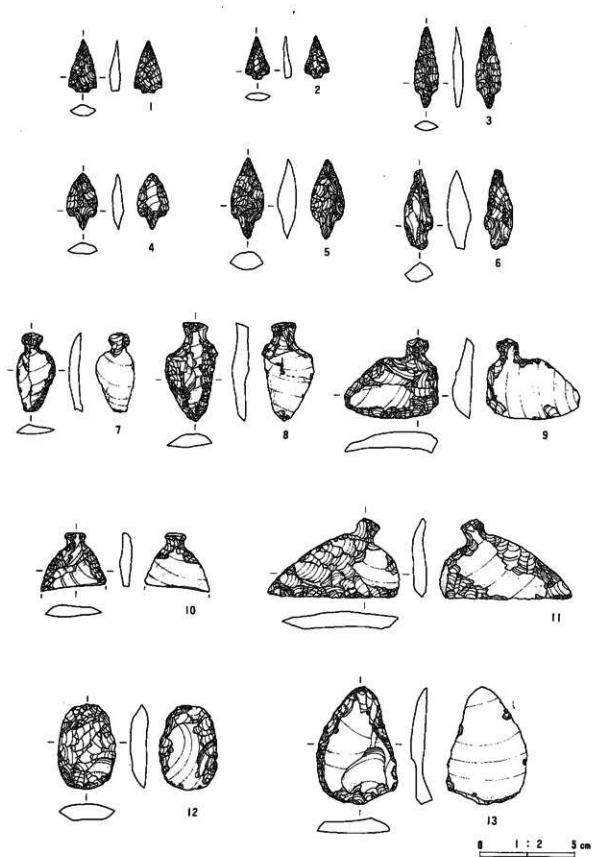


图29 第1号住居跡出土遺物(1)

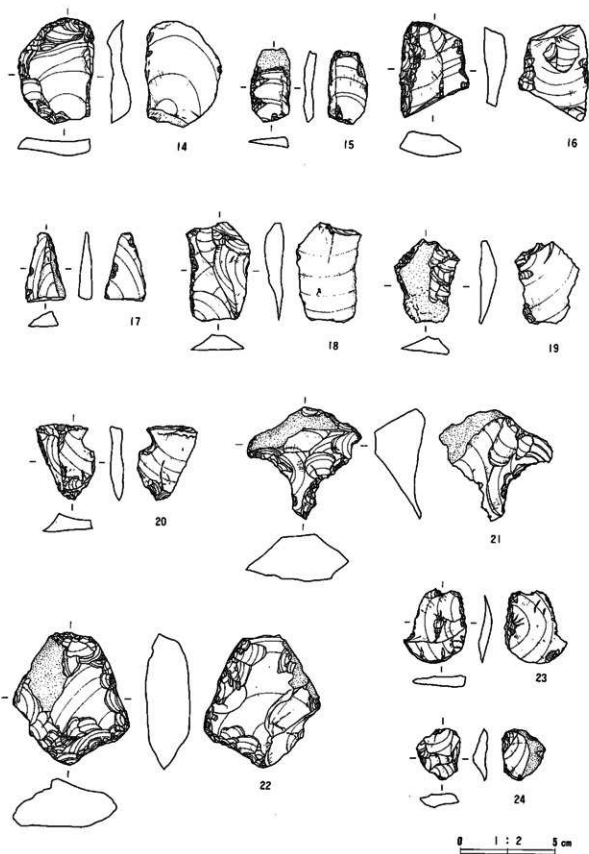


图30 第1号土层出土遗物(2)

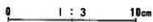
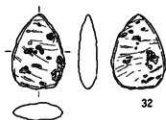
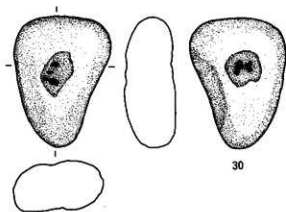
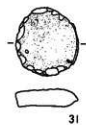
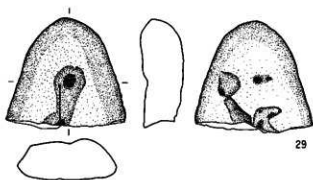
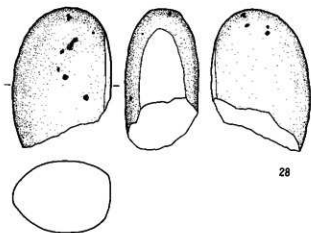
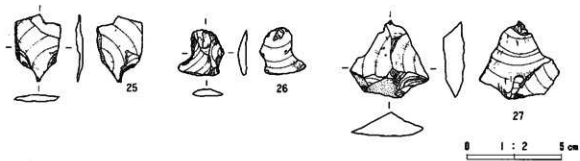


图31 第1号住居跡出土遺物(3)



图32 第1号住居跡出土遺物(4)

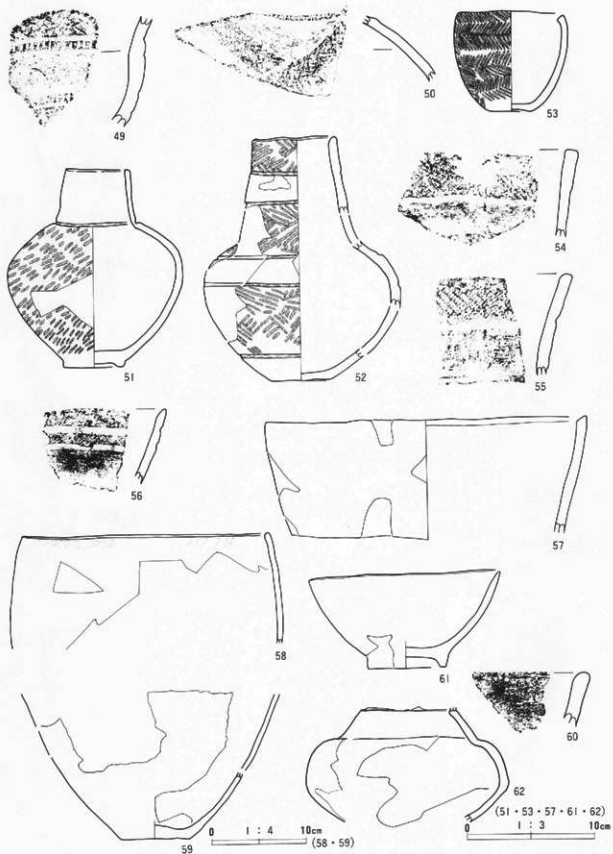


图33 第1号住居跡出土遺物(5)

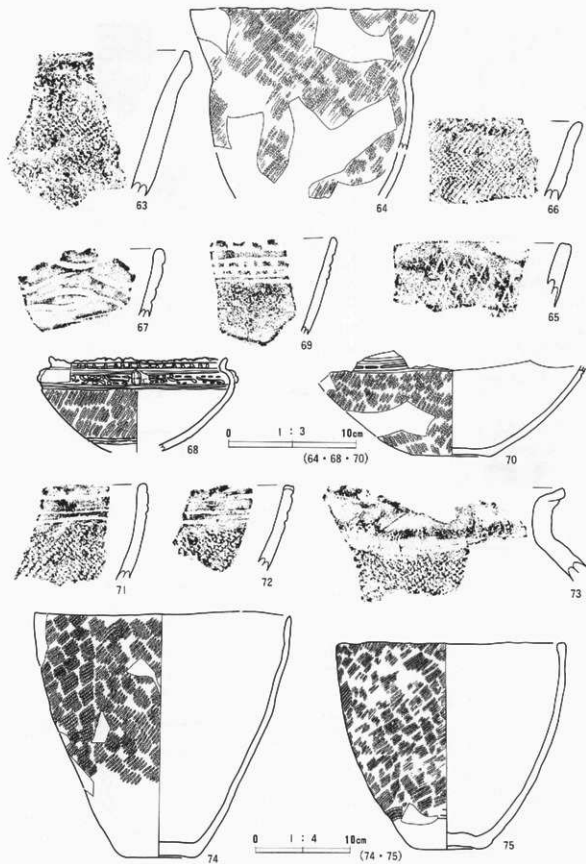
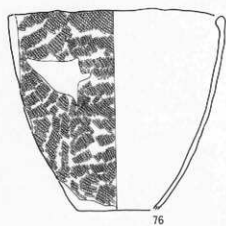
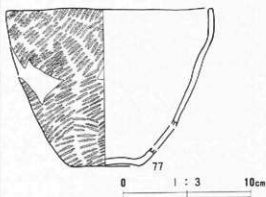


图34 第1号住居跡出土遺物(6)

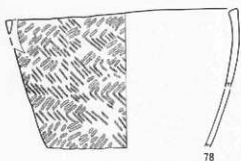


76

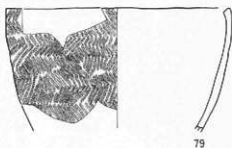


77

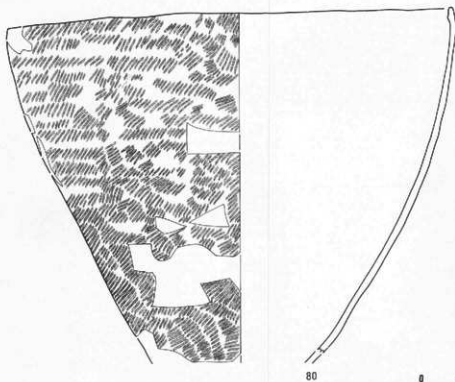
0 1 : 3 10cm



78



79



80

0 1 : 4 10cm
(76 · 78 · 79 · 80)

圖35 第1号住居跡出土遺物(7)

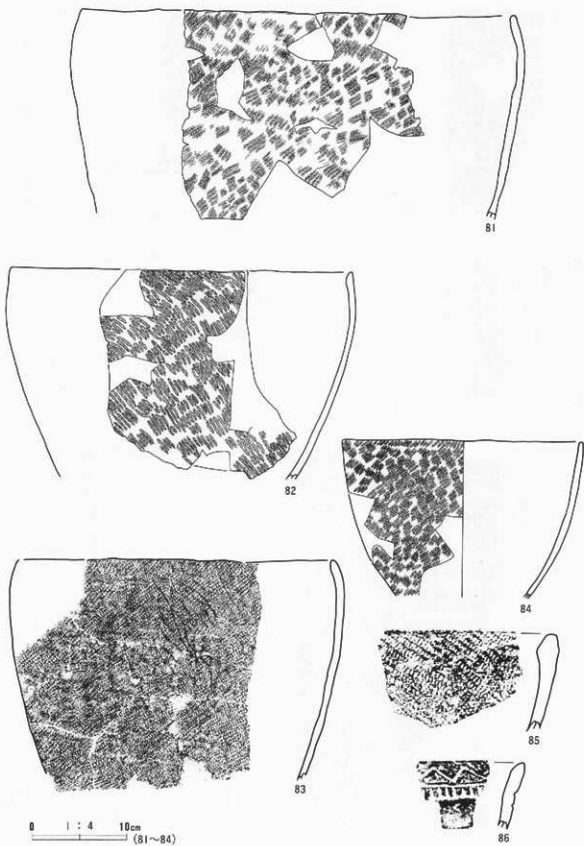


图36 第1号住居跡出土遺物(8)

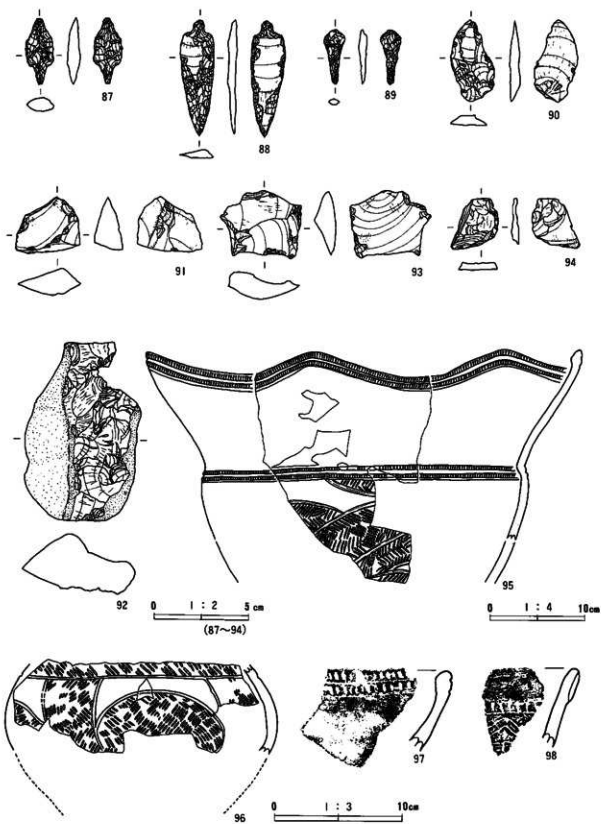


图37 第2号住居跡出土遺物(1)



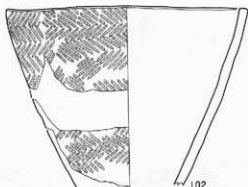
99



100

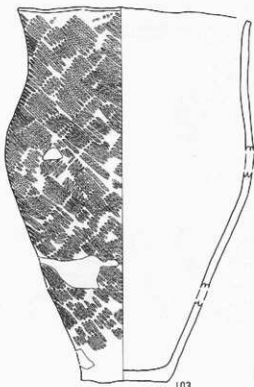


101



102

0 1 : 3 10cm



103

0 1 : 4 10cm



104

图38 第2号(2)·第3号住居跡出土遺物

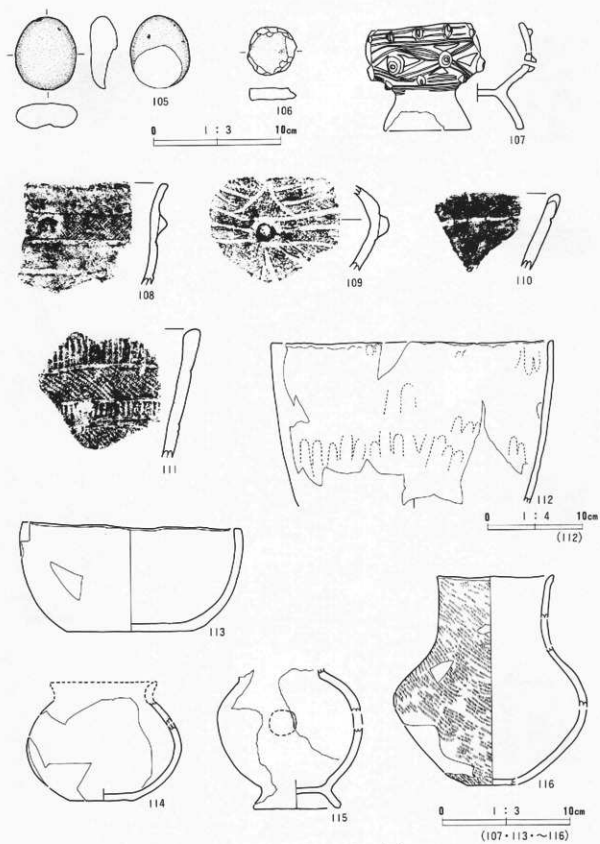


图39 第4号住居跡出土遺物(1)

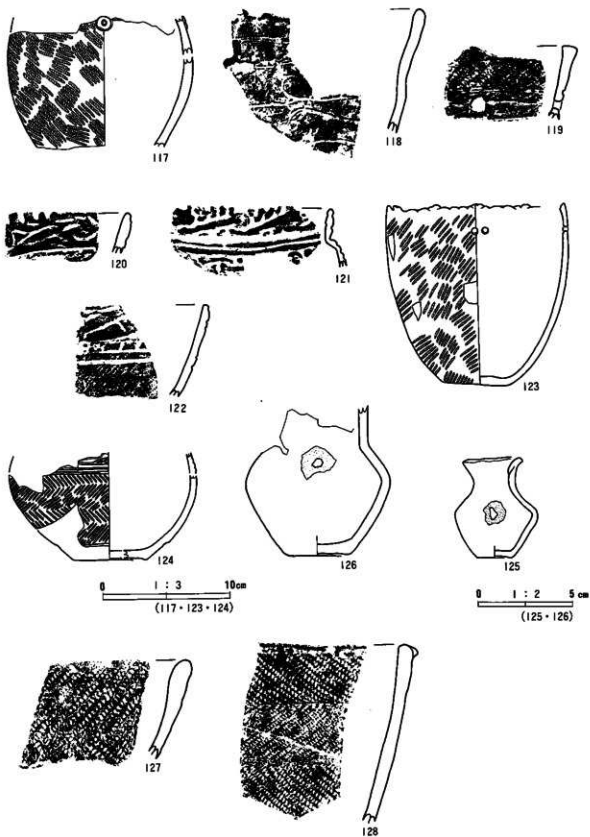


图40 第4号住居跡出土遺物(2)

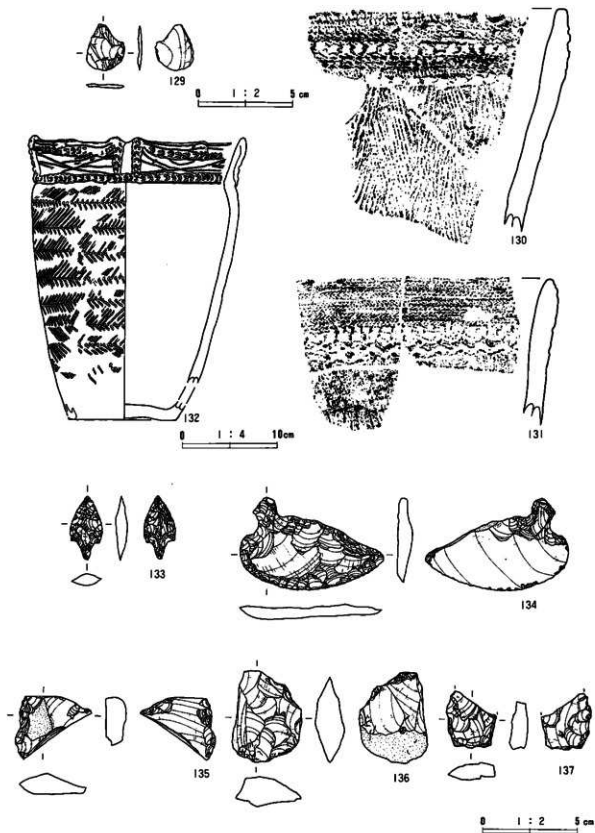


图41 第5号·第6号(1)住居跡出土遺物

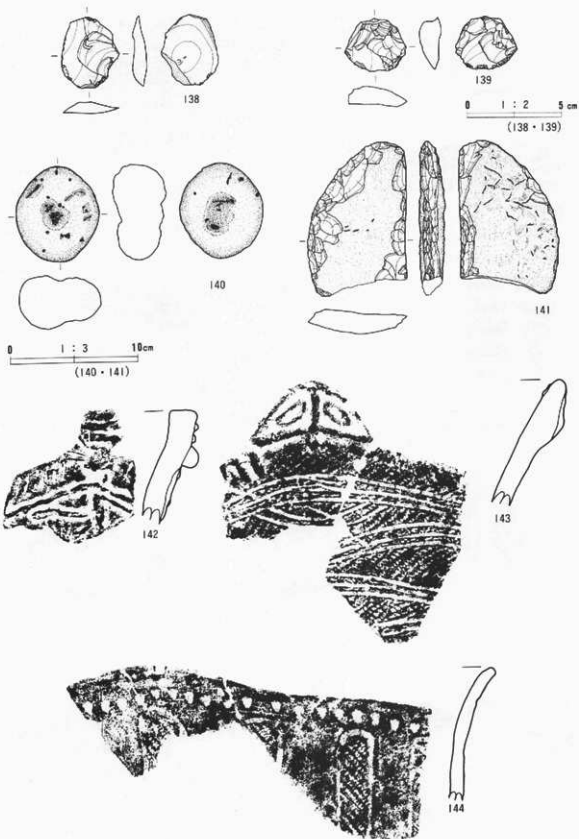


图42 第6号住居跡出土遺物(2)

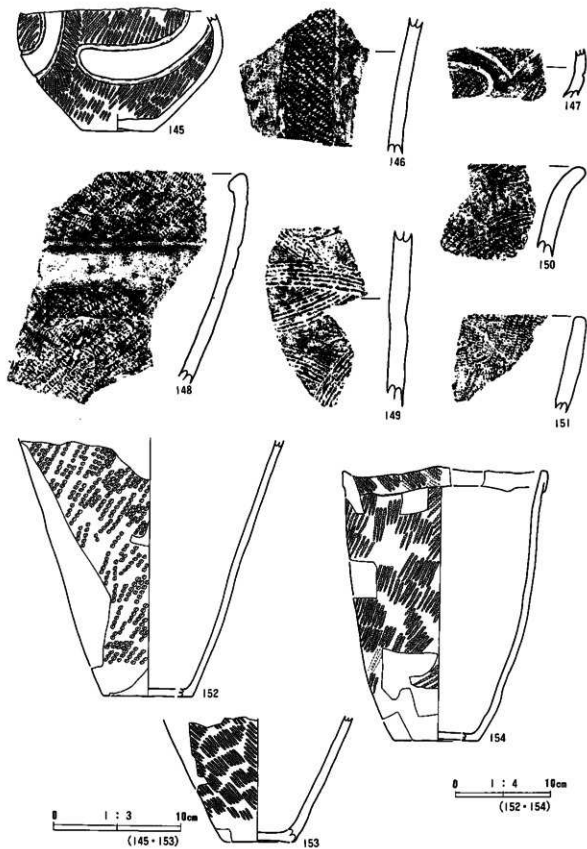


图48 第6号住居跡出土遺物(3)

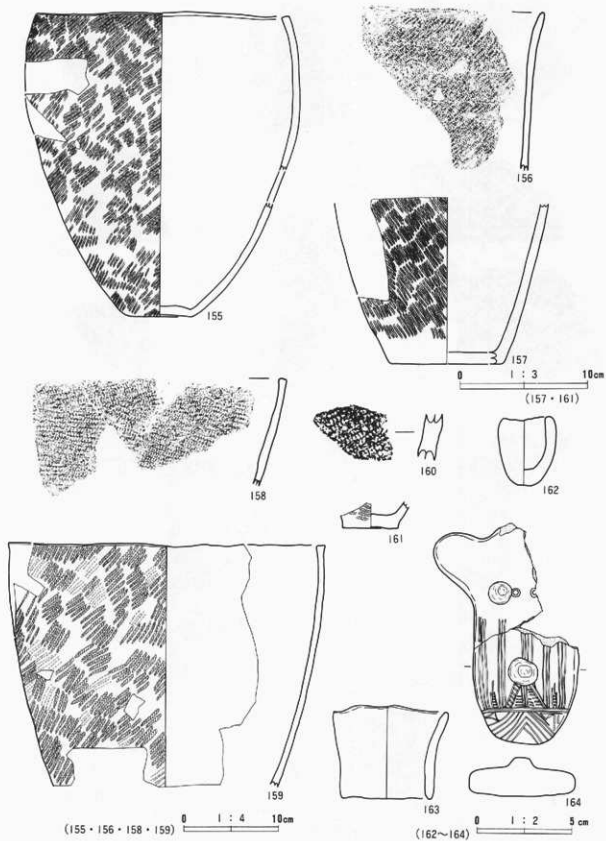


圖44 第6号住居跡出土遺物(4)

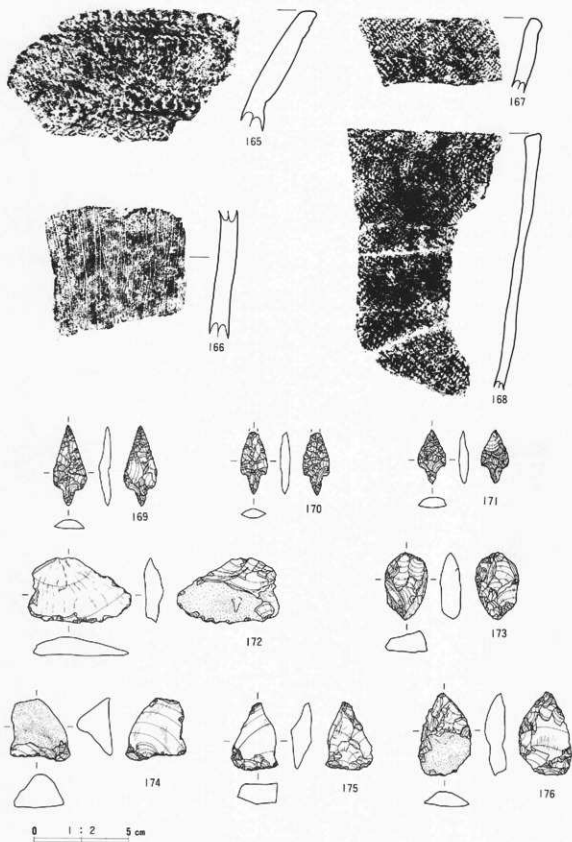


图45 第8号·第9号(1)住居跡出土遺物

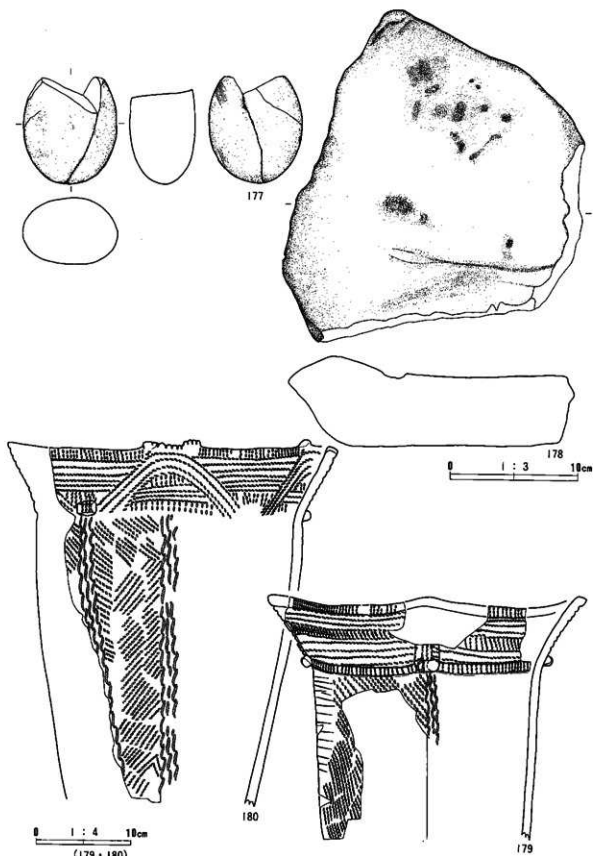


图46 第9号层出土文物(2)

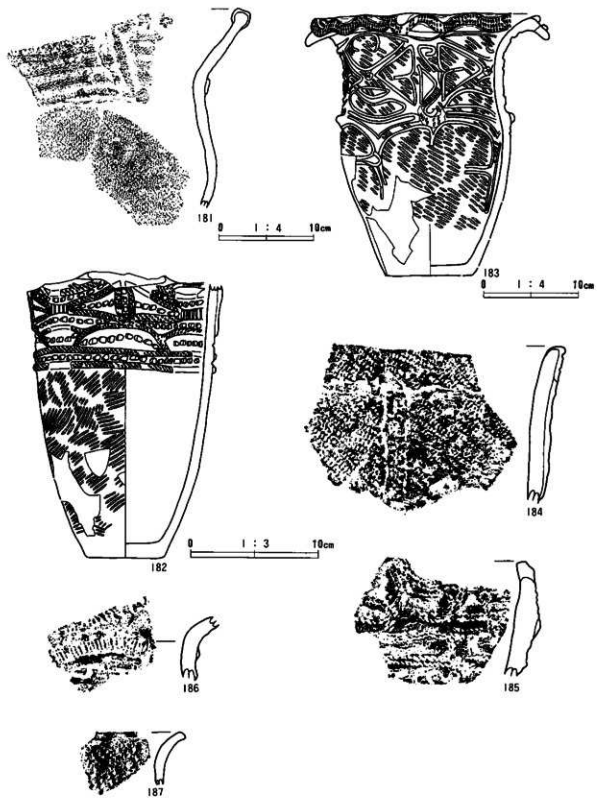


图47 第9号住居跡出土遺物(3)

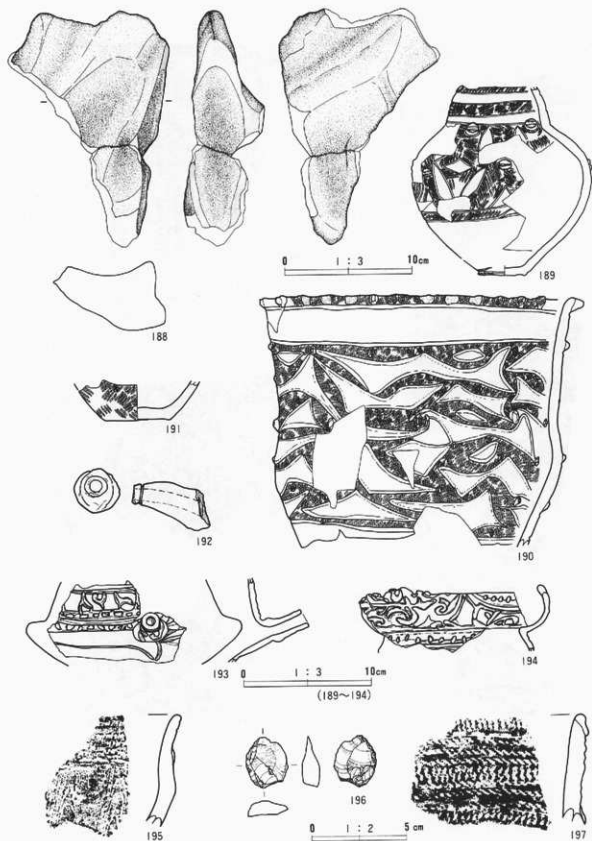


图48 竖穴状遺構出土遺物

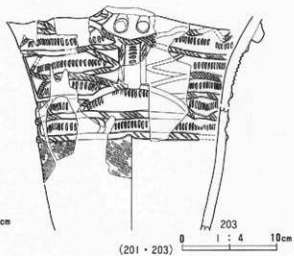
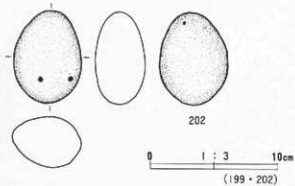
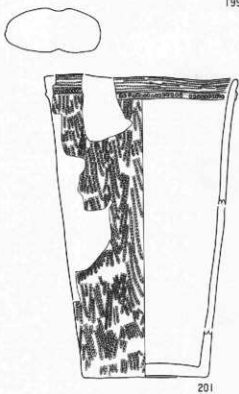
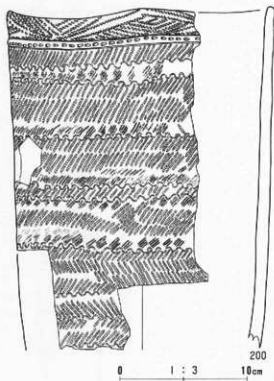
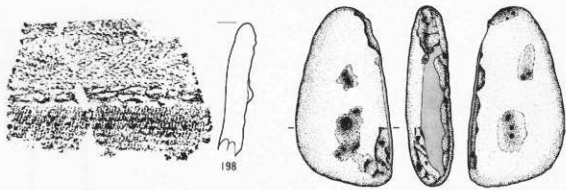


图49 土坑内出土遗物(1)

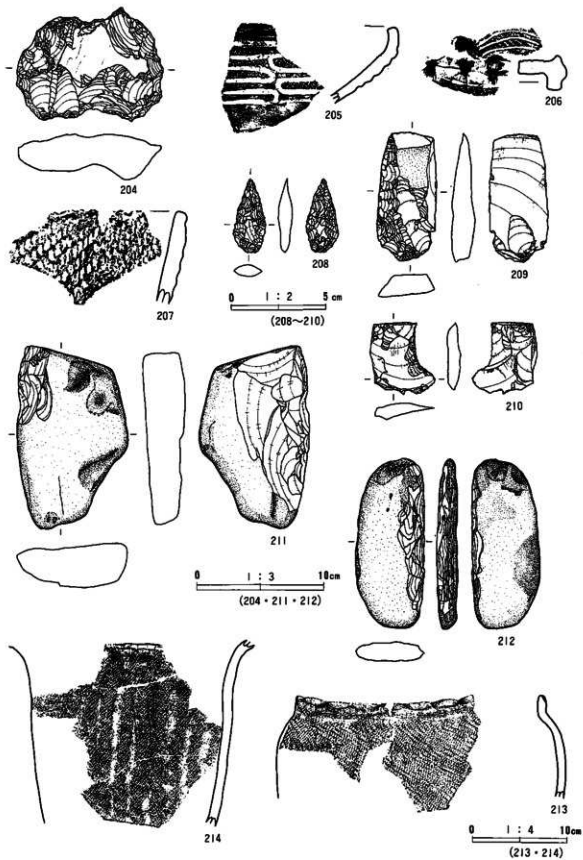


图50 土坑内出土遗物(2)

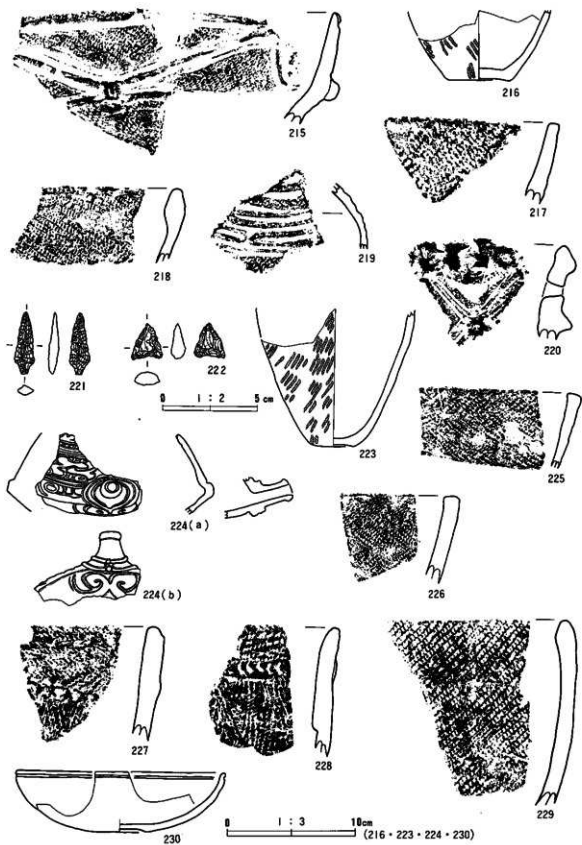


图51 土坑内出土遗物(3)

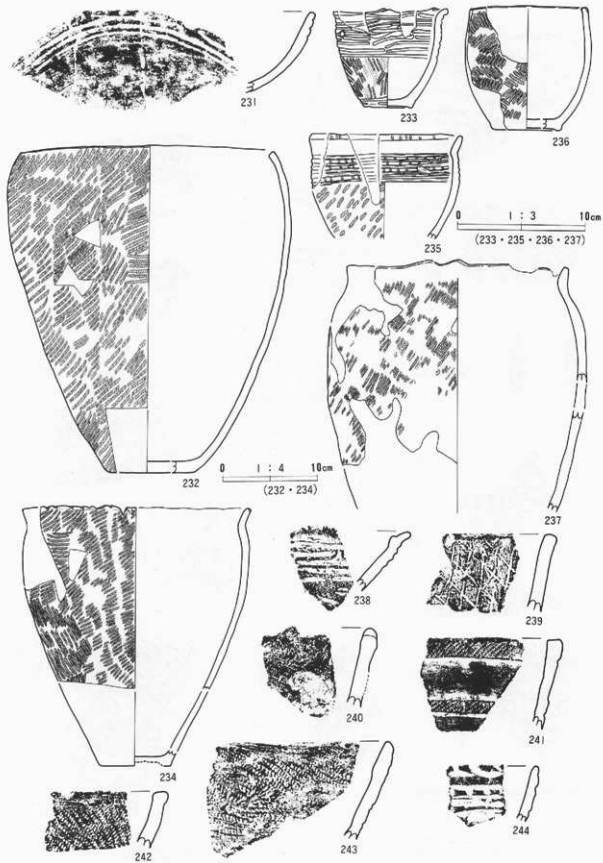


图52 土坑内出土遺物(4)

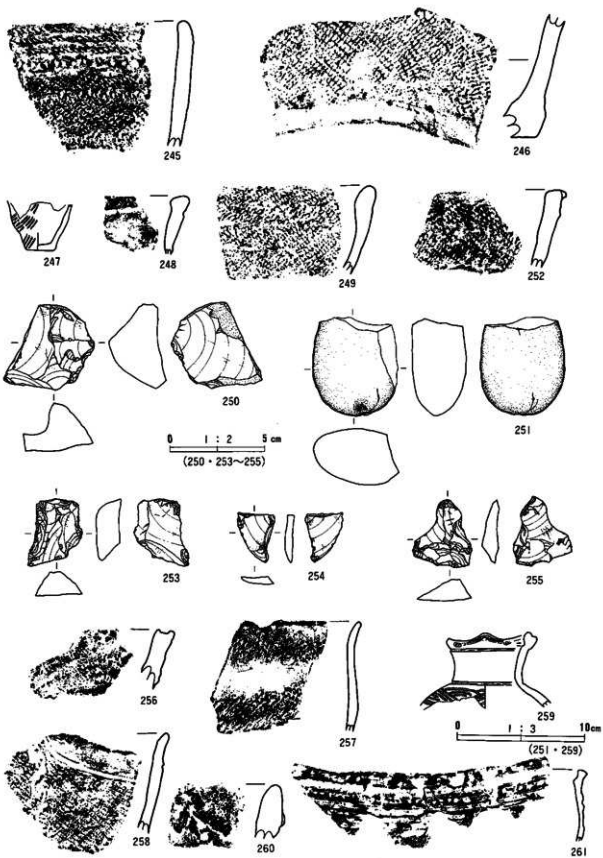


图53 土坑内出土遗物(5)

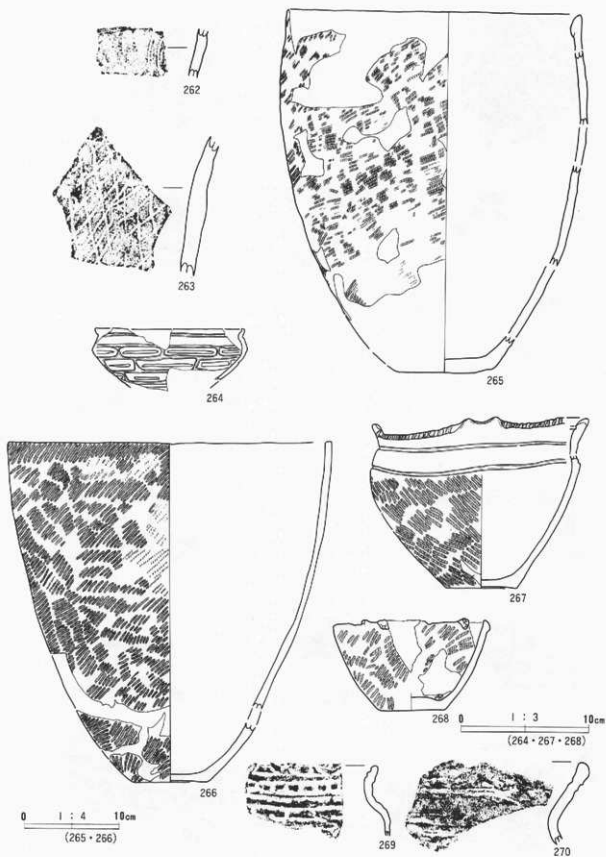


图54 土坑内(6)·土器埋設·炉跡·烧土遺構出土遺物

表3 住居跡・竪穴状遺構内出土遺物観察表

() に見存

〈第1号住居跡〉

番号	器種	出土地点・層位	長さ	幅	厚さ	重さ	石質	産地	図版	写真
1	石炭	第1号住 埋土上～中位	2.8	1.5	0.5	1.5	粘板岩	九戸-岩泉	29	26
2	石炭	第1号住 埋土上～中位	2.3	1.3	0.4	0.8	粘板岩	九戸-岩泉	29	26
3	石炭	第1号住 埋土上～中位	4.3	1.2	0.5	2.3	凝灰質粘板岩	九戸-岩泉	29	26
4	石炭	第1号住 床面	3.0	1.6	0.6	2.2	極細粒凝灰岩	九戸-岩泉	29	26
5	石炭	第1号住 埋土中～下位	4.3	1.8	1.0	5.3	凝灰質粘板岩	九戸-岩泉	29	26
6	石炭	第1号住 埋土上～中位	4.2	1.5	1.2	6.4	チャート	九戸-岩泉	29	26
7	石炭	第1号住 埋土中～下位	4.2	2.0	0.6	3.8	極細粒凝灰岩	九戸-岩泉	29	26
8	石炭	第1号住 埋土中～下位	5.2	2.8	0.9	11.2	チャート質粘板岩	九戸-岩泉	29	26
9	石炭	第1号住 埋土上～中位	4.2	5.0	1.1	20.4	チャート質粘板岩	九戸-岩泉	29	26
10	石炭	第1号住 埋土中～下位 (3.1)	3.4	0.7	(5.5)		凝灰質粘板岩	九戸-岩泉	29	26
11	石炭	第1号住 柱穴埋土	4.2	6.8	0.8	20.5	凝灰質粘板岩	九戸-岩泉	29	26
12	石炭	第1号住 埋土下位	4.5	3.0	0.9	14.1	チャート	九戸-岩泉	29	26
13	不定形石器	第1号住 床面	6.2	4.3	1.2	24.5	粘板岩	九戸-岩泉	29	26
14	不定形石器	第1号住 床面	5.6	4.0	1.3	23.9	凝灰質粘板岩	九戸-岩泉	30	26
15	不定形石器	第1号住 埋土上～中位	4.9	2.1	0.6	6.2	チャート質粘板岩	九戸-岩泉	30	27
16	不定形石器	第1号住 埋土中～下位	5.1	3.7	1.3	25.6	粘板岩	九戸-岩泉	30	27
17	不定形石器	第1号住 埋土	3.5	2.1	0.8	4.9	凝灰質粘板岩	九戸-岩泉	30	27
18	不定形石器	第1号住 埋土中～下位	5.1	3.2	1.0	15.5	凝灰質粘板岩	九戸-岩泉	30	27
19	不定形石器	第1号住 埋土中～下位	4.3	3.2	0.9	11.9	チャート質粘板岩	九戸-岩泉	30	27
20	不定形石器	第1号住 炉内	4.0	3.1	0.9	9.2	チャート質粘板岩	九戸-岩泉	30	27
21	残片	第1号住 埋土上～下位	5.9	6.0	2.6	51.2	凝灰質粘板岩	九戸-岩泉	30	27
22	残片	第1号住 埋土	7.0	6.2	2.6	100.7	チャート	九戸-岩泉	30	27
23	使用痕のある剥片	第1号住 埋土上～中位	3.6	3.3	0.5	7.2	チャート質粘板岩	九戸-岩泉	30	27
24	使用痕のある剥片	第1号住 埋土上～中位	2.1	2.3	0.7	5.3	チャート	九戸-岩泉	30	27
25	細部加工剥片	第1号住 埋土中～下位	3.6	2.4	0.4	2.8	チャート質粘板岩	九戸-岩泉	31	27
26	細部加工剥片	第1号住 埋土中～下位	2.4	2.1	0.4	1.8	チャート質粘板岩	九戸-岩泉	31	27
27	剥片	第1号住 炉内	4.0	4.0	1.2	10.6	極細粒凝灰岩	九戸-岩泉	31	27
28	磨石	第1号住 埋土Q3	(7.6)	11.1	5.9	(700.8)	花崗閃緑岩	軽米-大野村以東	31	28
29	凹石	第1号住 埋土Q1	(6.5)	7.9	2.8	(333.8)	紫輝輝石・普通輝石安山岩	九戸-二戸堤原遺跡付近	31	28
30	凹石	第1号住 埋土	10.3	7.1	3.3	380.7	紫輝輝石・普通輝石安山岩	九戸-二戸堤原遺跡付近	31	28
31	円盤状石製品	第1号住 埋土Q3	5.1	5.0	1.4	52.2	硬砂岩	九戸-岩泉	31	28
32	磨石製品	第1号住 張り出し部	5.8	4.1	1.4	8.8	磁石	二戸市	31	28

番号	出土地点・層位	器種	部位	文様など	内面	分類	図版	写真版
33	第1号住 Q2埋土	深鉢	口～底部	下向きの突起、惣紐正横溝部、握帯区画内に爪形の連続刻突、L R 縦文	ミガキ	II 1 c	32	28
34	第1号住 Q1埋土	深鉢	口縁部	頂部が平らな突起、粘土層による区画、区画内連続刻突、瘤貼り付け	ミガキ	II 1 c	32	28
35	第1号住 Q2埋土	深鉢	口縁部	粘土層貼り付け、粘土総周縁刻突	ミガキ	II 1 c	32	28
36	第1号住 Q1埋土	深鉢	口縁部	山形突起、突起部に粘土層貼り付け、L R 縦文施文後沈線	ミガキ	II 1 d	32	28
37	第1号住 Q3埋土	深鉢	口縁部	突起部、沈線による弧線文、L R 縦文	ナデ	II 1 e	32	28
38	第1号住 ベルト内	深鉢	口縁部	刻目、平行沈線、網文?	ナデ	II 1 e	32	28
39	第1号住 Q2埋土	深鉢	口縁部	刻目、突起貼り付け、L R 縦文施文後沈線	ミガキ	II 1 e	32	28
40	第1号住 Q1埋土	深鉢	口縁部	刻目、沈線区画	ミガキ	II 1 e	32	28
41	第1号住 Q2埋土	鉢	口～底部	R L 縦文、横位線筋文、網線罫入	ナデ	II 2 a	32	28
42	第1号住 Q4埋土	深鉢	底部	R L 縦文、沈線区画	ミガキ	III 1	32	28
43	第1号住 Q1埋土	壺	体～底部	刻目突起、入組文 (L R 縦文)	ナデ	III 2	32	28
44	第1号住 Q1埋土	注口	口～底部	突起、粘層、沈線による曲線文、無筋 L	ナデ	III 4	32	28
45	第1号住 Q1埋土	鉢	口縁部	粘層、沈線、磨洪縄文	ミガキ	III 4	32	28
46	第1号住 Q1埋土	注口	体部	先軋の尖る瘤、弧線状帯状文、入組帯状文 (R L)	ナデ	III 4	32	28
47	第1号住 ベルト内	鉢	口縁部	突起、粘層、帯状文	ミガキ	III 4	32	28
48	第1号住 Q3埋土	鉢	口～底部	無筋 L、折り返し口縁、全体に赤色顔料付着	ミガキ	II	32	28
49	第1号住 Q3埋土	鉢	体部	L R 縦文?、刻目2列	ミガキ	III 2	33	28

番号	出土地点・層位	器種	部位	文様など	内面	分類	図版	写真版
50	第1号住 柱穴埋土	蓋	底部	頸部刻目、入組帯縄文(羽状)	ナ	Ⅱ	33	28
51	第1号住 Q2埋土	蓋	口～底部	頸部沈線1条、L.R縄文	ナ	Ⅱ	33	29
52	第1号住 Q1埋土	蓋	口～底部	羽状縄文(0段多条)、無文帯	ミ	Ⅱ	33	29
53	第1号住 Q2埋土	小型鉢	口～底部	羽状縄文、一部0段多条	ミ	Ⅱ	33	29
54	第1号住 Q1埋土	蓋	口縁部	羽状縄文(0段多条)	ミ	Ⅱ	33	29
55	第1号住 Q1埋土	深鉢	口縁部	R.L縄文、沈線	ナ	Ⅱ	33	29
56	第1号住 Q1埋土	鉢	口縁部	垂消縄文(L.R)、平行沈線	ナ	Ⅲ	33	29
57	第1号住 Q1埋土	深鉢	口～体部	無文、ミ	ミ	Ⅳ	33	29
58	第1号住 ベルト埋土	深鉢	口～体部	口縁部に刻目?、外周條付着	ミ	Ⅳ	33	29
59	第1号住 ベルト埋土	深鉢	体～底部	無文、ミ	ミ	Ⅳ	33	29
60	第1号住 柱穴埋土	深鉢	口縁部	無文、ミ	ミ	Ⅳ	33	29
61	第1号住 Q4埋土	台付鉢	口～底部	無文、体部外面と底部に赤色顔料付着	ナ	Ⅳ	33	29
62	第1号住 Q1埋土	蓋	体部	無文、外面丁寧なミ	ナ	Ⅳ	33	29
63	第1号住 Q1埋土	深鉢	口～体部	羽状縄文、折り返し口縁	ミ	Ⅳ	34	29
64	第1号住 Q4埋土	鉢	口～体部	口唇部小波状、L.R縄文	ミ	Ⅳ	34	29
65	第1号住 Q3埋土	深鉢	口縁部	網目状赤糸文	ミ	Ⅲ	34	29
66	第1号住 埋土	深鉢	口縁部	羽状縄文(L.Rは0段多条)	ミ	Ⅲ	34	29
67	第1号住 Q1埋土	鉢	口縁部	無文、入組三叉文	ミ	Ⅳ	34	30
68	第1号住 Q2埋土	鉢	口～体部	小突起、連続刺突、半齒状文、L.R縄文	ミ	Ⅳ	34	30
69	第1号住 Q1埋土	鉢	口縁部	小突起、平行沈線、沈線間刻突	ミ	Ⅳ	34	30
70	第1号住 Q2埋土	鉢	体～底部	平行沈線、L.R縄文(0段多条?)	ミ	Ⅳ	34	30
71	第1号住 Q1埋土	鉢	口～体部	平行沈線、L.R縄文	ミ	Ⅳ	34	30
72	第1号住 Q2埋土	鉢	口縁部	小突起、平行沈線、L.R縄文	ミ	Ⅳ	34	30
73	第1号住 Q1埋土	蓋	口縁部	L.R縄文	ナ	Ⅳ	34	30
74	第1号住 Q1埋土	深鉢	口～底部	L.R縄文	ナ	Ⅳ	34	30
75	第1号住 Q1埋土	深鉢	口～底部	L.R縄文	ミ	Ⅳ	34	30
76	第1号住 Q1埋土	深鉢	口～底部	R.L縄文(0段多条)	ミ	Ⅳ	35	30
77	第1号住 Q1埋土	深鉢	口～底部	R.L縄文	ミ	Ⅳ	35	30
78	第1号住 Q3埋土	深鉢	口～底部	羽状縄文(L.Rは0段多条)	ミ	Ⅳ	35	30
79	第1号住 ベルト埋土	深鉢	口～体部	縞部羽状縄文	ミ	Ⅳ	35	30
80	第1号住 埋土一箇	深鉢	口～体部	R.L縄文	ミ	Ⅳ	35	31
81	第1号住 ベルト埋土	深鉢	口～体部	L.R縄文	ミ	Ⅳ	36	31
82	第1号住 Q1埋土	深鉢	口～体部	R.L縄文	ナ	Ⅳ	36	31
83	第1号住 Q1埋土	深鉢	口～体部	L.R縄文	ミ	Ⅳ	36	31
84	第1号住 Q2埋土	深鉢	口～体部	L.R縄文	ナ	Ⅳ	36	31
85	第1号住 Q4埋土	深鉢	口縁部	R.L縄文、口縁部内周肥厚	ミ	Ⅳ	36	31
86	第1号住 Q3埋土	鉢	口縁部	連続刺突、沈線	ナ	Ⅲ	36	31

〈第2号住層位〉

番号	器種	出土地点・層位	長さ	幅	厚さ	重さ	石質	産地	図版	写真
87	石甕	第2号住 埋土Q1	3.5	1.5	0.7	2.8	粘板岩	九戸一岩泉	37	32
88	石甕	第2号住 埋土Q1	6.1	1.8	0.5	4.5	チャート質粘板岩	九戸一岩泉	37	32
89	石甕	第2号住 埋土Q1	2.9	1.1	1.3	1.3	粘板岩	九戸一岩泉	37	32
90	不定形石甕	第2号住 埋土Q2	4.3	2.3	0.6	5.2	チャート	九戸一岩泉	37	32
91	不定形石甕	第2号住 埋土Q2	3.0	3.5	1.5	11.3	褐色質粘板岩	九戸一岩泉	37	32
92	残破	第2号住 埋土Q2	9.5	6.1	3.5	169.4	赤褐色粘板岩質チャート	九戸一岩泉	37	32
93	陶器加工断片	第2号住 埋土Q2	3.5	4.3	1.5	15.5	褐色質粘板岩	九戸一岩泉	37	32
94	使用痕のある断片	第2号住 埋土Q2	2.7	2.5	0.4	3.0	チャート	九戸一岩泉	37	32

番号	出土地点・層位	器種	部位	文様など	内面	分類	図版	写真版
95	第2号住 Q1埋土	深鉢	口～体部	波状口縁、口唇部外縁と頸部に刻目2列、タスキ掛け状の入組文	ミ	Ⅱ	37	32
96	第2号住 Q2埋土	深鉢	体部	曲線入組文(0段多条L.R・R.L)	ナ	Ⅱ	37	32
97	第2号住 Q2埋土	深鉢	口縁部	外周刻目	ミ	Ⅱ	37	32
98	第2号住 Q2埋土	深鉢	口縁部	連続刺突、沈線	ナ	Ⅲ	37	32
99	第2号住 Q1埋土	深鉢	口縁部	網目刻目、羽状縄文(L.Rは0段多条)	ミ	Ⅲ	38	32

番号	出土地点・層位	器種	部位	文様など	内面	分欄	図版	写真
100	第2号住 Q1埋土	深鉢	口縁部	羽状縄文 (LRは0段多条)	ミガキ	Ⅲ	38	32
101	第2号住 柱穴埋土	深鉢	体部	結節羽状縄文	ナデ	Ⅲ	38	32
102	第2号住 Q1埋土	深鉢	口~体部	羽状縄文 (0段多条)	ミガキ	Ⅲ	38	32

<第3号住層跡>

103	第3号住 床面一括	深鉢	口~底部	キャットパシ形、LR縄文	ミガキ	Ⅱ	38	33
104	第3号住 Q1埋土	深鉢	口縁部	無文帯、LR縄文	ミガキ	Ⅱ	38	33

<第4号住層跡>

番号	器種	出土地点・層位	長さ	幅	厚さ	重さ	石質	産地	図版	写真
105	磨石	第4号住 埋土Q2	5.8	4.7	2.3	73.6	チャート	九戸-岩泉	39	33
106	円盤状石製品	第4号住 埋土上~中位	3.8	3.8	0.9	20.0	凝灰岩	九戸-岩泉	39	33

番号	出土地点・層位	器種	部位	文様など	内面	分欄	図版	写真
107	第4号住 床面	石付鉢	口~胴部	透かし、平行沈線、刺目貼敷、穿孔された膚	ナデ	Ⅲ3	39	33
108	第4号住 Q1埋土	鉢	体部	無文帯、貼敷、刺目状の彫刻 (LR縄文)	ナデ	Ⅲ2?	39	33
109	第4号住 Q2埋土	注口	体部	ボタン状貼敷、垂状入組文 (羽状)	ナデ	Ⅲ7	39	33
110	第4号住 Q2埋土	深鉢	口縁部	LR縄文、沈線	ミガキ	Ⅲ3	39	33
111	第4号住 Q2埋土	深鉢	口縁部	突起、垂状沈線、帯状文 (RL0段多条)	ミガキ	Ⅲ5	39	33
112	第4号住 Q2埋土	深鉢	口~体部	指痕押圧?、外面埋付着	ミガキ	Ⅲ7	39	33
113	第4号住 Q2埋土	鉢	口~底部	無文	ナデ	Ⅲ4	39	33
114	第4号住 Q1埋土	蓋	体~底部	無文、ミガキ	ミガキ	Ⅲ4	39	33
115	第4号住 Q2埋土	注口	体部	無文、注口部欠損、ミガキ、砂粒多く含む	ミガキ	Ⅲ4	39	33
116	第4号住 Q2埋土	蓋	口~底部	無彫	ナデ	Ⅲ4	39	34
117	第4号住 Q1埋土	蓋	体部	中心に孔のあるボタン状突起、RL縄文 (0段多条)	ナデ	Ⅲ7	40	34
118	第4号住 Q2埋土	鉢	口~体部	浅い沈線	ナデ	Ⅲ1	40	34
119	第4号住 Q2埋土	深鉢	口縁部	突起、LR縄文、平行沈線、補修孔	ナデ	Ⅲ1	40	34
120	第4号住 Q2埋土	鉢	口縁部	口唇部削み、入組三叉文、刺突、内面埋付着	ナデ	Ⅲ2	40	34
121	第4号住 Q1埋土	広口壺	口縁部	小突起、半歯状文、内面沈線	ミガキ	Ⅳ2	40	34
122	第4号住 Q1埋土	深鉢	口縁部	沈線、刺突	ナデ	Ⅳ3	40	34
123	第4号住 Q2埋土	鉢	口~底部	小突起、刺目、LR縄文、補修孔2、内面埋付着	ナデ	Ⅳ6	40	34
124	第4号住 Q1埋土	蓋	体部	羽状縄文 (LR・RL)、半歯状文?	ミガキ	Ⅳ2	40	34
125	第4号住 床面	1+1+1	口~底部	注口部欠損、ミガキ	ミガキ	—	40	34
126	第4号住 ベルト内	注口	体部	注口部欠損、ミガキ	ナデ	Ⅲ4	40	34
127	第4号住 Q1埋土	深鉢	口縁部	結節羽状縄文	ナデ	Ⅲ	40	34
128	第4号住 Q2埋土	深鉢	口~体部	羽状縄文	ミガキ	Ⅲ	40	34

<第5号住層跡>

番号	器種	出土地点・層位	長さ	幅	厚さ	重さ	石質	産地	図版	写真
129	剥片	第5号住 伊埋設土器内	2.5	2.0	0.2	1.1	チャート	九戸-岩泉	41	34

番号	出土地点・層位	器種	部位	文様など	内面	分欄	図版	写真
130	第5号住 伊埋設ほか	深鉢	口~体部	無彫紐文 (コイル状の扉体)、連続刺突、木目状無文	ミガキ	I 1	41	34
131	第5号住 Q1埋土	深鉢	口~体部	無彫紐文 (張りの異なる2本)、連続刺突、縦位線刻文、木目状無文	ミガキ	I 1	41	34
132	第5号住 伊埋設	深鉢	口~底部	4単位突起、爪形無彫紐文 (扉体の押し引き)、結束羽状縄文	ミガキ	II 1 *	41	34

<第6号住層跡>

番号	器種	出土地点・層位	長さ	幅	厚さ	重さ	石質	産地	図版	写真
133	石炭	第6号住 埋土Q3	3.4	1.7	0.6	2.7	チャート	九戸-岩泉	41	35
134	石炭	第6号住 埋土	4.9	7.6	0.8	26.6	チャート質粘板岩	九戸-岩泉	41	35
135	不定形石炭	第6号住 埋土Q3	3.3	4.0	1.1	11.6	凝灰質粘板岩	九戸-岩泉	41	35
136	不定形石炭	第6号住 埋土Q2	4.8	3.7	1.5	26.6	粘板岩	九戸-岩泉	41	35
137	不定形石炭	第6号住 埋土	(3.0)	2.7	0.9	(7.5)	チャート質粘板岩	九戸-岩泉	41	35
138	不定形石炭	第6号住 埋土	2.8	3.3	1.2	10.5	凝灰質粘板岩	九戸-岩泉	42	35
139	使用痕のある剥片	第6号住 埋土Q2	3.8	3.0	0.8	8.2	チャート質粘板岩	九戸-岩泉	42	35
140	凹石+磨石	第6号住 埋土Q2	7.5	6.6	4.3	232.0	安山岩	龍市-久慈郡 (清津港?)	42	35

番号	器 種	出土地点・層位	長さ	幅	厚さ	重さ	石 質	産 地	図版	写真
141	半円状扁平石器	第6号住 埋土Q2	(12.1)	7.9	2.1	(29.9)	紫輝輝石・普通輝石安山岩	九戸・二戸環状遺跡付近	42	35

番号	出土地点・層位	器種	部位	文 様 など	内面	分類	図版	写真版
142	第6号住 Q2埋土	深 鉢	口縁部	棒状突起、貼痕、刻み、粘土層貼り付け	ナ デ	II 1 e	42	35
143	第6号住 ベルト内	深 鉢	口縁部	突起部粘土層貼り付け(カエル?)、R.L.縄文、弧線状入組沈線文	ミガキ	II 1 e	42	35
144	第6号住 Q2埋土	深 鉢	口～体部	波状口縁(頂部に刻み)、下方からの刺突、懸垂文(L.R)	ナ デ	II 2 b	42	35
145	第6号住 Q2埋土	鉢	体～底部	曲線帯状文、底部内面と体部外面の一部にタークル状の物質付着	ミガキ	III 2	43	35
146	第6号住 Q3埋土	深 鉢	体部	懸垂文(L.R)?	ミガキ	III 2	43	35
147	第6号住 Q2埋土	壺	体部	R.L.縄文、沈線区画文	ミガキ	III 2	43	36
148	第6号住 Q3埋土	深 鉢	口～体部	羽状縄文(0段多糸)、盤文等、口唇部内面に折り返し	ミガキ	III 2	43	36
149	第6号住 Q2埋土	深 鉢	体部	多糸沈線文	ミガキ	III 4	43	36
150	第6号住 Q3埋土	深 鉢	口縁部	R.L.縄文、砂粒多い	ナ デ	III ?	43	36
151	第6号住 Q1埋土	鉢	口縁部	L.R.縄文(0段多状)	ミガキ	III ?	43	36
152	第6号住 Q2埋土	深 鉢	体～底部	R.L.R.縄文	ナ デ	III ?	43	36
153	第6号住 Q3埋土	深 鉢	体～底部	L.R.縄文	ミガキ	III	43	36
154	第6号住 Q2埋土	深 鉢	口～底部	複合口縁、R.L.縄文	ミガキ	III	43	36
155	第6号住 Q2埋土	深 鉢	口～底部	L.R.縄文	ミガキ	IV 6	44	36
156	第6号住 Q3埋土	深 鉢	口～体部	R.L.縄文	ナ デ	IV 6 ?	44	36
157	第6号住 Q2埋土	深 鉢	体部	R.L.縄文	ナ デ	IV 6 ?	44	36
158	第6号住 ベルト内	深 鉢	口～体部	R.L.縄文	ミガキ	IV 6 ?	44	36
159	第6号住 灰甕直上	深 鉢	口～体部	L.R.縄文	ナ デ	IV 6	44	37
160	第6号住 柱穴埋土	深 鉢	体部	L.R.縄文	ナ デ	?	44	37
161	第6号住 Q3埋土	鉢	底部	L.R.縄文、内外面赤色顔料付着	ミガキ	-	44	37
162	第6号住 埋土	ミニチュア	完形	内面ミガキ	ミガキ	-	44	37
163	第6号住 Q3埋土	土製品	完形	盤文、用途不明	ナ デ	-	44	37
164	第6号住 埋土Q2	土 偶	胴部	板状、胴部・左肩部欠損、唇目状沈線、胸部に2カ所穿孔	-	-	44	37

＜第6号住層部＞

番号	出土地点・層位	器種	部位	文 様 など	内面	分類	図版	写真版
165	第8号住 Q1埋土	深 鉢	口縁部	複線圧痕(口唇部に刻目状にあり)、刺突、横位線絡文	ミガキ	II 1 a	45	37
166	第8号住 Q2埋土	深 鉢	体部	磨削状工具による縦位の条線	ミガキ	III	45	37
167	第8号住 Q2埋土	深 鉢	口縁部	突起、羽状縄文(L.R・R.L)	ミガキ	III	45	37
168	第8号住 ベルト内	深 鉢	口～体部	起筋羽状縄文	ナ デ	III	45	37

＜第9号住層部＞

番号	器 種	出土地点・層位	長さ	幅	厚さ	重さ	石 質	産 地	図版	写真
169	石皿	第9号住 埋土Q2	4.4	1.7	0.6	2.7	濃緑色細粒凝灰岩	九戸-岩倉	45	37
170	石皿	第9号住 埋土Q2	(3.3)	1.4	0.5	(1.9)	粘板岩	九戸-岩倉	45	37
171	石皿	第9号住 内P1埋土	2.9	1.6	0.5	1.3	粘板岩	九戸-岩倉	45	37
172	不定形石器	第9号住 埋土Q2	3.5	5.4	1.0	19.3	チャート	九戸-岩倉	45	37
173	不定形石器	第9号住 埋土	3.6	2.3	1.2	7.8	粘板岩	九戸-岩倉	45	37
174	不定形石器	第9号住 埋土	3.3	3.2	1.9	13.9	チャート	九戸-岩倉	45	37
175	使用痕のある割片	第9号住 埋土Q2	3.6	2.5	1.1	8.7	粘板岩	九戸-岩倉	45	37
176	使用痕のある割片	第9号住 埋土Q4	4.4	2.8	1.2	11.8	赤褐色凝灰岩	九戸-岩倉	45	37
177	磨石	第9号住 埋土Q2	(8.4)	7.4	5.2	(462.3)	凝灰岩質硬砂岩	九戸-久慈	46	38
178	石皿	第9号住 埋土下位	(26.5)	(23.6)	7.1	(6.2)	紫輝輝石・普通輝石安山岩	九戸・二戸環状遺跡付近	46	38

番号	出土地点・層位	器種	部位	文 様 など	内面	分類	図版	写真版
179	第9号住 灰甕脱	深 鉢	口～体部	複線圧痕(隆帯)、線絡文、R.L.R.縄文、体部の一部に横位の唇目	ミガキ	II 1 a	46	38
180	第9号住 Q2埋土	深 鉢	口～体部	起筋圧痕隆帯(4単位突起)、R.L.R.縄文、横位線絡文、粘突起	ナ デ	II 1 a	46	38
181	第9号住 Q2埋土	深 鉢	口～体部	起筋圧痕隆帯、R.L.R.縄文、横位線絡文	ミガキ	II 1 b	47	38
182	第9号住 ベルト内	深 鉢	口～体部	起筋圧痕隆帯、隆帯上に唇目、刺突、L.R.縄文	ミガキ	II 1 c	47	38
183	第9号住 ベルト内	深 鉢	口～底部	波状起筋圧痕隆帯、下方に向く突起、L.R.縄文、波沈線、ボタン状突起	ミガキ	II 1 e	47	38
184	第9号住 Q2埋土	深 鉢	口～体部	起筋圧痕隆帯、折り返し口縁、R.L.縄文	ミガキ	II 2 a	47	38

番号	出土地点・層位	器種	部位	文様など	内面	分類	図版	写真版
185	第9号住 ベルト内	深鉢	口縁部	突起、縹緋斑、粘土結貼付		ミガキ II 2 a	47	38
186	第9号住 ベルト内	甕	頸部	連続罫目、隆帯		ミガキ II ?	47	38
187	第9号住 ベルト内	甕	体部	粘土結、連続罫突列		ナ デ II	47	38

<第1号壺穴状遺構>

番号	器種	出土地点・層位	長さ	幅	厚さ	重さ	石質	産地	図版	写真
188	有溝磁石	第1号 壺穴状埋土Q2	18.6	(12.7)	5.3	(697.8)	凝灰岩	九戸-岩泉	48	39

番号	出土地点・層位	器種	部位	文様など	内面	分類	図版	写真版
189	第1号壺穴状Q1埋土	蓋	口~底部	平行帯状文、ボタン状貼瘤、曲線帯状文、羽状縄文 (LR・RL) 充填	ナ デ	III 3	48	39
190	第1号壺穴状Q1埋土	深鉢	口~体部	先端の尖る貼瘤、入組等縄文		III 4	48	39
191	第1号壺穴状埋土	鉢	体~蓋部	羽状縄文 (LR・RL)	ナ デ	III ?	48	39
192	第1号壺穴状埋土	注口	注口部	ミガキ		IV	48	39
193	第1号壺穴状埋土	注口	体部	半歯状文	ミガキ	IV 2	48	39
194	第1号壺穴状埋土	注口	口縁部	入組三叉文	ミガキ	IV 2	48	39

<第2号壺穴状遺構>

番号	出土地点・層位	器種	部位	文様など	内面	分類	図版	写真版
195	第2号壺穴状埋土	鉢	口~体部	縹緋斑、連続罫突、木目状捺糸文、縹緋刺入	ナ デ	I 1	48	39

<第3号壺穴状遺構>

番号	器種	出土地点・層位	長さ	幅	厚さ	重さ	石質	産地	図版	写真
196	縹緋加工割片	第3号壺穴状埋土Q2	2.7	2.3	1.0	4.5	チャート	九戸-岩泉	48	39

番号	出土地点・層位	器種	部位	文様など	内面	分類	図版	写真版
197	第3号壺穴状Q1埋土	深鉢	口縁部	縹緋斑、縹緋斑隆帯	ナ デ	II 1 a	48	39

表4 土坑内ほか出土遺物観察表

番号	出土地点・層位	器種	部位	文様など	内面	分類	図版	写真		
198	第1号土坑 埋土	深 鉢	口～体部	縹紐庄痕、2個一対の刺突、多輪筋条状庄痕	ミガキ	I 1	49	40		
番号	器種	出土地点・層位	長さ	幅	厚さ	重さ	石質	産地	図版	写真
199	四石・半円状扁平石器	第2号土坑埋土	14.1	7.2	3.8	453.0	紫輝輝石・普通輝石安山岩	九戸・二戸地蔵峠付近	49	40
番号	出土地点・層位	器種	部位	文様など	内面	分類	図版	写真		
200	第2号土坑 埋土	深 鉢	口～体部	縹紐庄痕、隆帯の上に連続刺突、L R 縄文、羽状縄文、横位線結文	ミガキ	I 1	49	40		
201	第2号土坑 埋土	深 鉢	口～底面	縹紐庄痕、隆帯の上に連続刺突、木目状縹赤文	ミガキ	I 1	49	40		
番号	器種	出土地点・層位	長さ	幅	厚さ	重さ	石質	産地	図版	写真
202	磨石	第3号土坑埋土	7.3	5.5	4.4	177.4	紫輝輝石・普通輝石安山岩	九戸・二戸地蔵峠付近	49	40
番号	出土地点・層位	器種	部位	文様など	内面	分類	図版	写真		
203	第3号土坑 埋土	深 鉢	口～体部	弁状突起、2個一対のボタン状痕、縹紐庄痕隆帯、隆帯間爪形刺突	ミガキ	II C	49	40		
番号	器種	出土地点・層位	長さ	幅	厚さ	重さ	石質	産地	図版	写真
204	残核	第6号土坑埋土	6.0	7.8	2.4	111.8	粘板岩質チャート	九戸-岩泉	50	40
番号	出土地点・層位	器種	部位	文様など	内面	分類	図版	写真		
205	第6号土坑 埋土	浅 鉢	口～体部	変形工字文?	ミガキ	IV 5?	50	40		
206	第7号土坑 埋土	香炉形?		結瘤、沈線、R L 縄文	-	III 4	50	40		
207	第8号土坑 埋土	深 鉢	口縁部	口唇部全体押し付け、L R 縄文	ミガキ	II ?	50	40		
番号	器種	出土地点・層位	長さ	幅	厚さ	重さ	石質	産地	図版	写真
208	敲石	第9号土坑埋土	13.6	8.8	3.5	607.0	粘板岩	九戸-岩泉	50	41
209	半円状扁平石器	第9号土坑埋土	13.4	5.4	1.5	172.1	流紋岩	九戸村所尻岳山系	50	41
210	石鏃	第9号土坑埋土	3.9	1.7	0.8	3.7	粘板岩	九戸-岩泉	50	41
211	石筥	第9号土坑埋土	6.9	3.2	1.3	28.6	チャート質粘板岩	九戸-岩泉	50	41
212	網部加工刷片	第9号土坑埋土	3.8	3.2	0.7	9.0	チャート	九戸-岩泉	50	41
番号	出土地点・層位	器種	部位	文様など	内面	分類	図版	写真		
213	第9号土坑 埋土	鉢	口～体部	口唇部外面に連続した調整、R L 縄文	ミガキ	IV 6	50	41		
214	第9号土坑 埋土	深 鉢	体部	R L 縄文、地文後に縦位のなで付け	ミガキ	II	50	41		
215	第9号土坑 埋土	鉢	口～体部	口縁部 R L 縄文、竹筥による隆沈線、刻目結瘤、体部 L R 縄文	ミガキ	II 2 a	51	41		
216	第9号土坑 埋土	鉢	体～底面	R L 縄文、内面に赤色顔料付着	ナゲ	III	51	41		
217	第9号土坑 埋土	深 鉢	口縁部	L R 縄文	ナゲ	IV ?	51	41		
218	第9号土坑 埋土	深 鉢	口縁部	内面に折り返し、R L 縄文 (0段多状)	ミガキ	III	51	41		
219	第9号土坑 埋土	笠	胴部	R L 縄文、工字文	ナゲ	IV 5	51	41		
220	第9号土坑 埋土	香炉形	不明	R L 縄文、沈線、結瘤	-	III 4	51	41		
番号	器種	出土地点・層位	長さ	幅	厚さ	重さ	石質	産地	図版	写真
221	石鏃	第11号土坑埋土	3.3	1.1	0.5	1.1	凝灰質粘板岩	九戸-岩泉	51	41
222	石鏃	第11号土坑埋土	1.9	1.7	0.8	1.2	凝灰質粘板岩	九戸-岩泉	51	41
番号	出土地点・層位	器種	部位	文様など	内面	分類	図版	写真		
223	第12号土坑 埋土	鉢	体～底面	L R 縄文	ミガキ	III ?	51	41		
224	第12号土坑 埋土	注	口体部	半筒状文、連続文	ナゲ	IV 2	51	41		
225	第12号土坑 埋土	深 鉢	口縁部	羽状縄文、口唇部平坦調整	ミガキ	III	51	41		
226	第12号土坑 埋土	深 鉢	口縁部	羽状縄文、外周薄付帯	ミガキ	III	51	41		
227	第15号土坑 埋土	深 鉢	口～体部	縹紐庄痕、内形の連続刺突、木目状縹赤文?	ナゲ	I 1	51	42		
228	第15号土坑 埋土	深 鉢	口～体部	縹紐庄痕、粘土粗貼付、爪形の連続刺突、木目状縹赤文	ナゲ	I 1	51	42		
229	第15号土坑 埋土	深 鉢	口～体部	L R 縄文	ミガキ	III	51	42		

番号	出土地点・層位	器種	部位	文様など	内面	分類	図版	写真版
230	第15号土坑 埋土	洗鉢	口～底部	口縁部に沈線1条	ミガキ	IV 7	51	42
231	第15号土坑 埋土	洗鉢	口～底部	山形の小突起、平行沈線3条、海綿骨針含む、赤色顔料付着	ミガキ	V	52	42
232	第15号土坑 埋土	深鉢	口～底部	L R 縄文	ミガキ	IV 6	52	42
233	第17号土坑 埋土	深鉢	口～底部	変形工字文、R L 縄文、底部下外周に交差する沈線2条	ナデ	V	52	42
234	第17号土坑 埋土	深鉢	口～底部	L R・R L 縄文	ミガキ	IV 6	52	42
235	第17号土坑 埋土	小形鉢	口～底部	L R 縄文、頸部に無文部、平行沈線	ミガキ	V	52	42
236	第17号土坑 埋土	小形鉢	口～底部	羽状縄文 (L R・R L)	ミガキ	III 7	52	42
237	第17号土坑 埋土	深鉢	口～底部	L R 縄文	ナデ	IV 6	52	42
238	第17号土坑 埋土	鉢	口縁部	平行沈線、雲形文?	ナデ	IV 5 7	52	42
239	第17号土坑 埋土	深鉢	口縁部	網目状無文	ナデ	III 1	52	42
240	第17号土坑 埋土	鉢	口縁部	瘤状突起、羽状縄文	ナデ	III 2	52	42
241	第17号土坑 埋土	深鉢	口縁部	磨消縄文 (R L)	ナデ	III 2	52	42
242	第17号土坑 埋土	深鉢	口縁部	R L 縄文 (0段多条)	ミガキ	III	52	42
243	第17号土坑 埋土	深鉢	口縁部	R L 縄文	ナデ	III 2	52	42
244	第17号土坑 埋土	鉢	口縁部	連続文	ミガキ	IV 2	52	42
245	第18号土坑 埋土	深鉢	口縁部	磨消縄文、連続刺突、結節羽状縄文	ミガキ	I 1	53	43
246	第19号土坑 埋土	深鉢	底部	L R 縄文	ナデ	III 7	53	43
247	第21号土坑 埋土	ニチャ7	口～底部	L R 縄文 (0段多条)	ナデ	III	53	43
248	第22号土坑 埋土	深鉢	口縁部	L R 縄文?、沈線	ミガキ	III	53	43
249	第22号土坑 埋土	深鉢	口縁部	羽状縄文、口唇部内面わずかに肥厚	ミガキ	III	53	43

番号	器種	出土地点・層位	長さ	幅	厚さ	重さ	石質	産地	図版	写真
250	底部加工割片	第25号土坑埋土	4.5	4.0	2.6	43.0	チャート質粘板岩	九戸～岩鼻	53	43
251	磨石	第25号土坑埋土	7.7	6.8	4.2	342.4	硬砂岩	九戸～岩鼻	53	43

番号	出土地点・層位	器種	部位	文様など	内面	分類	図版	写真版
252	第25号土坑 埋土	深鉢	口縁部	羽状縄文、口唇部押し付け	ナデ	III 7	53	43

番号	器種	出土地点・層位	長さ	幅	厚さ	重さ	石質	産地	図版	写真
253	不定形石薄	第26号土坑埋土	3.7	3.1	1.3	12.1	チャート質粘板岩	九戸～岩鼻	53	43
254	底部調整割片	第26号土坑埋土	2.7	2.0	0.5	1.7	チャート	九戸～岩鼻	53	43
255	底部調整割片	第26号土坑埋土	3.5	3.2	1.1	6.9	チャート	九戸～岩鼻	53	43

番号	出土地点・層位	器種	部位	文様など	内面	分類	図版	写真版
256	第26号土坑 埋土	深鉢	口縁部	上部が凹む突起、磨消縄文	ナデ	II 7	53	43
257	第26号土坑 埋土	鉢	口縁部	突起、無節L、内外面腐付着	ミガキ	III	53	43
258	第26号土坑 埋土	深鉢	口縁部	沈線、無節L、変位磨消文	ミガキ	I 1	53	43
259	第27号土坑 埋土	深鉢	口～底部	山形突起1、内外面沈線	ミガキ	IV 5	53	43
260	第28号土坑 埋土	深鉢	口縁部	粘土粘貼り付け、刺突	ナデ	II 1 d	53	43
261	第29号土坑 埋土	鉢	口～底部	2条一対の突起、平行沈線、竹管刺突、雲形文	ミガキ	IV 4	53	43
262	第30号土坑 埋土	鉢	底部	沈線	ナデ	I 1	54	43
263	第30号土坑 埋土	深鉢	底部	網目状無文	ミガキ	I 1	54	43
264	第33号土坑 埋土	洗鉢	口～底部	L字文、内面沈線	ミガキ	IV 5	54	43
265	第1号土層埋設遺構	深鉢	口～底部	L R 縄文	ミガキ	IV 6	54	44
266	第2号土層埋設遺構	深鉢	口～底部	L R 縄文	ミガキ	IV 6	54	44
267	第1号伊勢	鉢	口～底部	突起4単位、口唇部磨消、沈線、R L 縄文、内面沈線	ナデ	IV 4	54	43
268	第2号伊勢	鉢	口～底部	粘着、L R 縄文	ナデ	IV 4	54	43
269	第2号伊勢	鉢	口縁部	2条一対の突起、沈線、内面に山形沈線	ナデ	IV 4	54	43
270	第2号伊勢	鉢	口縁部	半面状文、内面沈線	ミガキ	IV 6	54	43

V 遺構外出土遺物

1. 石器・石製品 (図55~69、写真図版45~55)

今回の調査で出土した石器・石製品の総数はおよそ400点で、このうち遺構外から出土したものは約160点である。これらをすべて登録したが、最終的にはフレーク・チップ類を除く116点を掲載した。

石製品を含め器種別に分類したが、その器種内で形状や個々の特徴などによって細分したものもある。細分の仕方は、それぞれ以下に示したとおりである。

a. 石鏃 (23点) ……基部の形状による

I群 無茎鏃

- 1類 平基 (271)
- 2類 凹基 (272~274)
- 3類 円基 (275~279)

II群 有茎鏃

- 1類 凹基 (280~282)
- 2類 凸基 (283~292)
- 3類 1・2類に属さないもの (293)

b. 石匙 (8点) ……刃部の縦・横による

- I群 横長のもの (294~296)
- II群 縦長のもの (297~301)

c. 石笄 (4点) (302~305)

d. 石錐 (2点) (306・307)

e. 不定形石器 (18点) ……加工の施される縁辺の数による

- I群 1縁辺加工 (308~313)
- II群 2~3縁辺加工 (314~322)
- III群 全縁辺加工 (323~325)

f. 残核 (1点) (326)

g. 石斧 (13点)

- I群 磨製のもの (327~338)
- II群 打製のもの (339)

h. 磨石・凹石・敲石・半円状偏平石器 (37点) ……これらは一括して扱い、複数の使用痕が認められる場合はそれぞれの組み合わせで細分している。

- I群 磨石……擦面(磨面)を有する礫石器 (340~353)
- II群 凹石……凹みを有する礫石器 (354~362)
- III群 敲石……敲打痕を有する礫石器 (363)
- IV群 磨石と凹石の特徴を有する礫石器 (364・365)
- V群 敲石と凹石の特徴を有する礫石器 (366・367)

VI群 半円状偏平石器……自然礫の一部を半円状に整形し、反対側の側辺部に擦面を有する礫石器

1類 磨製のもの(368~370)

2類 打製のもの(371~376)

i. 石皿(2点)(337・378)

j. 円盤状石製品(5点)(379~383)

k. 石刀・石棒・石剣類(5点)(384~388)

2. 土器(図70~84、写真図版56~66)

遺構外から出土した土器類の総量は、大コンテナ(42×32×30cm)約15箱である。大半は縄文時代前期後半から晩期末にかけてのものであり、その他には晩期最終末から弥生時代初頭のものが見られる程度である。主体は後期中葉と晩期中葉~後葉である。

ここでは、最近の土器編年研究の成果を考慮しながら、従来の土器型式によって分類を試みた。

<第I群土器> 縄文時代前期の土器群である。

1類 前期後半の円筒下層d式に相当する一群で、口縁部と体部の境に隆帯をもつものともたないものがある。もたないものでも刺突列等によってそれは区別される。(389~427)

2類 同じく前期後半に属する大木6式相当と思われる一群である。竹管による山形の沈線文や刺突文が施される。(428~430)

<第II群土器> 縄文時代中期の土器群で、1類は円筒系、2類は大木系である。さらに各型式毎に細分した。

1類a 中期初頭円筒上層a式に相当する一群。口縁部の弁状突起や撚紐圧痕の施される隆帯等が特徴である。(431~440)

1類b 同じく中期前半の円筒上層b式に相当する土器群で、爪形の撚紐圧痕が隆帯間にみられる。(441~443)

1類c 中期前半から中葉にかけての円筒上層c式に相当する土器群で、1類bの爪形圧痕は爪形の刺突に変わる。(444~445)

1類d 中期中葉円筒上層d式に相当する一群。口縁部から体部上半にかけて細い粘土紐が貼り付けられている。(446~449)

1類e 中期中葉円筒上層e式に位置づけられる。口縁部の突起に沿う細い粘土紐や、平行する沈線による曲線文がみられる。(450~452)

2類a 中期初頭から中葉の大木7・8式相当の土器群である。低い粘土紐の貼付けや撚紐圧痕がみられる。(453~455)

2類b 中期中葉大木9式あるいは最花式に相当する。横位の円形刺突と長楕円文が特徴である。(456)

<第III群土器> 縄文時代後期の土器群である。

1類 後期前葉の十腰内I群に相当する一群で、網目状撚糸文や沈線文がみられる。(457~468)

2類 後期中葉の十腰内II・III群、田柄貝塚第III群土器(手塚:1986)に相当すると思われる一群である。口縁部や頸部にみられる細い刻目列、大きな波状の口縁部にみられる曲線帯縄文が特徴である。(469~481)

3類 同じく中葉の十腰内IV群、田柄貝塚第IV群土器に相当する一群で、高柳壺付土器第1段階(高柳:

1988)にも類似する。「タスキ掛け状入組文」が特徴的である。(482~491)

- 4類 後期後葉の十腰内V群、田柄貝塚第V・VI群土器、高柳瘤付土器第II・III段階に類似するものである。瘤および刺突が多用されるほか、多条沈線による円文が施されるものもみられる。無文の注口土器や浅鉢をこの類としたが、明確ではない。(492~505)
- 5類 後期末葉の土器群で、十腰内V群、田柄貝塚第VII群土器、高柳瘤付土器第IV段階に相当する。歯状の縦線と刻みの入る突起がみられる。(506・507)

<第IV群土器> 縄文時代晩期の土器群である。

- 1類 晩期前葉前半、大洞B式に相当する一群で、入組三叉文を主な特徴とする。(508~513)
- 2類 晩期前葉後半、大洞BC式に相当し、歯状文等が指標となる一群である。(514~530)
なおこの群内では、BC₁式はa類(515~520)、BC₂式はb類(521~530)に細分した。
- 3類 晩期中葉前半、大洞C₁式に相当する一群である。雲形文・X字文等の磨消縄文を特徴とする。また、鉢や深鉢の口縁部に爪形に似た弧状の沈線列が巡るものもみられる。(531~559)
- 4類 晩期中葉後半、大洞C₂式に相当する一群である。各種の磨消縄文が施されるほか、口縁部等に連続する刻目が多用されている。(560~584)
- 5類 晩期後葉、大洞A式に相当する土器群で、工字文を主な文様とする。この他、縦位に大きく展開する沈線による長方形の区画文をもつもの(601)もこの群に含まれる。(585~605)
- 6類 晩期に属すると思われる粗製深鉢を一括した。中には後期のものも含まれている可能性がある。(606~615)
- 7類 同じく晩期に所属すると思われる無文系の土器群を一括した。いずれも丁寧に磨き込まれている。(616~620)

<第V群土器> 縄文時代晩期最終末から弥生時代初頭にかけての土器群である。

青森県名川町剣吉荒町遺跡出土(各区II・III層)の土器群に類似する。口縁部の矢羽状の沈線の特徴とする一群である。(621~628)

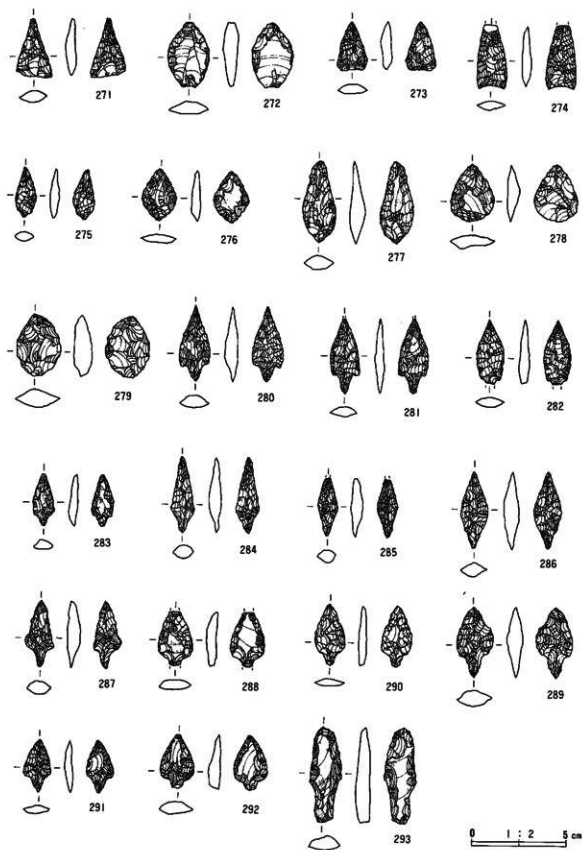
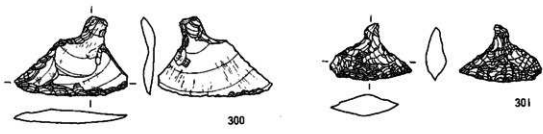
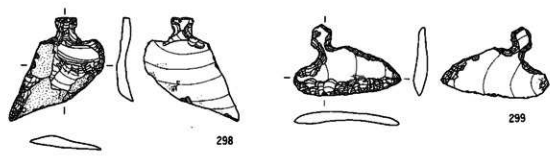
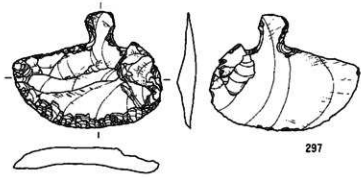
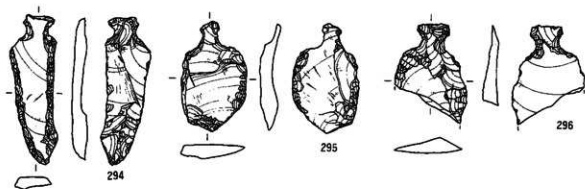


图55 遼寧外出土石器 (1)



0 1 : 2 5 cm

图56 遗物出土石器 (2)

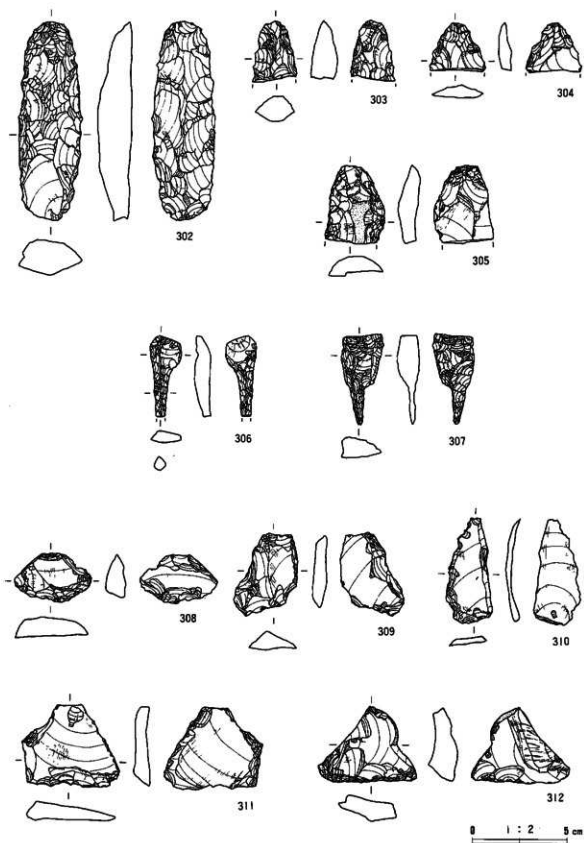


图57 遼寧外出土石器 (3)

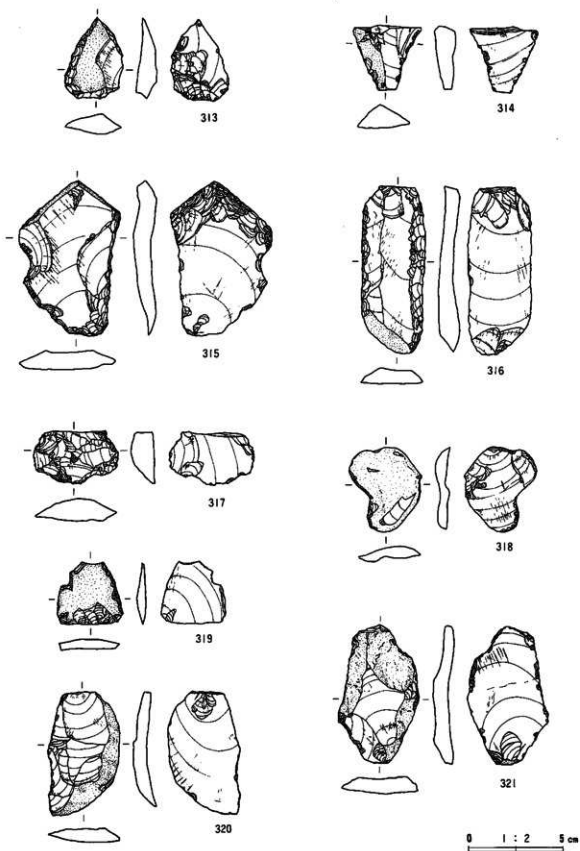


图58 遗構外出土石器 (4)

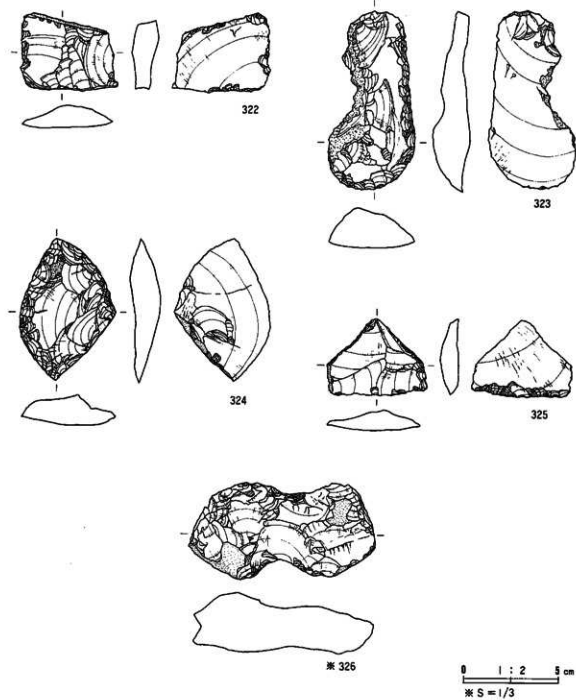


图59 遼寧外出土石器 (5)

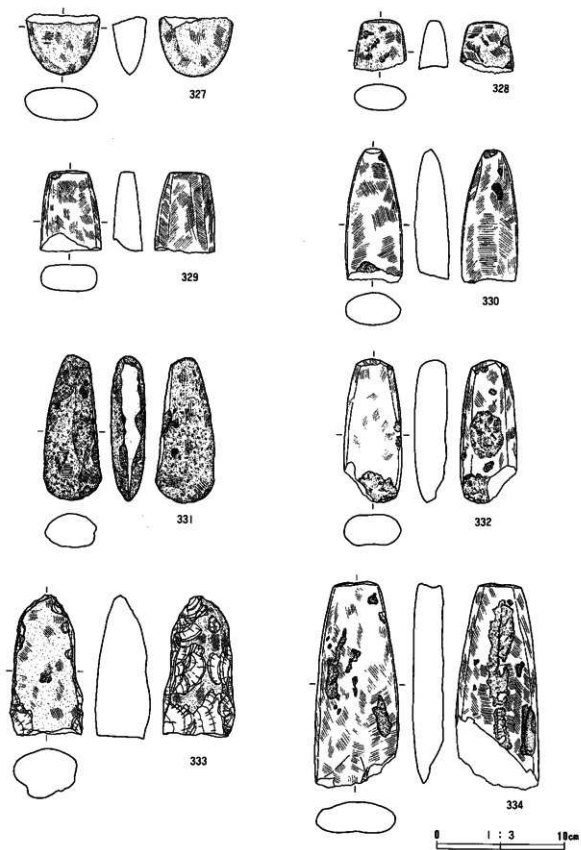


圖60 遼寧外出土石器 (6)

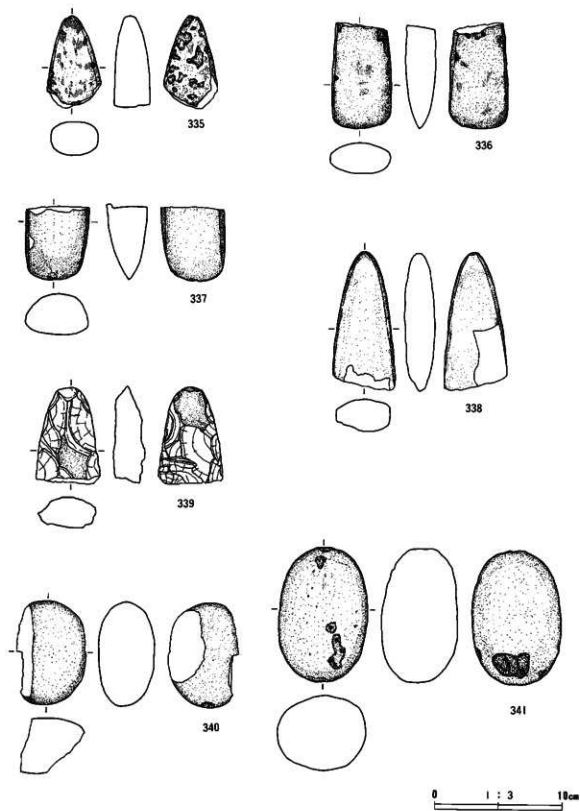


圖61 遼寧外出土石器 (7)

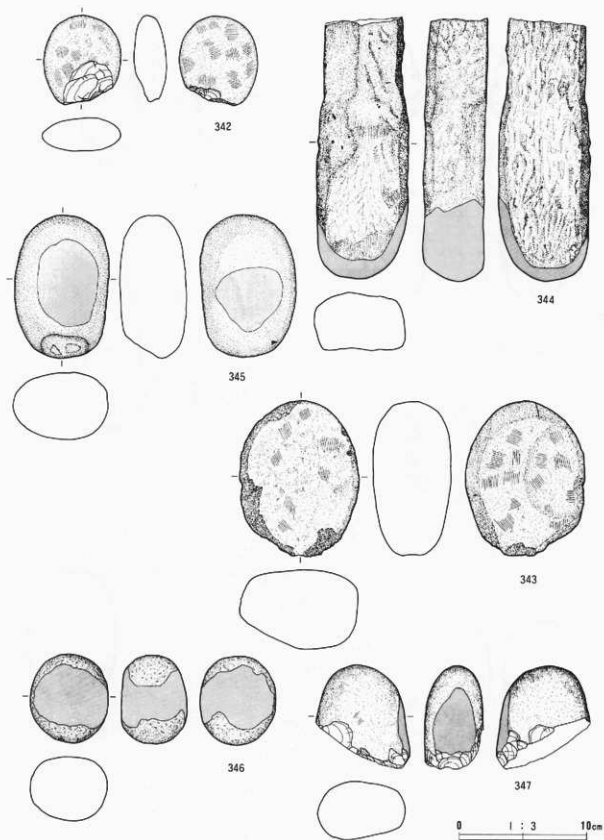


图82 遺構外出土石器 (8)

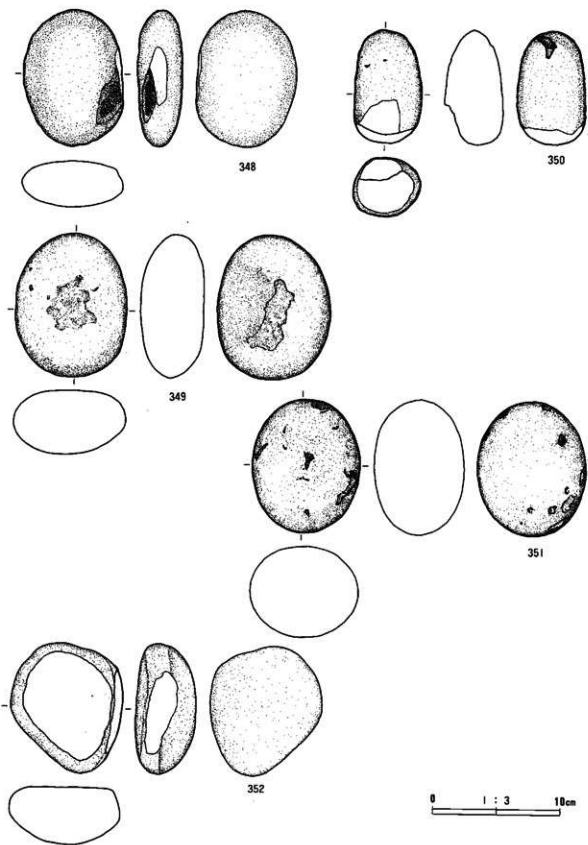


图63 遼寧外出土石器 (9)

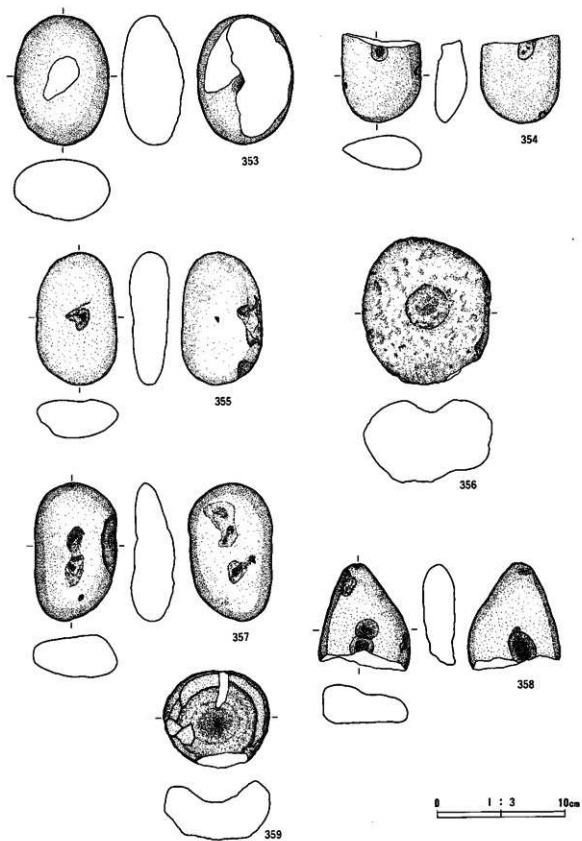


圖64 遺構外出土石器 (10)

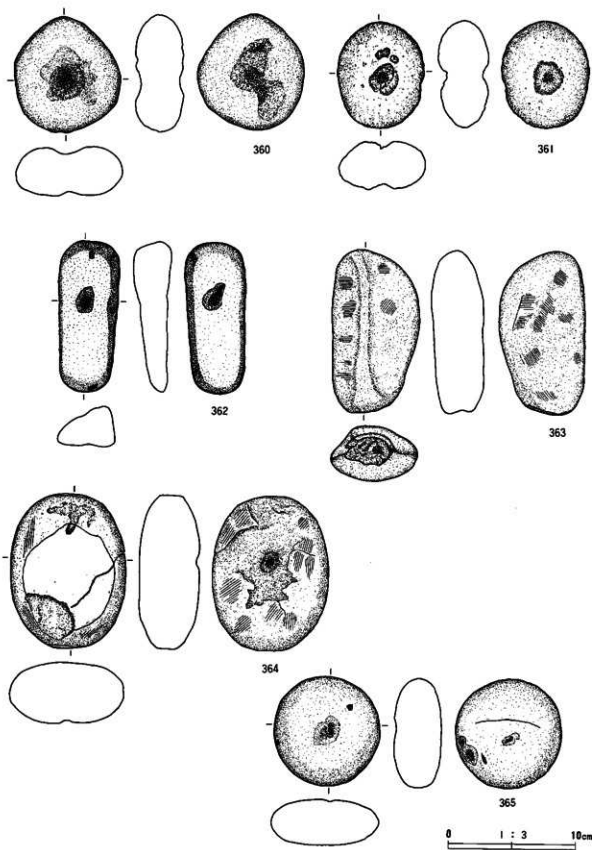


图65 造棚外出土石器 (11)

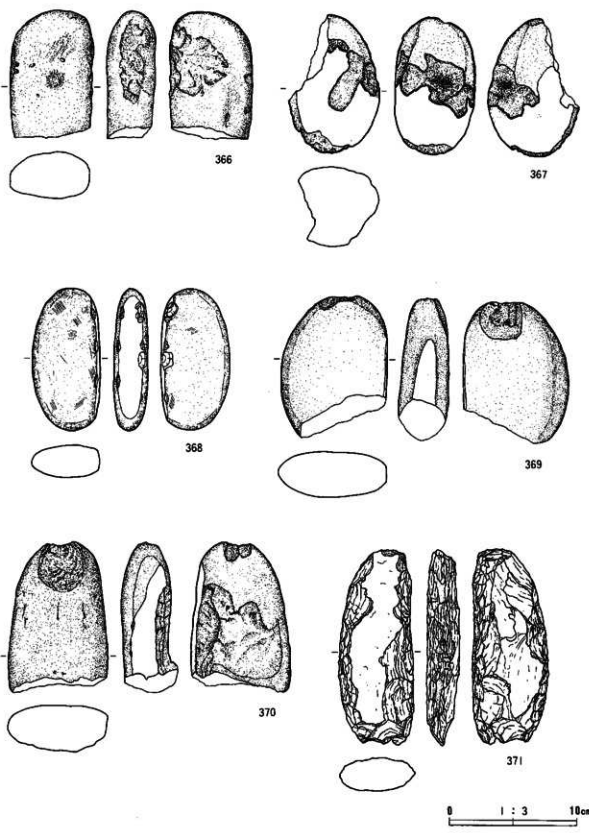


图66 遼寧外出土石器 (12)

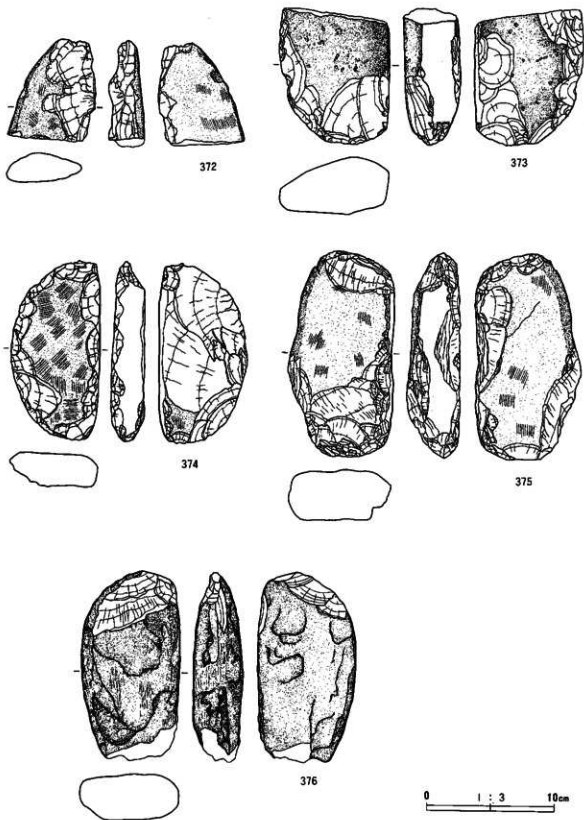


图67 遼寧外出土石器 (18)

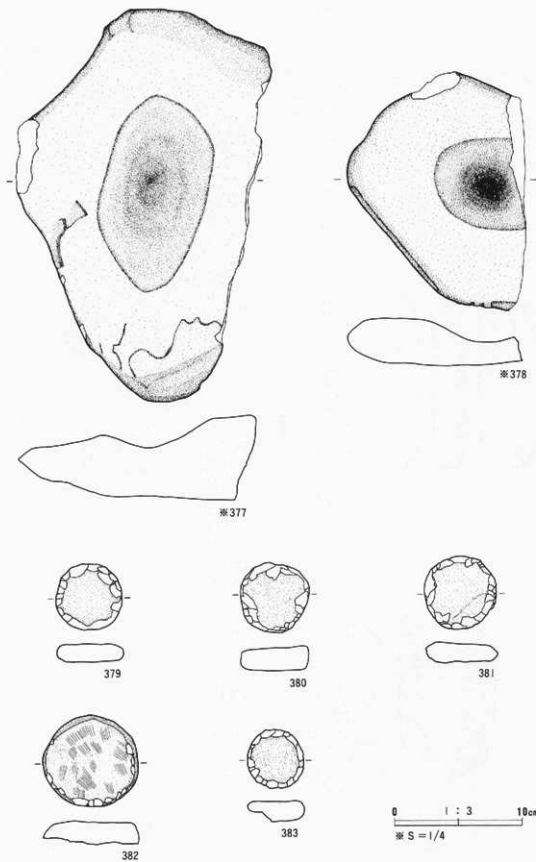


图68 遼構外出土石器 (14) · 石製品 (1)

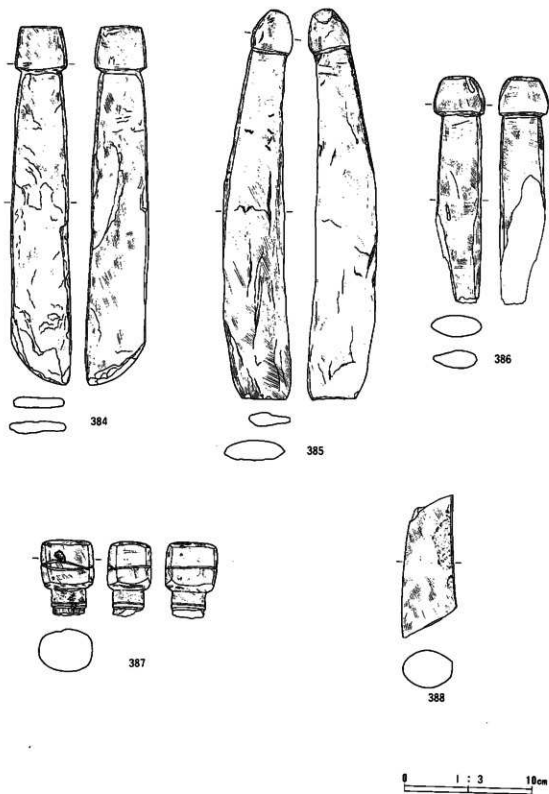


图69 滇南外出土石制品(2)

表5 遺構外出土石器・石製品観察表

()は埋存確

番号	器 種	出土地点・層位	長さ	幅	厚さ	重さ	石 質	産 地	図版	写真
271	石鏃	B20区 I層	3.2	1.9	0.6	2.6	粘板岩	九戸-岩泉	55	45
272	石鏃	B06区 II層	3.5	2.1	0.8	6.1	粘板岩	九戸-岩泉	55	45
273	石鏃	B15区 III層	2.6	1.6	0.6	1.8	凝灰質粘板岩	九戸-岩泉	55	45
274	石鏃	C15区 II層	3.4	1.5	0.5	2.5	凝灰質粘板岩	九戸-岩泉	55	45
275	石鏃	B20区 II~III層	2.7	1.1	0.5	1.2	チャート	九戸-岩泉	55	45
276	石鏃	B18区 I層	2.8	1.9	0.5	2.0	凝灰質粘板岩	九戸-岩泉	55	45
277	石鏃	B18区 I層	4.3	1.7	0.9	5.3	凝灰質粘板岩	九戸-岩泉	55	45
278	石鏃	C16区 II層	3.1	2.3	0.7	4.2	粘板岩	九戸-岩泉	55	45
279	石鏃	B19区 I層	3.3	2.3	1.0	6.9	凝灰質粘板岩	九戸-岩泉	55	45
280	石鏃	B24区 II層	4.0	1.6	0.7	3.2	凝灰質粘板岩	九戸-岩泉	55	45
281	石鏃	B16区 II層	3.9	1.6	0.5	2.4	凝灰質粘板岩	九戸-岩泉	55	45
282	石鏃	B27区 II~III層	3.4	1.5	0.6	2.3	チャート質粘板岩	九戸-岩泉	55	45
283	石鏃	B16区 III層	2.8	1.2	0.5	1.3	チャート	九戸-岩泉	55	45
284	石鏃	B04区 I層	4.0	1.2	0.7	2.5	粘板岩	九戸-岩泉	55	45
285	石鏃	C16区 I層	3.1	1.1	0.7	1.6	凝灰質粘板岩	九戸-岩泉	55	45
286	石鏃	B21区 II層	4.1	1.4	0.8	3.5	チャート粘板岩	九戸-岩泉	55	45
287	石鏃	B16区 II~III層	3.5	1.5	0.7	2.5	粘板岩	九戸-岩泉	55	45
288	石鏃	E29区 II層	2.9	1.8	0.6	3.3	チャート質粘板岩	九戸-岩泉	55	45
289	石鏃	B15区 II層	3.8	1.9	0.9	3.7	チャート	九戸-岩泉	55	45
290	石鏃	C30区 II層	3.2	1.6	0.4	1.9	チャート質粘板岩	九戸-岩泉	55	45
291	石鏃	C16区 II層	2.8	1.5	0.4	1.3	凝灰質粘板岩	九戸-岩泉	55	45
292	石鏃	B02区 II層	2.9	1.8	0.7	2.7	凝灰質粘板岩	九戸-岩泉	55	45
293	石鏃	C16区 II層	5.1	1.7	0.8	7.0	粘板岩	九戸-岩泉	55	45
294	石鏃	E29区 II層	7.8	2.6	0.8	15.3	チャート質粘板岩	九戸-岩泉	56	46
295	石鏃	E29区 II層	5.8	3.4	1.0	19.1	凝灰質粘板岩	九戸-岩泉	56	46
296	石鏃	C15区 II層	5.3	3.9	0.9	13.4	凝灰質粘板岩	九戸-岩泉	56	46
297	石鏃	B21区 III層	6.2	7.9	1.3	41.8	チャート	九戸-岩泉	56	46
298	石鏃	B21区 I層	5.5	5.0	0.8	13.2	チャート質粘板岩	九戸-岩泉	56	46
299	石鏃	B20区 II~III層	3.8	5.7	0.7	9.1	凝灰質粘板岩	九戸-岩泉	56	46
300	石鏃	C15区 II層	4.2	5.9	0.8	15.3	凝灰質粘板岩	九戸-岩泉	56	46
301	石鏃	B16区 I~II層	3.0	4.3	1.1	6.9	赤褐色凝灰岩	九戸-岩泉	56	46
302	石鏃	B14区	10.6	3.4	1.8	72.9	凝灰質粘板岩	九戸-岩泉	57	46
303	石鏃	B18区 I層	3.3	2.3	1.4	9.0	極細粒凝灰岩	九戸-岩泉	57	46
304	石鏃	B26区 III層	2.6	3.0	0.1	5.4	凝灰質粘板岩	九戸-岩泉	57	46
305	石鏃	E30区 II層	4.2	3.2	1.2	16.2	粘板岩	九戸-岩泉	57	46
306	石鏃	B06区 II層	4.3	1.7	0.9	4.5	チャート	九戸-岩泉	57	47
307	石鏃	B19区 II層	4.8	2.2	1.1	9.7	赤褐色凝灰岩	九戸-岩泉	57	47
308	不定形石鏃	地点不明	2.6	4.1	1.2	12.5	凝灰質粘板岩	九戸-岩泉	57	47
309	不定形石鏃	地点不明	4.4	3.4	1.0	11.8	凝灰質粘板岩	九戸-岩泉	57	47
310	不定形石鏃	B19区 I層	5.6	2.4	0.8	5.7	凝灰質粘板岩	九戸-岩泉	57	47
311	不定形石鏃	地点不明	4.4	5.1	1.0	21.4	粘板岩	九戸-岩泉	57	47
312	不定形石鏃	C16区 I~II層	4.0	5.2	1.6	23.6	チャート質粘板岩	九戸-岩泉	57	47
313	不定形石鏃	J32区 I層	4.3	3.1	1.1	11.7	チャート質粘板岩	九戸-岩泉	58	47
314	不定形石鏃	B21区 I層	3.5	3.6	1.3	11.4	チャート質粘板岩	九戸-岩泉	58	47
315	不定形石鏃	B15区 I層	8.2	5.3	1.0	52.0	粘板岩	九戸-岩泉	58	47
316	不定形石鏃	地点不明	8.9	3.4	1.1	42.4	チャート質凝灰粘板岩	九戸-岩泉	58	47
317	不定形石鏃	地点不明	2.8	4.5	1.3	16.1	チャート質粘板岩	九戸-岩泉	58	47
318	不定形石鏃	M32区 II層	4.6	3.9	0.7	16.1	チャート	九戸-岩泉	58	48
319	不定形石鏃	C14区 I層	3.3	3.5	0.5	6.3	チャート	九戸-岩泉	58	48
320	不定形石鏃	C16区 II層	6.5	3.9	0.7	24.6	粘板岩	九戸-岩泉	58	48
321	不定形石鏃	C16区 II層	7.3	4.3	1.0	27.9	極細粒凝灰岩	九戸-岩泉	58	48
322	不定形石鏃	B16区 III層	4.2	5.2	1.4	31.9	凝灰質粘板岩	九戸-岩泉	59	48

番号	部 種	出土地点・層位	長さ	幅	厚さ	重さ	石 質	産 地	図版	写真
323	不定形石器	E28区 田層	9.4	4.6	2.1	73.8	赤褐色凝灰岩質チャート	九戸一帯一岩泉	59	48
324	不定形石器	C15区 Ⅱ層	7.6	5.2	1.6	47.6	凝灰岩粘板岩	九戸一岩泉	59	48
325	不定形石器	C16区 Ⅰ～Ⅱ層	4.1	5.3	1.1	18.7	粘板岩	九戸一岩泉	59	48
326	残核	D29区 Ⅱ層	7.6	14.6	5.7	471.7	粘板岩質チャート	九戸一岩泉	59	49
327	石斧(磨製)	C16区 Ⅱ層	4.7	5.8	2.4	94.4	凝灰岩質硬砂岩	九戸一久慈	60	49
328	石斧(磨製)	D29区 Ⅱ層	4.1	4.1	2.1	57.7	凝灰岩質硬砂岩	九戸一久慈	60	49
329	石斧(磨製)	M31区 Ⅱ層	6.3	4.8	2.3	123.2	暗緑色粗粒凝灰岩	九戸一久慈	60	49
330	石斧(磨製)	C09区	10.5	4.4	2.8	196.2	凝灰岩質硬砂岩	九戸一久慈	60	49
331	石斧(磨製)	C07区 Ⅱ～Ⅲ層	11.3	4.6	2.7	191.9	凝灰岩質硬砂岩	九戸一久慈	60	49
332	石斧(磨製)	表裏採集	11.2	4.5	2.6	220.5	シツ輝石・フツク輝石安山岩	九戸・二戸境線跡付近	60	49
333	石斧(磨製)	B19区 Ⅰ層	11.1	5.8	4.3	396.0	凝灰岩質硬砂岩	九戸一久慈	60	49
334	石斧(磨製)	B27区 田層	16.3	6.6	2.5	466.2	暗緑色粗粒凝灰岩	九戸一岩泉	60	49
335	石斧(磨製)	C17区 Ⅰ層下	7.3	4.3	2.9	128.3	凝灰岩質硬砂岩	九戸一久慈	61	49
336	石斧(磨製)	C16区 Ⅰ層下	8.3	4.6	2.4	175.6	凝灰岩質硬砂岩	九戸一久慈	61	49
337	石斧(磨製)	L31区 Ⅱ層下	5.9	5.6	3.4	131.3	凝灰岩質硬砂岩	九戸一久慈	61	49
338	石斧(磨製)	B09区 礫島層	10.9	4.9	2.6	182.4	凝灰岩質硬砂岩	九戸一久慈	61	49
339	石斧(打製)	C16区 Ⅱ層	7.6	5.1	2.4	116.8	安山岩	籠市一久慈地区(籠津近)	61	49
340	磨石	地点不明	8.2	5.5	4.4	248.5	凝灰岩質硬砂岩	九戸一久慈	61	50
341	磨石	C13区 Ⅰ～Ⅱ層	10.6	7.1	6.1	674.3	花崗閃緑岩	籠米一大野村以東	61	50
342	磨石	B24区 Ⅱ層	7.0	6.1	2.6	154.1	硬砂岩	九戸一岩泉	62	50
343	磨石	B24区 Ⅱ層	12.3	9.4	6.2	1011.2	花崗閃緑岩	籠米一大野村以東	62	50
344	磨石	B26区 Ⅱ層下	20.9	7.3	4.8	1125.0	流紋岩	九戸村折爪山系	62	50
345	磨石	B19区 Ⅰ層	11.3	7.1	5.3	682.8	硬砂岩	九戸一岩泉	62	50
346	磨石	C25区 Ⅰ層	6.0	6.0	5.1	330.1	陸岩	久慈(夏井)	62	50
347	磨石	C14区 Ⅰ～Ⅱ層	8.2	7.4	4.7	354.1	硬砂岩	九戸一岩泉	62	50
348	磨石	C13区 Ⅱ層	10.9	8.0	3.7	470.0	安山岩	籠市一久慈地区(籠津近)	63	50
349	磨石	B18区 Ⅰ層	11.3	8.9	5.1	764.2	硬砂岩	九戸一岩泉	63	50
350	磨石	B18区 Ⅰ層	8.9	5.5	4.7	327.1	凝灰岩質硬砂岩	九戸一久慈	63	51
351	磨石	B30区 Ⅱ層	10.5	8.5	7.1	906.8	花崗閃緑岩	籠米一大野村以東	63	51
352	磨石	B13区 Ⅰ～Ⅱ層	10.3	8.8	4.8	576.0	凝灰岩	九戸一岩泉	63	51
353	磨石	B11区 Ⅱ層	10.2	7.5	4.8	513.7	硬砂岩	九戸一岩泉	64	51
354	凹石	B25区	7.1	6.3	2.7	151.8	凝灰岩	九戸一岩泉	64	51
355	凹石	C13区 Ⅰ～Ⅱ層	10.5	6.4	3.2	287.8	凝灰岩	九戸一岩泉	64	51
356	凹石	B23区 Ⅰ層	11.7	10.1	5.5	924.3	安山岩	籠市一久慈地区(籠津近)	64	51
357	凹石	C13区 Ⅱ層	10.9	6.6	3.6	319.0	シツ輝石・フツク輝石安山岩	九戸・二戸境線跡付近	64	51
358	凹石	C16区 Ⅱ層	8.6	7.4	3.1	245.5	安山岩	籠市一久慈地区(籠津近)	64	51
359	凹石	C10区 礫島層	8.3	7.7	4.6	250.2	安山岩	籠市一久慈地区(籠津近)	64	51
360	凹石	B18区 Ⅰ層	9.2	8.4	3.9	375.3	シツ輝石・フツク輝石安山岩	九戸・二戸境線跡付近	65	52
361	凹石	B13区	8.4	6.9	4.6	275.9	シツ輝石・フツク輝石安山岩	九戸・二戸境線跡付近	65	52
362	凹石	B14区 Ⅱ層下	12.0	4.9	3.3	233.5	硬砂岩	九戸一岩泉	65	52
363	磨石	B19区 Ⅰ層	12.8	6.9	4.3	537.1	硬砂岩	九戸一岩泉	65	52
364	磨石+凹石	B13区 Ⅰ～Ⅱ層	12.1	9.1	4.8	796.9	凝灰岩質硬砂岩	九戸一久慈	65	52
365	磨石+凹石	D28区 Ⅱ層	8.7	8.4	3.7	400.9	硬砂岩	九戸一岩泉	65	52
366	磨石+凹石	B14区 田層	10.0	6.6	3.7	398.9	凝灰岩	九戸一岩泉	66	52
367	磨石+凹石	C14区 Ⅰ～Ⅱ層	10.9	7.2	6.4	577.5	安山岩	籠市一久慈地区(籠津近)	66	52
368	半円状扁平石器	C16区 Ⅱ層	10.2	5.4	2.7	278.8	凝灰岩質硬砂岩	九戸一久慈	66	53
369	半円状扁平石器+磨石	C27区	11.3	8.5	4.0	576.9	凝灰岩質硬砂岩	九戸一久慈	66	53
370	半円状扁平石器+磨石	G31区 Ⅱ層	11.8	7.9	4.5	575.8	シツ輝石・フツク輝石安山岩	九戸・二戸境線跡付近	66	53
371	半円状扁平石器	B24区 Ⅰ層	15.4	5.9	2.6	318.7	淡緑色凝灰岩質千枚岩	九戸一岩泉	66	53
372	半円状扁平石器	L31区 Ⅰ層	8.4	6.3	2.8	169.3	凝灰岩	九戸一岩泉	67	53
373	半円状扁平石器	表裏採集	10.7	8.7	4.6	567.7	シツ輝石・フツク輝石安山岩	九戸・二戸境線跡付近	67	53
374	半円状扁平石器	C13区 Ⅰ～Ⅱ層	14.3	7.0	2.7	395.6	凝灰岩	九戸一岩泉	67	53
375	半円状扁平石器	C17区 Ⅰ層下	16.2	8.3	4.2	831.0	粘板岩	九戸一岩泉	67	53
376	半円状扁平石器	C13区 Ⅱ層	15.0	7.9	3.9	514.4	淡緑色凝灰岩質千枚岩	九戸一岩泉	67	53

番号	器 種	出土地点・層位	長さ	幅	厚さ	重さ	石 質	産 地	図版	写真
377	石皿	B25区 II層	41.7	27.1	8.9	11.5K	凝灰岩	九戸村折爪岳山系	68	54
378	石皿	B11区 I層	25.3	18.9	5.0	3.2K	硬砂岩	九戸-巻泉	68	54
379	円盤状石製品	C18区 I層	5.2	5.3	1.4	70.9	凝灰岩質硬砂岩	九戸-久慈	68	54
380	円盤状石製品	C20区 II層	5.5	5.4	1.9	87.1	凝灰岩	九戸-巻泉	68	54
381	円盤状石製品	C14区 I層下	5.8	5.7	1.6	73.4	凝灰岩	九戸-巻泉	68	54
382	円盤状石製品	C16区 II層	7.3	7.5	1.9	170.2	粘板岩	九戸-巻泉	68	54
383	円盤状石製品	C22区 II層	4.6	4.4	1.6	39.0	凝灰岩	九戸-巻泉	68	54
384	石刀	D29区 II層	28.4	4.7	1.0	246.7	粘板岩	九戸-巻泉	69	55
385	石刀	D29区 II層	30.8	5.3	1.5	371.9	粘板岩	九戸-巻泉	69	55
386	石刀	C23区 II層	17.8	4.0	1.7	156.4	粘板岩	九戸-巻泉	69	55
387	石棒	C17区 II層	6.0	4.1	3.4	124.7	粘板岩	九戸-巻泉	69	55
388	石剣	B13区 I層	11.4	4.3	2.9	223.7	凝灰岩質硬砂岩	九戸-久慈	69	55

Kはkgの略

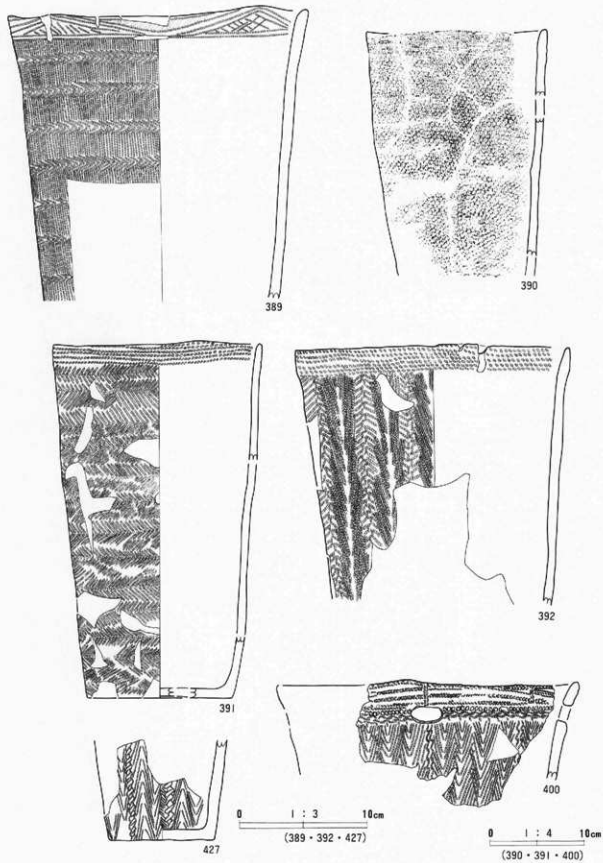
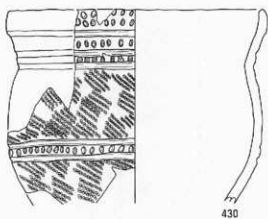
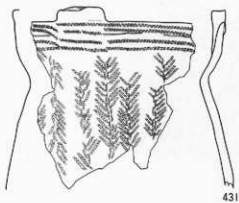


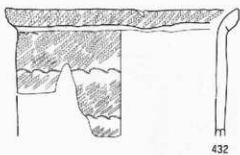
图70 遺構外出土土器 (1) I 群実測図



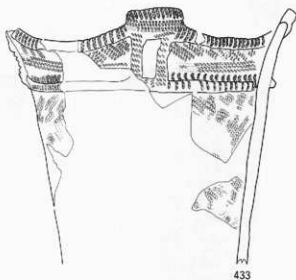
430



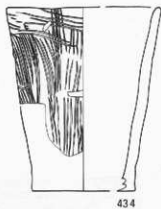
431



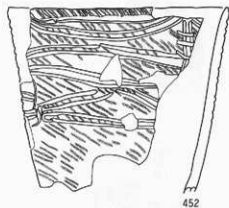
432



433



434



452

0 1 : 3 10cm

图71 遺構外出土土器(2) ……II群実測図

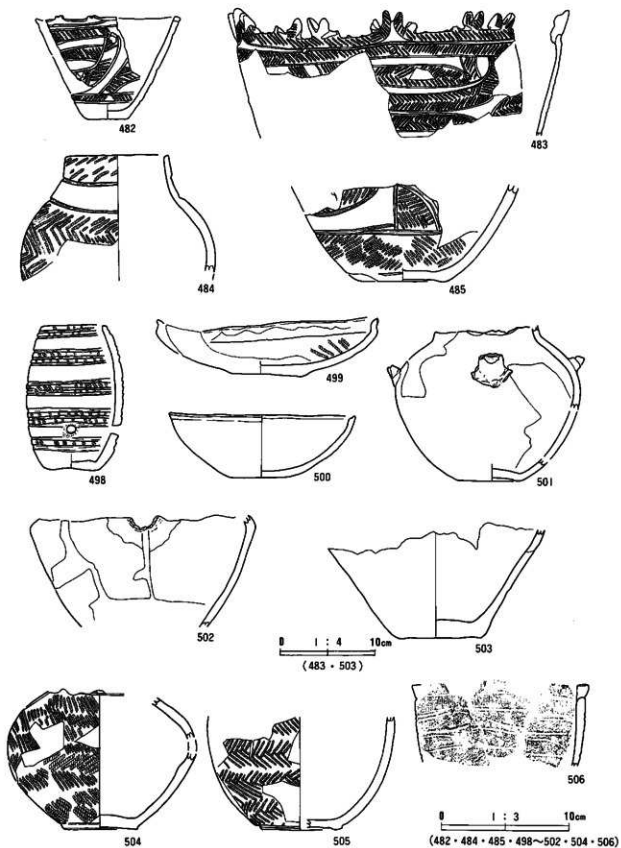


图72 造桥外出土土器(3)Ⅲ群実測図

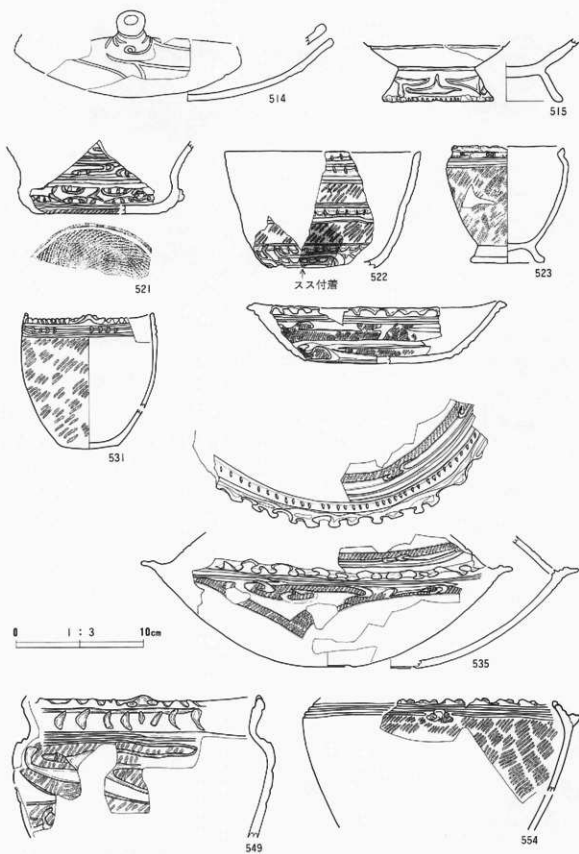


図73 遺構外出土土器(4) ……IV群実測図①

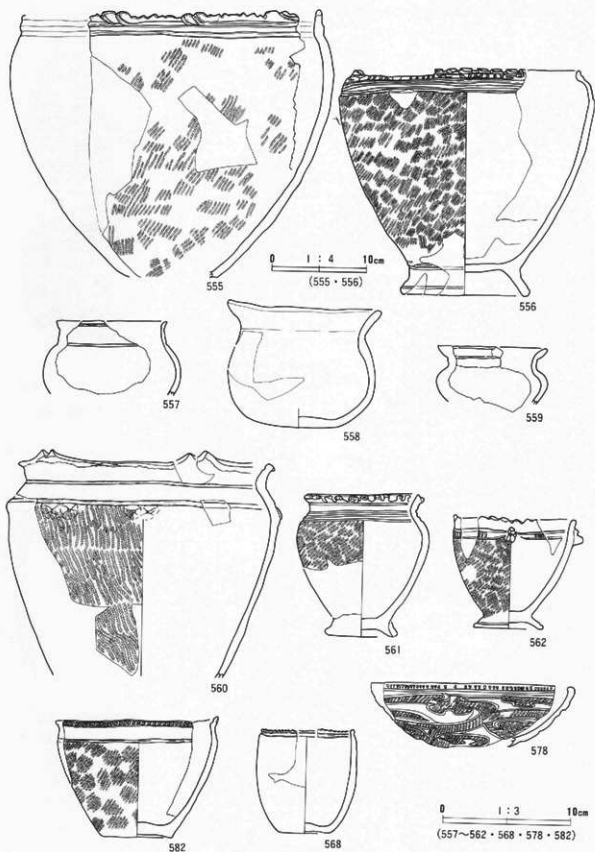


图74 遺構外出土土器(5) ……IV群実測図②

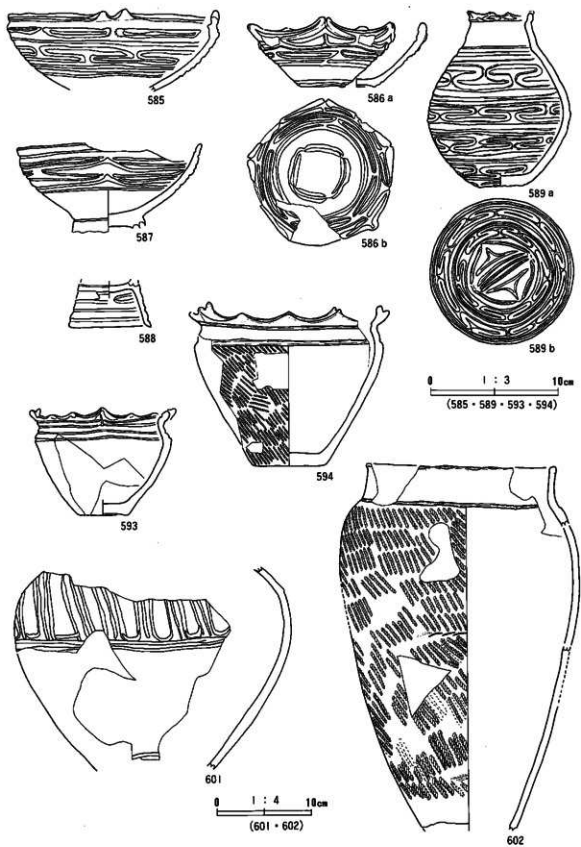


图75 遼寧外出土土器(6)IV群突洞①

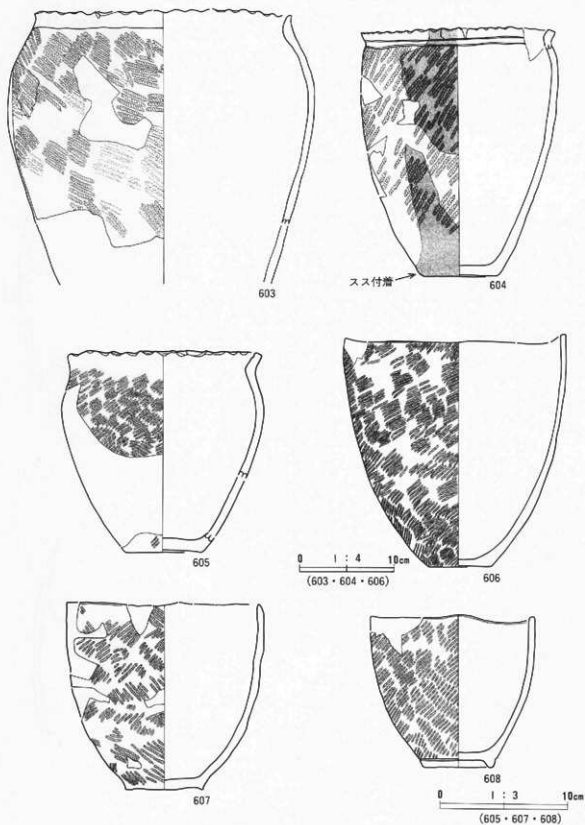


図76 遺構外出土土器(7) ……IV群実測図④

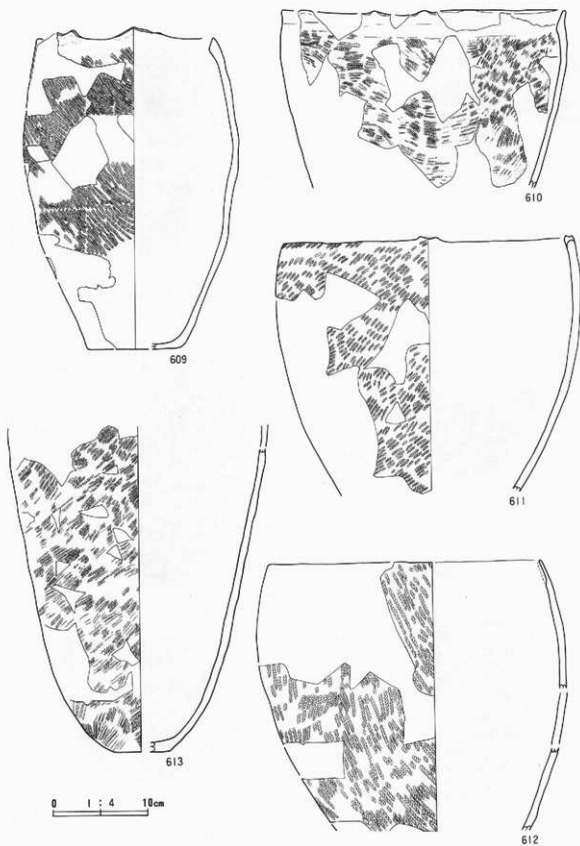


图77 遺構外出土土器 (8) ……IV群実測図⑤

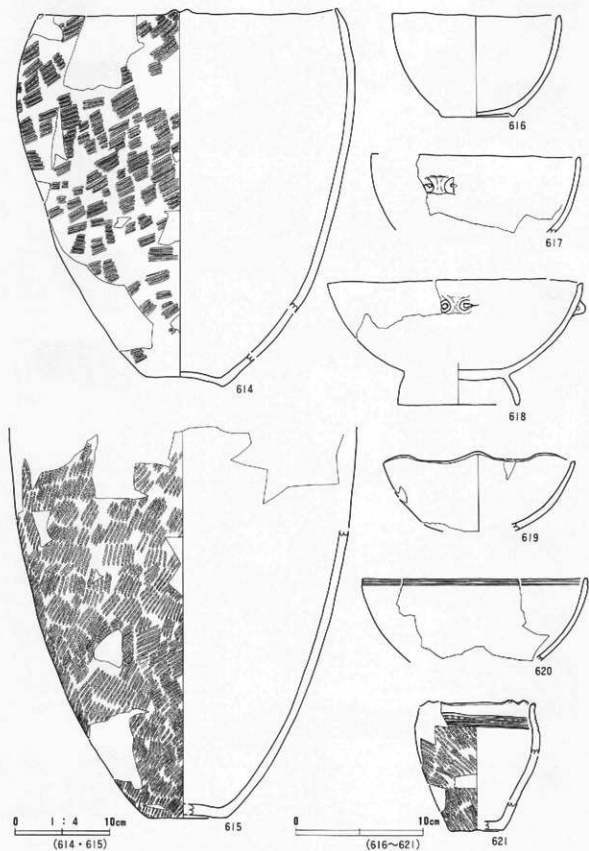


图78 遼構外出土土器 (9) ……IV群⑥・V群実測図

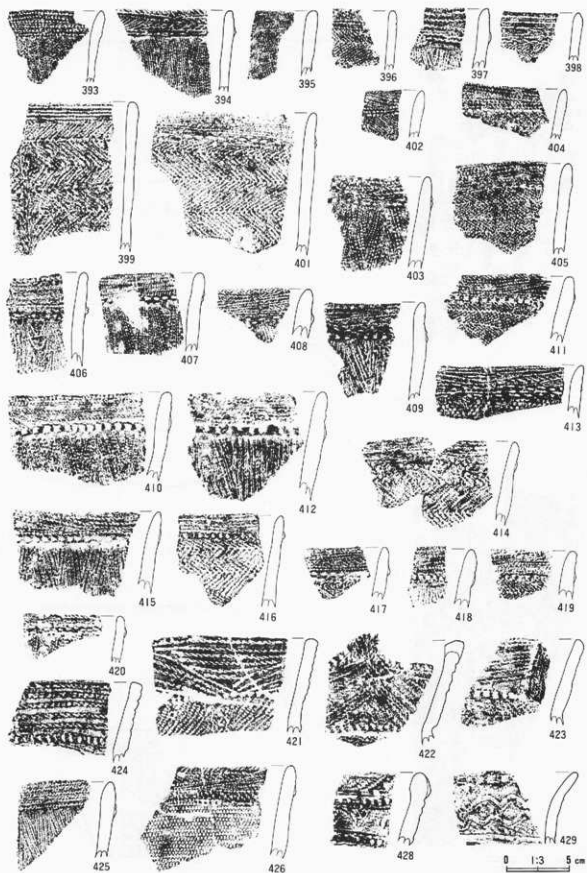


图79 造桥外出土土器(10) I群拓影图

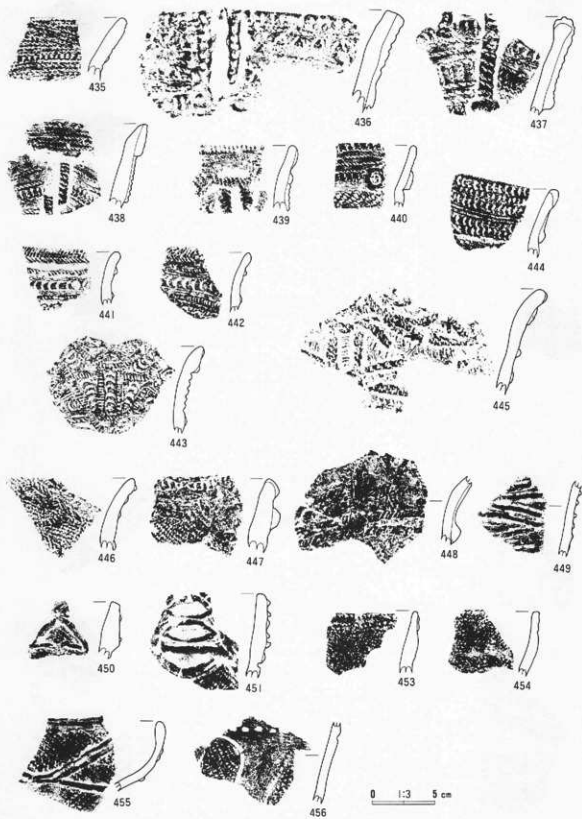


图80 遼構外出土土器 (11)II群拓影图

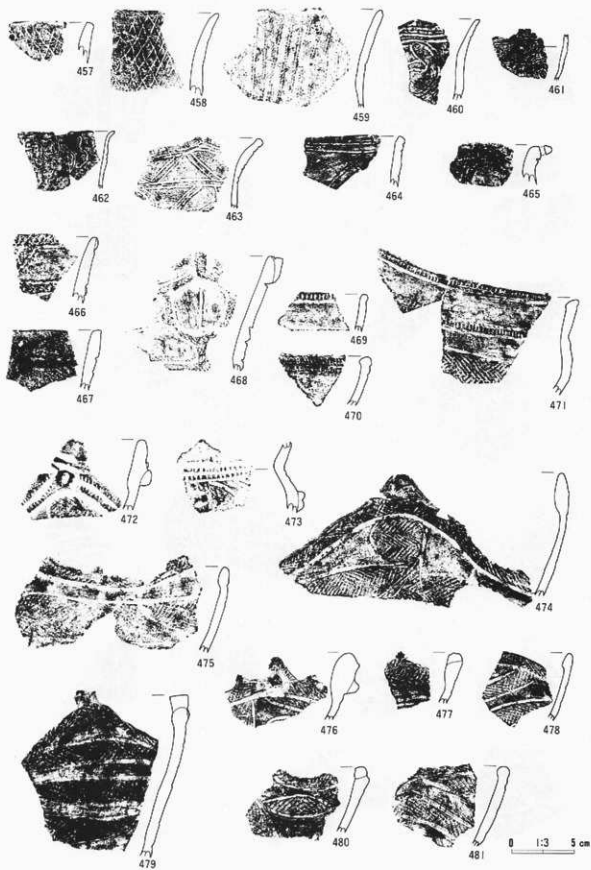


图81 道溝外出土土器 (12) ……Ⅲ群拓影图①

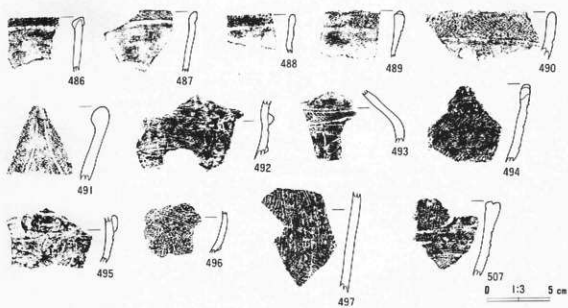


图82 遼構外出土土器 (13) ……III群拓影图②

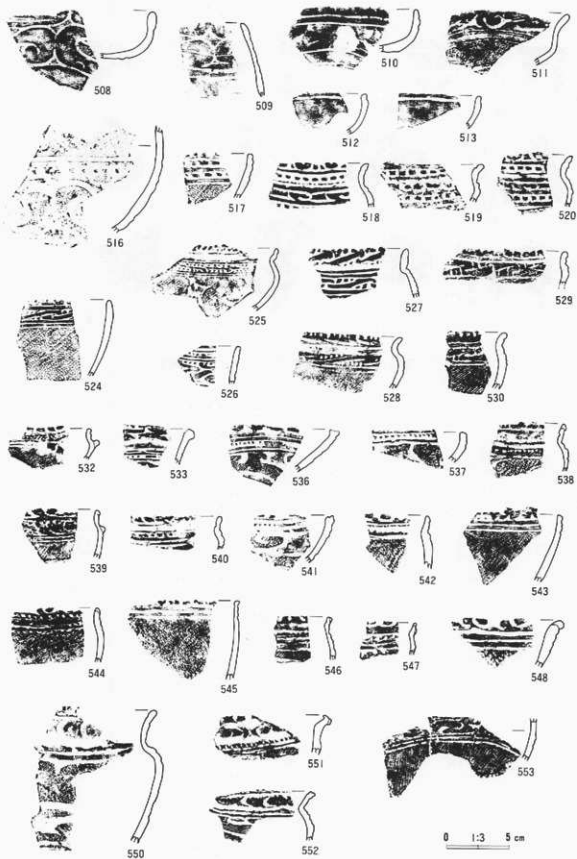


图83 道模外出土土器 (14) ……IV群拓影图①

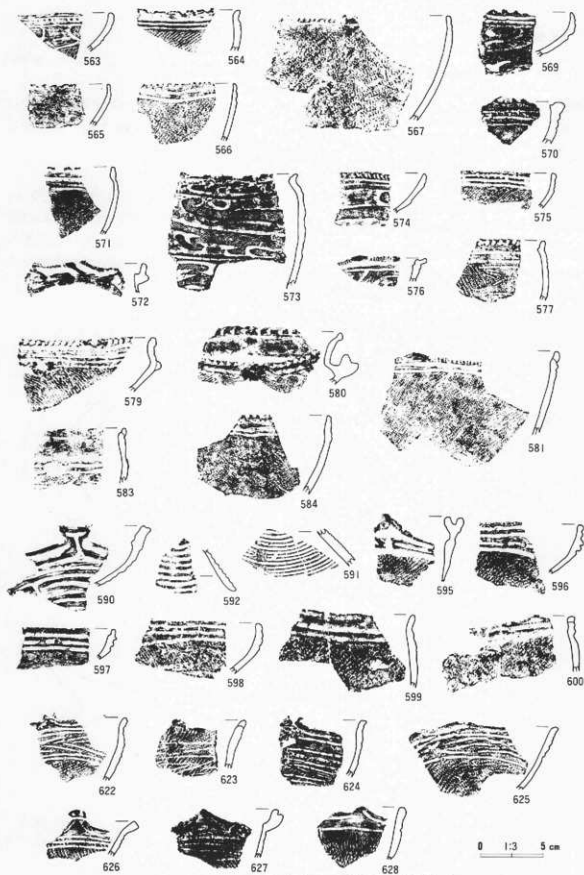


图84 遼南外出土土器 (15)IV群②·V群拓影圖

3. 土製品類 (図85・86、写真図版67)

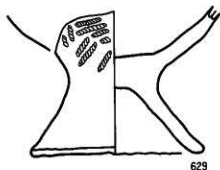
遺構外から出土した土製品類 (ミニチュアを含める) は、全体の遺物量の割に少なく、土偶3点・滑車形耳飾り1点・耳栓1点・円盤状土製品2点・ミニチュア土器4点の計11点である。

629～632はミニチュア土器で、632のみ晩期に、他は後期に属するものと思われる。630は丁寧なミガキが施され、631には内外面に赤色顔料が塗布されている。632は波打つ口縁に刻みがみられ、平行する沈線が全体に施されている。

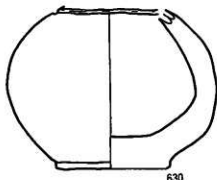
633・634は円盤状土製品でこの2点のみ出土した。

635～637は土偶の欠損品である。635は後期と考えられる小型土偶の胴部で、頭部および左右手足を欠く。粘土紐の貼り付けにより、表裏を区別している。636は右腕部破片で、表側は沈線、裏側は沈線と円形の刺突が施されている。晩期後葉か、裏面の円形刺突のあり方から弥生時代に属する可能性がある。637は左腕部で、晩期後葉～末葉のものであろう。先端部には小さな刺突が多数施され、その部分にのみ赤色顔料が塗布されている。

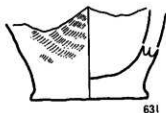
638は耳栓で全体が顔料によって赤味を帯びている。639は滑車形の耳飾りである。



629



630



631



632

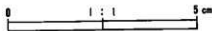


図85 遺構外出土ミニチュア土器

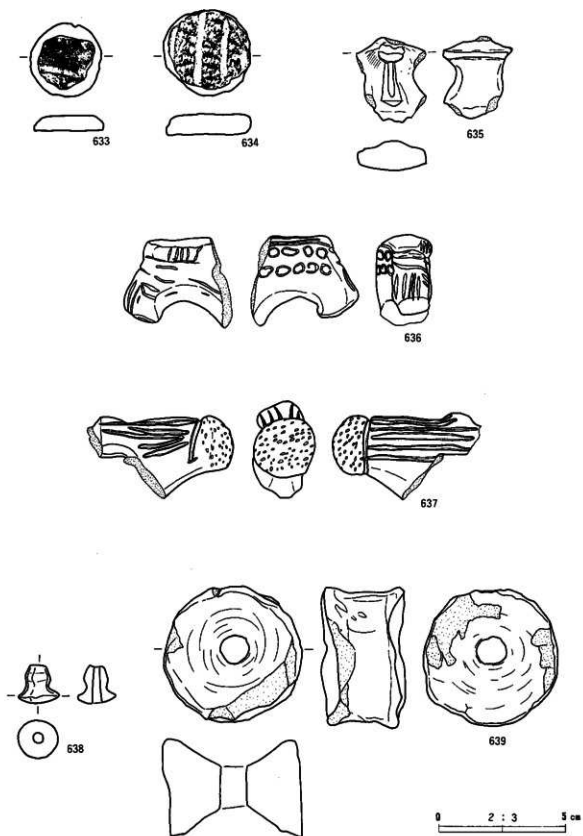


图86 遼博外出土土製品類

表6 遺構外出土土器観察表

番号	出土地点・層位	器種	部位	文様など	内面	分層	数量	写真撮影
389	C14区 I~II層	深鉢	口~体部	幾何学状の襷組圧痕、襷糸文、羽状縄文	ミダキ	II	70	56
390	B13区 II~III層	深鉢	口~体部	襷組圧痕(縦・横)、多軸線条体回転	ミダキ	II	70	56
391	B14区 II~III層	深鉢	口~底部	襷組圧痕、結晶羽状縄文	ミダキ	II	70	56
392	B14区	深鉢	口~体部	襷組圧痕、木目状襷糸文、縦線文	ミダキ	II	70	56
393	B23区 II層	深鉢	口~縁部	襷組圧痕、木目状襷糸文、縦線文	ミダキ	II	79	56
394	B13区 II層	深鉢	口縁部	縦線合、襷組圧痕、襷帯の上に襷組圧痕、木目状襷糸文	ミダキ	II	79	56
395	B16区 II層	深鉢	口縁部	縦線合、襷帯等圧痕、木目状襷糸文	ミダキ	II	79	56
396	C15区 II層	深鉢	口縁部	縦線合、襷組圧痕、結晶羽状縄文	ミダキ	II	79	56
397	B15区 II層	深鉢	口縁部	縦線合、襷組圧痕、襷帯の上に襷組圧痕、木目状襷糸文	ミダキ	II	79	56
398	B22区 II層	深鉢	口縁部	襷組圧痕、不整縦線文	ミダキ	II	79	56
399	B25区 III層	深鉢	口縁部	縦線合、襷組圧痕、付加条組末羽状縄文、縦位不整縦線文	ミダキ	II	79	56
400	C16区 II~III層	深鉢	体部	襷組圧痕、連続刺突、縦線文、木目状襷糸文、突起前穿孔	ナデ	II	70	56
401	C15区 I層	深鉢	口縁部	縦線合、襷の裏の回転、襷帯の上に刺突、結晶羽状縄文	ナデ	II	79	56
402	C14区 I層	深鉢	口縁部	襷組圧痕、刺突文、付加条組末羽状縄文	ミダキ	II	79	56
403	B19区 I~II層	深鉢	口縁部	縦線合、襷帯等の上に刺突、木目状襷糸文	ミダキ	II	79	56
404	C14区 I~II層	深鉢	口縁部	襷組圧痕、刺突文、付加条組末羽状縄文	ミダキ	II	79	56
405	C16区 II層	深鉢	口縁部	縦線合、襷組圧痕、半線竹管状の刺突、結晶羽状縄文	ミダキ	II	79	57
406	B25区 III層	深鉢	口縁部	縦線合、襷組圧痕、襷帯の上に刺突、木目状襷糸文	ミダキ	II	79	57
407	B07区 II層	深鉢	口縁部	縦線合、襷帯等圧痕(口唇部まで)、襷帯等上刺突、木目状襷糸文	ミダキ	II	79	57
408	C15区 I~II層	深鉢	口縁部	襷組圧痕、襷帯等の上に刺突、襷糸文	ミダキ	II	79	57
409	B13区 II層	深鉢	口縁部	縦線合、襷組圧痕、襷帯の上に半線竹管状の刺突、木目状襷糸文	ミダキ	II	79	57
410	B19区 I層	深鉢	口縁部	縦線多軸、襷組圧痕、襷帯等の上に刺突、木目状襷糸文	ミダキ	II	79	57
411	B15区 II層	深鉢	口縁部	襷組圧痕、襷帯の上に半線竹管状の刺突、結晶羽状縄文	ミダキ	II	79	57
412	C25区 II層	深鉢	口縁部	襷組圧痕、襷帯等の上に半線竹管状の刺突、襷の裏の回転	ナデ	II	79	57
413	B09区 II層	深鉢	口縁部	縦線合、襷組圧痕、半線竹管状の刺突2列、多軸線条体回転	ミダキ	II	79	57
414	C15区 II層	深鉢	口縁部	襷組圧痕、襷帯等の上に刺突、結晶羽状縄文	ミダキ	II	79	57
415	M31区 II層	深鉢	口縁部	襷組圧痕、襷帯等の上に刺突、木目状襷糸文	ミダキ	II	79	57
416	C17区 I~II層	深鉢	口縁部	縦線合、襷組圧痕、襷帯等の上に刺突、結晶羽状縄文	ミダキ	II	79	57
417	C14区 I~II層	深鉢	口縁部	縦線合、襷組圧痕、襷帯等の上に刺突、結晶羽状縄文	ミダキ	II	79	57
418	E23区 II層	深鉢	口縁部	多軸線条体圧痕、襷帯等の上に刺突、木目状襷糸文	ミダキ	II	79	57
419	B13区 II層	深鉢	口縁部	縦線合、多軸線条体圧痕、襷帯等の上に半線竹管状の刺突、羽状縄文	ミダキ	II	79	57
420	C13区 II層	深鉢	口縁部	襷組圧痕、襷帯等の上に刺突、木目状襷糸文	ミダキ	II	79	57
421	M32区 II層	深鉢	口縁部	襷組圧痕、半線竹管状の刺突、L R縄文、縦位縦線文	ミダキ	II	79	57
422	K31区 I~II層	深鉢	口縁部	突起、襷組圧痕(幾何学文様)、半線竹管状の刺突、横位縦線文	ミダキ	II	79	57
423	M32区 II層	深鉢	口縁部	突起、襷帯、襷組圧痕、刺突、R L縄文	ミダキ	II	79	57
424	M31区 II層	深鉢	口縁部	襷帯等の上に半線竹管状の爪形刺突、襷組圧痕	ミダキ	II	79	57
425	C26区 I層	深鉢	口縁部	結晶条体圧痕、襷帯等の上に襷組圧痕、木目状襷糸文	ミダキ	II	79	57
426	B15区 II~III層	深鉢	口縁部	襷組圧痕、襷帯等の上に襷組圧痕、多軸線条体回転	ミダキ	II	79	57
427	B14区 II~III層	深鉢	体~底部	木目状襷糸文、縦位縦線文	ナデ	II	70	57
428	D28区 II層	深鉢	口縁部	L R縄文、平行する沈線による刺突	ミダキ	II	79	57
429	C12区 II層	深鉢	口縁部	L R縄文?、半線竹管による押引と横位の連続山形沈線	ナデ	II	79	57
430	B18区 II層	鉢	口~体部	竹管連続刺突、同じ工具による平行沈線、複部斜行縄文	ミダキ	II	71	57
431	B26区 II層	深鉢	口~体部	弁状突起、襷組圧痕、結晶羽状縄文	ミダキ	II	71	58
432	C28区 II層	深鉢	口~体部	L R縄文、縦位縦線文	ミダキ	II	71	58
433	B26区 II~III層	深鉢	口~体部	弁状突起、襷組(爪形)圧痕、襷組圧痕、羽状縄文(L R、R L)	ミダキ	II	71	58
434	B07区 II層	深鉢	口~底部	襷組圧痕による縦位の条線	ナデ	II	71	58
435	C19区 I層	深鉢	口縁部	襷組圧痕、縦い襷帯等の上に刺突	ミダキ	II	80	58
436	B13区 II層	深鉢	口縁部	襷組圧痕、襷帯等、平行する襷組圧痕と八字状の圧痕	ミダキ	II	80	58
437	C25区 III層	深鉢	口縁部	襷帯、襷組圧痕(幾何学文様)	ミダキ	II	80	58
438	D29区 II層	深鉢	口縁部	弁状突起、襷帯、襷組圧痕	ナデ	II	80	58
439	B26区 III層	深鉢	口縁部	弁状突起、襷帯、襷組圧痕、襷組爪形圧痕	ミダキ	II	80	58
440	D28区 II層	深鉢	口縁部	ボタン状突起、襷組圧痕、L R縄文	ミダキ	II	80	58

番号	出土地点・層位	種類	部位	文様など	内面	分層	図版	写真
441	C16区 II層	深鉢	口縁部	隆帯、縹緋爪形瓦痕、補修孔、海鏡骨針含む	ミガキ	II 1 b	80	58
442	C16区 II層	深鉢	口縁部	隆帯、縹緋爪形瓦痕、縹緋瓦痕、縹緋文	ミガキ	II 1 b	80	58
443	C16区 II層	深鉢	口縁部	弁状突起、隆帯、縹緋爪形瓦痕、縹緋瓦痕、海鏡骨針含む	ミガキ	II 1 b	80	58
444	E30区 II層	深鉢	口縁部	隆帯、縹緋爪形瓦痕、竹管による2条の沈線	ミガキ	II 1 c	80	58
445	G32区 II層	深鉢	口縁部	縹緋瓦痕隆帯、隆帯間に爪形の連続刺突	ミガキ	II 1 c	80	58
446	B16区 Ⅱ層	深鉢	口縁部	口唇部まで細い粘土紐貼付、縹緋瓦痕、R.L.縄文	ナデ	II 1 d	80	58
447	B13区 II層	深鉢	口縁部	口唇部まで細い粘土紐貼付、口唇部列目、縹緋瓦痕、ボタン状貼付	ミガキ	II 1 d	80	58
448	G32区 II層	深鉢	口縁部	口唇部まで細い列目のある粘土紐貼付、ボタン状貼付、複脚斜行縄文	ナデ	II 1 d	80	58
449	C14区 I～II層	深鉢	体部	細い隆帯	ナデ	II 1 d	80	58
450	C18区 I～II層	深鉢	口縁部	粘土紐が貼付された小突起	ナデ	II 1 e	80	58
451	C16区 I～II層	深鉢	口縁部	粘土紐の弧状文が付いた弁状突起(沈線による補取り)、R.L.縄文	ミガキ	II 1 e	80	58
452	C16区 II層	深鉢	口～体部	口唇部連続刺突、縹緋文、沈線区画	ナデ	II 1 e	71	58
453	B14区 II層	深鉢	口縁部	折り返し口縁、縹緋瓦痕、複脚斜行縄文	ミガキ	II 2 a	80	58
454	G32区 II層	深鉢	口縁部	縹緋瓦痕、R.L.縄文	ミガキ	II 2 a	80	58
455	C12区 II層	鉢	口縁部	口唇部外面ナデ、R.L.R.縄文、粘土紐貼付	ミガキ	II 2 a	80	58
456	C16区 I～II層	深鉢	体部	刺突文、縦長楕円形文(区画内の地文はL.R.)	ナデ	II 2 b	80	58
457	C16区 II層	深鉢	口縁部	網目状縹緋文	ナデ	III 1	81	59
458	D30区 II層	深鉢	口縁部	網目状縹緋文	ミガキ	III 1	81	59
459	C15区 I～II層	深鉢	口縁部	縦長縹緋文	ナデ	III 1	81	59
460	B27区 II層	深鉢	口縁部	沈線文	ナデ	III 1	81	59
461	C16区 II層	深鉢	体部	沈線文	ナデ	III 1	81	59
462	C15区 II層	深鉢	口縁部	沈線文	ナデ	III 1	81	59
463	E30区 II層	深鉢	口縁部	山形突起、半截竹管による平行沈線	ナデ	III 1	81	59
464	B17区 II層	深鉢	口縁部	沈線文	ナデ	III 1	81	59
465	B21区 II層	深鉢	口縁部	口縁部外反し上から穿孔される、沈線文	ナデ	III 1	81	59
466	C15区 II層	深鉢	口縁部	隆帯、沈線区画、L.R.縄文	ナデ	III 1	81	59
467	B27区 II層下位	深鉢	口縁部	無文帯、R.L.縄文、沈線区画	ナデ	III 1	81	59
468	D29区 II層	深鉢	口縁部	磨消縄文(L.R.?)、沈線文、口唇部上部に小穴	ミガキ	III 1	81	59
469	C16区 I～II層	深鉢	口縁部	列目、沈線	ミガキ	III 2	81	59
470	C16区 II層	深鉢	口縁部	列目2列、平行沈線	ミガキ	III 2	81	59
471	C15区 II層	深鉢	口縁部	口縁部外端と下部に刻み、無文帯、R.L.縄文(0段多条)、L.R.縄文	ミガキ	III 2	81	59
472	B05区 II層	深鉢	口縁部	口縁部に沿う2条の隆帯の上に刻み、貼瘤、非結束羽状縄文	ナデ	III 2	81	59
473	B19区 II層	鉢	体部	頸部列目2列、又状貼瘤、縹緋帯状文?	ミガキ	III 2	81	59
474	C15区 I～II層	深鉢	口縁部	突起先端ミガキ、曲線帯縄文、羽状縄文(0段多条)、円文	ミガキ	III 2	81	59
475	C16区 I～II層	深鉢	口縁部	突起、曲線帯縄文、非結束羽状縄文(0段多条)	ミガキ	III 2	81	59
476	B15区 II層	深鉢	口縁部	3コ一对の突起、貼瘤、曲線帯縄文(0段多条)	ミガキ	III 2	81	59
477	C17区 I～II層	深鉢	口縁部	突起、曲線帯縄文(0段多条)	ミガキ	III 2	81	59
478	C16区 I～II層	深鉢	口縁部	曲線帯縄文、非結束羽状縄文(0段多条)	ミガキ	III 2	81	59
479	C17区 I～II層	深鉢	口縁部	突起、曲線帯縄文、非結束羽状縄文(0段多条)	ミガキ	III 2	81	59
480	C15区 I～II層	深鉢	口縁部	突起、曲線帯縄文、非結束羽状縄文(0段多条)	ミガキ	III 2	81	59
481	C16区 I～II層	深鉢	口縁部	曲線帯縄文、非結束羽状縄文(0段多条)	ミガキ	III 2	81	59
482	B15区 II層	鉢	口～体部	口唇部突起、タスキ掛け状貼瘤、貼瘤	ミガキ	III 3	72	59
483	C15区 I～II層	深鉢	口～体部	突起、又状貼瘤、曲線(タスキ?)帯状文	ミガキ	III 3	72	59
484	C16区 II層	蓋	口～体部	平行帯状文、L.R.縄文、羽状縄文(L.R., R.L.)	ミガキ	III 3	72	59
485	C16区 I～II層	鉢	底面	縹緋帯状文、L.R.・R.L.縄文	ミガキ	III 3	72	59
486	C15区 I～II層	蓋	口縁部	L.R.・R.L.縄文、ミガキ、口縁部内面肥厚、表面骨針多量	ミガキ	III 3	82	60
487	C16区 I～II層	蓋	口縁部	磨消縄文(R.L.)	ミガキ	III 3	82	60
488	B15区 II層	深鉢	口縁部	羽状縄文、沈線	ナデ	III 3	82	60
489	C16区 I～II層	深鉢	口縁部	羽状縄文(L.R.・R.L.)、沈線文、口唇部上部に貼瘤	ミガキ	III 3	82	60
490	C16区 I～II層	深鉢	口縁部	羽状縄文(R.L.・L.R.)	ミガキ	III 3	82	60
491	B18区 II層	深鉢	口縁部	突起部、R.L.縄文、沈線	ミガキ	III 3	82	60
492	B21区 II層	鉢	口縁部	沈線文、L.R.縄文?、貼瘤	ナデ	III 4	82	60
493	B10区 II層	蓋	体部	磨消縄文(0段多条R.L.)、沈線、貼瘤	ナデ	III 4	82	60
494	C07区 I層	深鉢	体部	貼瘤、曲線入組文	ナデ	III 4	82	60

番号	出土地点・層位	部種	部位	文様など	内面	分類	図版	写真版
495	B24区 II層	深鉢	口縁部	沈線文、斜目、L・R縄文、貼瘤	ナデ	III 4	82	60
496	B07区 II層	鉢	胴部	多糸沈線、斜目のある貼瘤	ナデ	III 4	82	60
497	B27区 II層下位	深鉢	胴部	多糸沈線	ナデ	III 4	82	60
498	B06区 II層	単孔	口～底部	2または3条の平行沈線を1単位とする帯状文、小瘤を多く含む	ナデ	III 4	82	60
499	E27区 II層	浅鉢	口～底部	口唇部折り返し、R・L縄文	ミガキ	III 4	72	60
500	E30区 II層	浅鉢	口～底部	無文、口唇部内面にわずかな沈線	ナデ	III 4	72	60
501	B26区 II層	注	口～唇部	無文、瘤状突起	ナデ	III 4	72	60
502	B25区 II層	注	口唇部	注口部ハダレ、無文	ナデ	III 4	72	60
503	B17区 II層	深鉢	口～底部	無文、輪縁み疾	ナデ	III 4	72	60
504	D28区 II層	壺	口～底部	羽状縄文（R・L、L・R）	ナデ	III 4	72	60
505	C16区 II層	深鉢	口～底部	羽状縄文（L・R、R・L）	ミガキ	III 4	72	60
506	B25区 II層	深鉢	口唇部	斜目のある突起、輪縁、L・R・R・L縄文、入組帯状文?	ナデ	III 5	72	60
507	B18区 II層	深鉢	口唇部	突起の上部に十字の刻み、平行沈線、L・R縄文	ナデ	III 5	82	60
508	B04区 II層	注	口唇部	三叉状沈線	ミガキ	IV 1	83	61
509	B07区 II層	注	口唇部	三叉状沈線	ミガキ	IV 1	83	61
510	E29区 II層	注	口唇部	横位沈線3条	ミガキ	IV 1	83	61
511	B14区 II層	浅鉢	口唇部	入組三叉文、横位沈線2条、L・R縄文	ミガキ	IV 1	83	61
512	C15区 I～II層	鉢	口縁部	ミガキ、沈線	ミガキ	IV 1	83	61
513	C15区 I～II層	鉢	口縁部	ミガキ、沈線	ミガキ	IV 1	83	61
514	E29区 II層	注	口唇部付近	沈線	ナデ	IV 2 a	73	61
515	B17区 II層	台付鉢	胴部	沈線、刻み、突起4単位	ミガキ	IV 2 a	73	61
516	B24区 II層	鉢	胴部	平行沈線、磨削縄文（L・R）	ミガキ	IV 2 a	83	61
517	B23区 III層	鉢	口唇部	口唇部斜目・突起、半歯状文、L・R縄文、内面保付唇	ミガキ	IV 2 a	83	61
518	B25区 II層	壺	口唇部	広口、口唇部小突起、半歯状文、内面沈線	ミガキ	IV 2 a	83	61
519	B06区 II層	鉢	口唇部	広口、突起、内面沈線、半歯状文	ミガキ	IV 2 a	83	61
520	B25区 II層	壺	口唇部	広口、半歯状文、口唇部内面沈線	ミガキ	IV 2 a	83	61
521	B21区 II層	鉢	口唇部	半歯状文、横位沈線、無筋L	ミガキ	IV 2 b	73	61
522	B21区 II層	鉢	口～底部	半歯状文（L・R）、平行沈線	ナデ	IV 2 b	73	61
523	C15区 I～II層	台付鉢	口～底部	斜目、半歯状文、平行沈線、L・R縄文	ミガキ	IV 2 b	73	61
524	C05区 II層	鉢	口唇部	口唇部斜目、半歯状文、L・R縄文	ミガキ	IV 2 b	83	61
525	B26区 II層	鉢	口唇部	突起、半歯状文、横位沈線、入組文（R・L）、口唇部内面沈線	ミガキ	IV 2 b	83	61
526	C14区 II～III層	鉢	口唇部	半歯状文	ミガキ	IV 2 b	83	61
527	B21区 II層	壺	口唇部	広口、口唇部小突起、半歯状文、内面沈線	ミガキ	IV 2 b	83	61
528	C16区 I～II層	壺	口唇部	広口、口唇部連続斜突、半歯状文のなごりの列点	ミガキ	IV 2 b	83	61
529	B25区 II層	壺	口唇部	広口、突起、横位沈線、半歯状文	ナデ	IV 2 b	83	61
530	B21区 II層	鉢	口唇部	口唇部斜目、横位沈線、半歯状文、無筋L	ミガキ	IV 2 b	83	61
531	B17区 II層	鉢	口～底部	突起、口唇部斜目、列点の入る平行沈線3条、L・R縄文	ミガキ	IV 3	73	61
532	C28区 II層	鉢	口唇部	突起、斜突、横位沈線2条、R・L縄文	ミガキ	IV 3	83	61
533	C13区 I～II層	鉢	口唇部	半歯状文のなごり	ミガキ	IV 3	83	61
534	B26区 II層	壺	口～底部	突起、平行沈線、雲形文（L・R）、口唇部内面沈線	ミガキ	IV 3	83	61
535	C24区 I層	注	口～底部	雲形文（L・R）、突起、列点、平行沈線	ミガキ	IV 3	73	61
536	C13区 II層	浅鉢	口唇部	突起、横位沈線、斜目、雲形文（L・R）	ミガキ	IV 3	83	61
537	B10区 II層	鉢	口唇部	横位沈線、斜突、雲形文?（L・R）	ミガキ	IV 3	83	61
538	B17区 II層	壺	口唇部	広口、二文突起、口唇部斜突・沈線、列点、L・R縄文、内面沈線	ミガキ	IV 3	83	61
539	B16区 II層	鉢	口唇部	突起、口唇部斜目、半歯状文、横位沈線2条、R・L縄文	ミガキ	IV 3	83	61
540	B15区 II層	鉢	口唇部	口唇部斜目・突起、横位沈線、斜突、内面沈線	ミガキ	IV 3	83	61
541	B25区 II層	鉢	口唇部	突起、横位沈線、斜目、雲形文（R・L）	ナデ	IV 3	83	61
542	C25区 II層	鉢	口唇部	大小の突起、横位沈線3条、L・R縄文	ミガキ	IV 3	83	61
543	B15区 II層	鉢	口唇部	突起、口唇部斜目、横位沈線2条、L・R縄文	ミガキ	IV 3	83	61
544	C23区 I層	鉢	口唇部	突起、口唇部斜目、横位沈線2条、列点、R・L縄文?	ミガキ	IV 3	83	61
545	E30区 II層	鉢	口唇部	斜目突起、横位沈線、L・R縄文、内面沈線	ミガキ	IV 3	83	61
546	C25区 II層	鉢	口唇部	突起、横位沈線2条、雲形文?（L・R）、内面沈線	ミガキ	IV 3	83	61
547	B26区 II層	鉢	口唇部	突起、斜突、横位沈線	ミガキ	IV 3	83	61
548	C10区 覆瓦層	深鉢	口唇部	2斜一対の突起、横位沈線3条、内外面保付唇	ミガキ	IV 3	83	61

番号	出土地点・層位	種類	部位	文様など	内面	分類	図版	写真版
549	B27区 II～III層	深鉢	口～底部	口唇部突起、連続する爪形状沈線、雲形文、口唇部内面沈線	ミガキ	IV 3	73	62
550	B27区 II～III層	鉢	口～底部	C字状の連続刺突、平行沈線、雲形文(LR)	ミガキ	IV 3	83	62
551	C16区 II層	壺	口縁部	広口、突起、刻目、半面縄文(LR)	ミガキ	IV 3	83	62
552	B25区 II層	壺	口縁部	広口、口唇部の小突起間に刻み、LR縄文	ミガキ	IV 3	83	62
553	C25区 II層	鉢	全体	雲形文、横位沈線2条	ミガキ	IV 3	83	62
554	B25区 II層	鉢	口～底部	2対一列の突起、平行沈線、瘤状突起、LR縄文	ミガキ	IV 3	73	62
555	B21区 II層	鉢	口～底部	突起、口唇部連続刺突、平行沈線、LR縄文、内外面煤付遺多量	ミガキ	IV 5	74	62
556	C15区 I～II層	台付鉢	口～胴部	刻目突起、半面縄文、平行沈線、LR縄文	ミガキ	IV 3	74	62
557	B04区 II層	壺	口縁部	広口、無文	ミガキ	IV 3	74	62
558	B21区 I層	広口壺	口～底部	無文、全面ミガキ	ミガキ	IV 3	74	62
559	B21区 II層	壺	口縁部	広口、無文、ミガキ	ミガキ	IV 3	74	62
560	D27区 III層	鉢	口～底部	口唇部突起4単位ずつ、平行沈線、突起、LR縄文	ミガキ	IV 4	74	62
561	B25区 II層	台付鉢	口～底部	突起、平行沈線3条、LR縄文	ミガキ	IV 4	74	62
562	B21区 I層	台付鉢	口～底部	口唇部刻目突起、突起、沈線(沈線間に刺突列)、LR縄文	ミガキ	IV 4	74	62
563	B14区 II層	鉢	口縁部	半面縄文のなごり、雲形文	ミガキ	IV 4	84	62
564	B27区 II～III層	鉢	口縁部	口唇部刻目、横位沈線2条、LR縄文	ナデ	IV 4	84	62
565	C25区 II～III層	鉢	口縁部	口唇部刻目、内外面煤付	ナデ	IV 4	84	62
566	B21区 I～II層	鉢	口唇部	口唇部刻目、沈線2条、LR縄文、内面煤付	ミガキ	IV 4	84	62
567	B04区 II層	鉢	口縁部	突起、刻目、沈線、LR縄文、内外面ケール付	ミガキ	IV 4	84	62
568	C15区 II層	鉢	口～底部	口唇部刻目、沈線、ミガキ	ミガキ	IV 4	74	62
569	C04区 II層	浅鉢	鉢	山形小突起、雲形文(LR)、内面煤付	ミガキ	IV 4	84	62
570	B15区 II層	鉢	口縁部	突起、横位沈線2条、列点	ミガキ	IV 4	84	62
571	B27区 II～III層	鉢	口縁部	突起、横位沈線2条、LR縄文、列点文?	ミガキ	IV 4	84	62
572	C15区 II層	壺	口縁部	突起、口唇部上部刻目、内外面赤色顔料付	ミガキ	IV 4	84	62
573	B25区 II層	鉢	口縁部	突起、口唇部内面沈線、LR縄文、雲形文(LR)、内外面煤付	ナデ	IV 4	84	62
574	B25区 II層	浅鉢	口縁部	口唇部刻目、横位沈線	ミガキ	IV 4	84	62
575	C25区 II層	浅鉢	口縁部	口唇部内面2列・外面2列、突起、横位沈線、無筋L	ミガキ	IV 4	84	62
576	C24区 I層	鉢	口縁部	列点、横位沈線2条、雲形文(LR)	ミガキ	IV 4	84	62
577	E29区 II層	深鉢	口縁部	口唇部外面刻目、入組文、内面沈線	ミガキ	IV 4	84	62
578	B24区 II層	浅鉢	口～底部	刻目、雲形文(LR)	ミガキ	IV 4	74	62
579	C25区 II層	浅鉢	口縁部	口唇部刻目、横位沈線4条、LR縄文、粘土粒、内面沈線・煤付	ミガキ	IV 4	84	62
580	C24区 I層	注口	口縁部	刻目、突起、連続刺突、雲形文、内面沈線	ミガキ	IV 4	84	62
581	E28区 II層	鉢	口縁部	突起、口唇部刻目、横位沈線2条、LR縄文、内面沈線	ミガキ	IV 4	84	62
582	E29区 III層	鉢	口～底部	口唇部連続刺突、沈線、LR縄文、口縁部内面沈線、内外面煤付	ナデ	IV 4	74	62
583	B25区 II層	鉢	口縁部	口唇部刻目、内面沈線、藍文帯、雲形文(RL)、内外面煤付	ミガキ	IV 4	84	62
584	B24区 I層	鉢	口縁部	口唇部刻目・明突、横位沈線?、LR縄文、内面煤付	ミガキ	IV 4	84	62
585	D28区 II層	浅鉢	口～底部	口唇部突起、内面沈線、工字文	ミガキ	IV 5	75	63
586	E29区 II層	浅鉢	口～底部	刻目突起5単位、工字文、口縁部内面沈線	ミガキ	IV 5	75	63
587	C13区 I～II層	台付鉢	口～底部	変形工字文、口縁部内面沈線	ナデ	IV 5	75	63
588	B15区 III層	台付鉢	胴部	黒色、ミガキ、工字文、内外面赤色顔料付	ミガキ	IV 5	75	63
589	D29区 II層	壺	口～底部	工字文、口唇部から肩部にかけて内外面とも赤色顔料塗布(底部も)	ナデ	IV 5	75	63
590	D29区 II層	浅鉢	口縁部	突起、工字文、内面沈線	ミガキ	IV 5	84	63
591	C06区 II層	壺	胴部	工字文	ミガキ	IV 5	84	63
592	D30区 II層	鉢?	口縁部	横位平行沈線	ナデ	IV 5	84	63
593	D24区 II層	鉢	口～底部	刻みの入る突起間に瘤状の突起3個、平行沈線	ミガキ	IV 5	75	63
594	D29区 II層	鉢	口～底部	二又突起(大小)、平行沈線、RL縄文、内外面煤付	ミガキ	IV 5	75	63
595	E30区 II層	鉢	口縁部	突起、口唇部上部・内面沈線、無筋L、内面煤付	ミガキ	IV 5	84	63
596	C14区 I～II層	鉢	口縁部	平行沈線、刺突、LR縄文	ミガキ	IV 5	84	63
597	B05区 II層	浅鉢	口縁部	平行沈線、刺突、口唇部内面沈線	ミガキ	IV 5	84	63
598	C18区 I～II層	浅鉢	口縁部	横位沈線3条、雲形文	ミガキ	IV 5	84	63
599	C14区 I～II層	鉢	口縁部	横位沈線2条、L無筋	ナデ	IV 5	84	63
600	E30区 II層	鉢	口縁部	突起、口唇部上部沈線、無筋L	ミガキ	IV 5	84	63
601	D29区 II層	壺	全体	膝下する長方形の沈線区画、沈線2条	ナデ	IV 5	75	64
602	E30区 II層	深鉢	口～底部	口唇部に指頭を押しつけ、沈線、RL縄文	ミガキ	IV 5	75	64

番号	出土地点・層位	器種	部位	文様など	内面	分限	図版	写真図版
603	B04区 II層	深鉢	口~体部	口唇部指押し付け、R L縄文	ミガキ	IV 5	76	64
604	D29区 II層	深鉢	口~底部	口唇部に指押しによる連続押圧、R L縄文	ナデ	IV 5	76	64
605	D29区 II層	鉢	口~底部	口唇部指押しによる連続押圧、L R縄文、口縁部内面沈線	ナデ	IV 5	76	64
606	C16区 I~II層	深鉢	口~底部	L R縄文	ナデ	IV 6	76	64
607	B21区 II層	鉢	口~底部	羽状縄文 (L R、R L)	ミガキ	IV 6	76	65
608	B21区 II層	鉢	口~底部	小波状口縁、L R縄文、内面指押し	ナデ	IV 6	76	65
609	D29区 II層	深鉢	口~底部	突起 (山形 1、二又 2)、R L縄文	ミガキ	IV 6	77	65
610	C02区 II層	深鉢	口~体部	小突起、L R縄文	ミガキ	IV 6	77	65
611	C26区 I~II層	深鉢	口~体部	突起、L R縄文	ミガキ	IV 6	77	65
612	E28区 II層	深鉢	口~底部	R L縄文	ミガキ	IV 6	77	65
613	C16区 I~II層	深鉢	口~底部	L R縄文	ナデ	IV 6	77	66
614	E29区 II層	深鉢	口~底部	L R + R 縄文	ミガキ	IV 6	78	66
615	B16区 I~II層	深鉢	口~底部	L R縄文	ナデ	IV 6	78	66
616	B21区 I層	鉢	口~底部	無文	ミガキ	IV 7	78	66
617	C16区 II層	鉢	口縁部	ミガキ、把手?	ミガキ	IV 7	78	66
618	C16区 II層	台付鉢	口~底部	内外面とも丁寧なミガキ、突起	ミガキ	IV 7	78	66
619	B21区 I層	台付鉢	口~底部	突起 6 単位?、無文、ミガキ	ミガキ	IV 7	78	66
620	B25区 層位不明	浅鉢	口~体部	口唇部に濃い沈線 2 条、ミガキ、内外面黒色	ミガキ	IV 7	78	66
621	C13区 I~II層	鉢	口~底部	刻みの入る突起 2 組 4 単位、平行沈線、R L縄文	ミガキ	V	78	66
622	B15区 II層	鉢	口縁部	内面に向く小突起、L R縄文、矢羽状沈線、微量の赤色顔料	ミガキ	V	81	66
623	B06区 II層	深鉢	口縁部	小突起、口唇部凹、L R縄文、矢羽状沈線	ナデ	V	81	66
624	C07区 II層	鉢	口縁部	刻目突起、横位沈線、内面沈線	ミガキ	V	81	66
625	B04区 II層	深鉢	口縁部	二又状小突起、R L縄文、矢羽状沈線	ナデ	V	81	66
626	B04区 II層	鉢	口縁部	突起 (円形突起 2)、横位平行沈線、R L縄文	ミガキ	V	81	66
627	D26区 III層	壺	口縁部	山形突起 (沈線)、粘土粒、雲形文	ミガキ	V	81	66
628	B13区 II層	鉢	口縁部	小突起、沈線、無文	ナデ	V	81	66

表 7 遺構外出土土製品類観察表

番号	出土地点・層位	器種	部位	文様など	内面	分限	図版	写真図版
629	C25区 II層	ミナコフ	-	L R縄文	ナデ		85	67
630	C15区 II層	ミナコフ	-	無文、ミガキ			85	67
631	C17区 I~II層	ミナコフ	-	無筋 L、内外面赤色顔料付着	ナデ		85	67
632	B15区 II層	ミナコフ	-	沈線、刻み	ナデ		85	67
633	B18区 I層	土製品	-	沈線、L R縄文			86	67
634	C18区 II層	土製品	-	沈線、L R縄文			86	67
635		土 銅 体部		腕部欠損			86	67
636		土 銅 右腕部		刻み、竹管様の円形刺突			86	67
637		土 銅 左腕部		沈線、腕部先端に刺突、ミガキ			86	67
638	B14区 II層	耳 栓	-	赤色顔料塗付			86	67
639	B04区 II層	耳 栓	-				86	67

VI ま と め

1. 遺 構

今回の調査で、この江刺家IV遺跡は、縄文時代前期末葉から晩期末葉あるいは弥生時代初めにかけて、断続的に集落が営まれていたことが明らかとなった。

確認された住居跡は、(1)前期末から中期初頭(2)中期末葉から後期初頭(3)後期中葉から後葉、の3つの時期に分けられる。先に述べたとおり、この付近には所々に湧水がみられ、これらを利用したと思われる集落が数多く存在しているが、今回検出された住居跡群もその豊富な水源近くに形成された集落の一部である。

図87に時期別の占地の状況と標高の関係を示したが、遺跡は標高335mより高い部分には上記(1)の時期の住居跡で、325m～330m付近では(2)・(3)の住居跡で構成され、それらとともに同程度の標高で南北方向に広がりを見せるものと考えられる。検出された住居跡が各時期とも僅かであり、それぞれがどれほどの集落規模をもつものかは不明であるが、地形・水源等の状況から江刺家IV遺跡の縄文時代の集落は、各時期においてかなりの広がりをもっていることが予想される。

土坑群は、標高327m～330mにかけて集中し、食料の貯蔵等の用途と思われるものがほとんどである。しかし既述のとおり、中には大型の腰が配されているものがあり、これらは墓塚と考えられる。明確な時期は不明であるが、長方形を呈するものについては後期の可能性がある。確認された33基の土坑群は、主に貯蔵穴と墓塚から構成されるが、住居群との時間的な関係は明瞭な形では示すことができない。しかし、住居群との占地のあり方などから、居住域とそれ以外の生活に利用される地域(例えば墓域など)を異にしていたことはある程度窺うことができよう。

次に遺構全般について、特徴的な事項や問題点を挙げてみる。

①中期末葉から後期初頭とした住居跡(第1号住など)の埋土から出土した土器は、前期末葉から晩期末葉～弥生初頭に至るまで、各時期のものが含まれていた。これらの住居跡の炉の形態は複式炉であるため、当

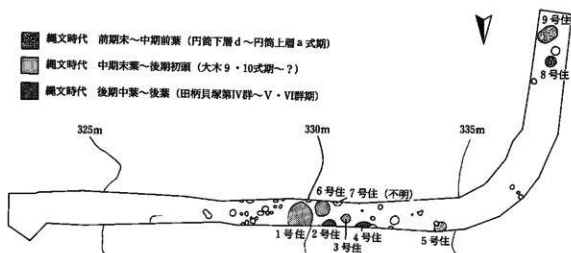


図87 時期別全体図

該期のものだと判断したが、その床面直上から後期中葉の土器が出土している。このことは、県北部（雷谷川流域か？）では複式炉が後期中葉まで残ることにならないかどうか。

②土坑群の中にいわゆるフラスコ形のものがない。

③前期末葉と思われる第2号土坑のあり方（焼土が形成された状況など）は特殊である。

④極めて遺構どうしの重複が少ない。

①については、類例も挙げられず、現時点では不明と言わざるを得ないが、今後検討を加えてみたいと思っている。③については、火葬墓の可能性も考えられる。④は廃棄された遺構（住居跡）が埋没しきれなかったためか。②は単に今回の範囲外にあるのかもしれない。

2. 遺物

(1) 石器・石製品について

遺構内外からおおよそ400点出土した。このうち明瞭な使用痕の認められない剥片やチップ類を除き、遺構内出土のもの64点、遺構外出土のもの116点の計180点を掲載した。ここでは、遺構内外をあわせた石器の組成と一部石製品について記述する。

剥片石器の組成（石製品13点を除く167点中の割合）をみると、石鏃34点（20%）、石匙15点（9%）、石筈5点（3%）、石鏃3点（1%）、不定形石器34点（20%）、その他15点（9%）となる。礫石器では、石斧13点（7%）、磨石・凹石・半円状偏平石器44点（26%）、石皿3点（1%）有礫石1点である。

この石器組成から、剥片石器では石鏃と不定形石器の割合が大きく、総点数の割に石筈や石鏃が少ないように思われる。礫石器では磨石類が全体の約3分の1を占めている。この結果は、遺構内出土のものに限っても同様の傾向を示すようである。

石製品は、石刀3点・石棒1点・石剣1点・円盤状石製品7点・軽石製品1点が出土した。石刀とした3点（384・385・386）のうち384・385は、全長が短すぎて不恰好であり、また先端部が丸みを帯びていることから折れたものを再加工した製品と考えられる。軽石製品（32）は穿孔されていないが、浮子というよりは装飾品類の未製品と思われる。

(2) 土器について

今回の調査で出土した土器類の総量は、大コンテナ（42×32×30cm）約21箱である。このうち遺構内からは6箱、遺構外からは15箱出土した。すべて縄文時代から弥生時代にかけてのもので、古代以降の遺物はいっさい出土しなかった。時期別で見ると、縄文時代前期末葉、中期初頭～前葉、中期中葉、中期後葉～末葉、後期前葉、後期中葉～後葉、晩期前葉、晩期中葉、晩期後葉、晩期末～弥生初頭がみられる。全体としては、早期と前期の初頭から中葉を除く各時期の土器が万遍なく出土した感じである。その中で主体となるのは、晩期中葉～後葉、後期中葉～末葉、中期中葉あたりである。

まず、中期中葉の土器群（第II群の一部）では、円筒系と大木系の両者が混在し、また折衷形とも思われる土器（183など）がみられる。これらの土器群は、ここでの主体ではあっても、この時期の遺物としては出土量が少なすぎるため、両文化の消長や影響の度合いなどの問題については言うに及ばない。

後期中葉～末葉の土器群（第III群2～5類）は、気仙沼市田柄貝塚III群からVII群に相当する比較的良好な資料と思われる。この周辺では、雷谷川（新井田川）流域の八戸市風張遺跡等に類例が求められよう。

晩期中葉～後葉の土器群（第IV群3～5類）は、今回最も出土量が多かった。復元個体数も多く、器形も台付鉢・注口・皿などが増え、バリエーションに富んでいる。

無文の鉢や注口土器・台付鉢（突起の付くものもある）などは、後期に帰属させたものと晩期に帰属させたものがあるが、明確な根拠はなく分類上問題があるものと思われる。

最後になるが、詳細に記しておくべき土器について触れる。434は縦横に歯状工具による条線のみられる深鉢で、円筒上層a式に分類した。二戸市上里遺跡I—19住居跡（III群12類）に類例がある。498は単孔土器で、2ないし3条の平行する帯状文が施される。器高は12cm。535は大洞C₂式の大型の注口土器と思われるもの。589は大洞A式の壺形土器で、口縁部の内外面のほか体部にも赤色顔料が塗布されている。

3. おわりに

今回の調査は、折爪岳から続く東向き緩斜面に広がる大きな遺跡に、建設される道路幅のトレンチを入れたような調査であった。それはともかく、結果多くの遺構や遺物が確認され、そのあり方や以前の調査結果から、大規模な江刺家IV遺跡の全容が僅かながら明らかとなった。周辺に形成される縄文時代の集落群との関連など、まだまだ検討すべき問題が数多くあるものと考えられる。

この報告書の内容については、筆者の不勉強もあり、土器の位置づけ等誤っている部分も多いと思われるが、ご容赦願いたい。

<引用・参考文献>

- 磯崎正彦ほか (1968) : 「十勝内遺跡」『岩木山』 岩木山刊行会
- 小田野智恵 (1987) : 「岩手県の弥生式土器編年試論」岩手県立博物館研究報告第5号 岩手県立博物館
- 小田野智恵ほか (1996) : 『岩手県内遺跡発掘調査報告書(平成7年度)』 岩手県文化財調査報告書第98集 岩手県教育委員会
- 金子昭彦 (1993) : 「新山権現社遺跡発掘調査報告書」岩埋文第188集 (財) 岩文振
- 金子昭彦 (1996) : 「岩手県における大洞式前半の土器口縁部の突起」『紀要XVI』(財) 岩文振
- 工藤竹久 (1987) : 「東北北部における亀ヶ岡式土器の終末」考古学雑誌72-4
- 小林 克 (1987) : 「内村遺跡出土土器と住居群の変遷」『秋田県埋蔵文化財センター研究紀要 第3号』
秋田県埋蔵文化財センター
- 斎藤邦雄 (1994) : 「大日向II遺跡発掘調査報告書」岩埋文第225集 (財) 岩文振
- 酒井宗孝 (1987) : 「岩手県北部における縄文中期後葉から後期前葉の住居跡」『紀要VII』(財) 岩文振
- 酒井宗孝 (1997) : 「上野生遺跡発掘調査報告書」岩埋文第253集 (財) 岩文振
- 酒井宗孝ほか (1997) : 「田代遺跡発掘調査報告書」岩埋文第262集 (財) 岩文振
- 鈴木克彦ほか (1988) : 「名川町剣吉町遺跡(第2地区)発掘調査報告書」青森県立郷土館調査報告第22集 考古-7
青森県立郷土館
- 須藤 隆ほか (1985) : 「山王田遺跡調査図録」一迫町教育委員会
- 高橋信雄ほか (1982) : 『岩手の土器』 岩手県立博物館
- 高橋與右衛門 (1983) : 「上里遺跡発掘調査報告書」岩埋文第55集 (財) 岩埋文
- 高柳圭一 (1988) : 「仙台湾周辺の縄文時代後期末葉から晩期初頭にかけての編年動向」古代-No.85
- 千葉孝雄 (1995) : 「上八木田II遺跡発掘調査報告書」岩埋文第227集 (財) 岩文振
- 手塚 均ほか (1986) : 「田柄貝塚」宮城県教育委員会
- 村越 源 (1974) : 「円筒土器文化」雄山閣

VII 分析・鑑定

岩手県、江刺家IV遺跡における種実同定

株式会社 古環境研究所

1. 試料

試料は、C21土坑(第26号土坑)埋土中位(試料No.16)、C22土坑(第27号土坑)埋土上位(試料No.17)、C19住(第6号住)床面(試料No.18)から採取された計3点である。これらの土坑は縄文時代後期・晩期に属するものと考えられている。

2. 方法

試料を肉眼及び双眼実体顕微鏡で観察し、形態的特徴および現生標本との対比によって同定を行った。

3. 結果

樹木2が同定された。学名、和名および粒数を表1に示し、主要な分類群を写真に示す。

表1

試料No.	出土地点	分類群(和名/学名)	部位	個数
16	C21土坑埋土中位 (第26号土坑)	オニグルミ <i>Juglans ailanthifolia</i> Carr.	核片	
17	C22土坑埋土上位 (第27号土坑)	クリ <i>Castanea crenata</i> Sieb. et Zucc.	種子 (子葉)	1
18	C19住床面 (第6号住)	虫糞		

以下に同定根拠となる形態的特徴を記す。

a. オニグルミ *Juglans ailanthifolia* Carr. 核 クルミ科

茶褐色で円形～楕円形を呈し、一端がとがる。側面には縦に走る一本の縫合線がめぐる。表面全体に不規則な隆起がある。断面は円形である。破片の状態であった。

b. クリ *Castanea crenata* Sieb. et Zucc. 種子(子葉) ブナ科

炭化しており黒色で、広楕円～半円形である。種子内の子葉にあたる。表面には縦方向のしわがある。長さ16.0mm、幅18.0mm。

4. 所見

同定された種実はオニグルミとクリであった。これら2種は遺存状況のよい日本の縄文時代中期以降の遺跡からはやや普遍的に出土し、主要な食料の一つであったとみなされる。

〈参考文献〉

- 羽川昭平 (1983) 縄文人の主な植物食糧。縄文文化の研究第2巻, 雄山閣出版株式会社, P.42-49.
松谷曉子 (1981) 炭像と炭化像による縄文時代の作物栽培の探求, 月刊考古学ジャーナルNo.192, ニューサイエンス社, P.18-21.
渡辺 誠 (1975) 縄文時代の植物食, 雄山閣出版株式会社, 187 P.
渡辺 誠 (1982) 採集対象植物の地域性。季刊考古学創刊号, 雄山閣出版株式会社, P.28-31.

江刺家IV遺跡出土種実



1 a オニグルミ核 (試料No.16C21
土坑埋土中位)

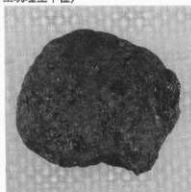


1 b 同左



1 c 同左

— 5mm



2 a クリ子葉 (試料No.17C22土坑
埋土上位)



2 b 同左

— 5mm

写 真 图 版

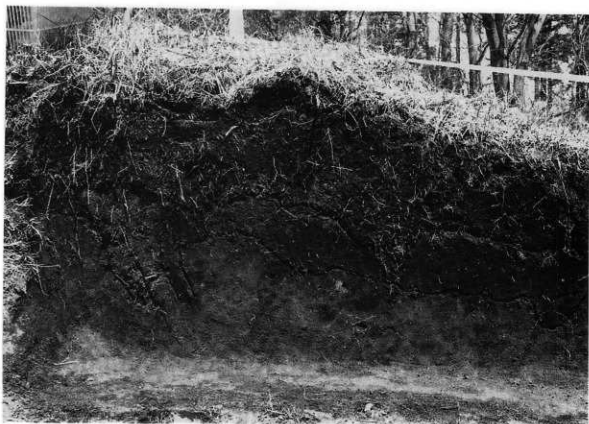


遺跡遠景（東から）

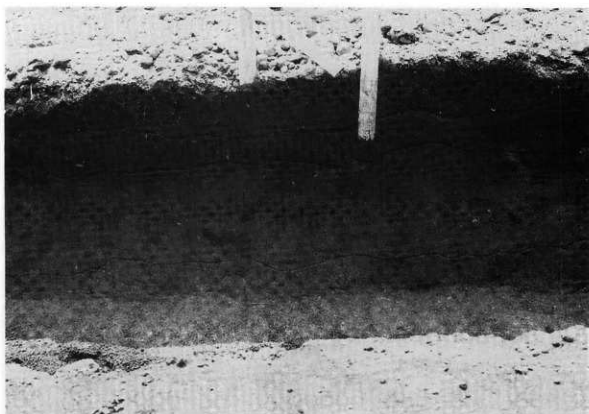


調査区全景（東から）

写真図版1 空中写真



C10区基本土层断面



N32区基本土层断面

写真図版2 基本層序



全 景



埋土断面



複式伊全景



複式伊断ち割り

写真図版 3 第 1 号住居跡



全景 (←)
埋土断面 (↓)



土器出土状況



柱穴断ち割り

写真図版4 第2号住居跡



全 景



埋土断面



伊断ち割り



土器出土状況

写真図版 5 第3号住居跡



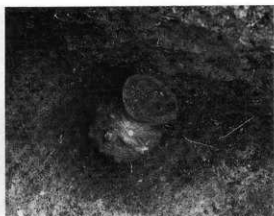
全 景



埋土断面

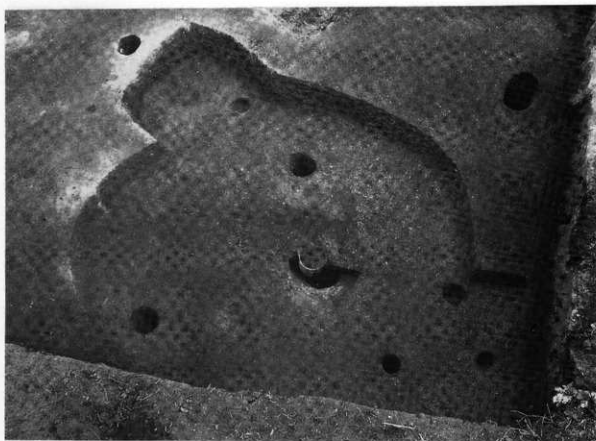


作業風景 (西から)



土器出土状況

写真図版 6 第4号住居跡



全 景



埋土断面

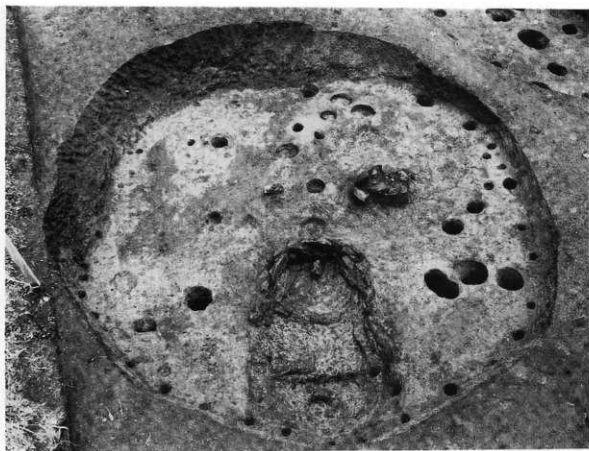


土器埋設炉断ち割り

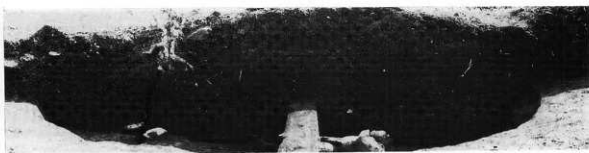


作業風景（南から）

写真図版7 第5号住居跡



全 景



壇土断面

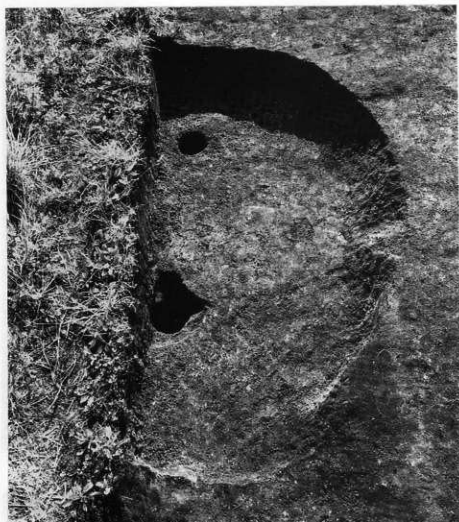


複式炉検出状況



複式炉断ち割り

写真図版 8 第 6 号住居跡

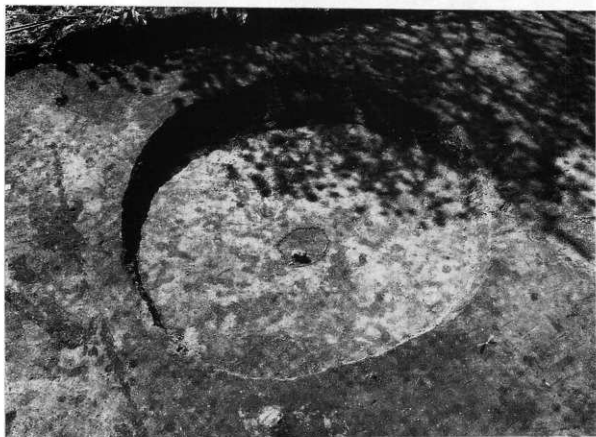


全景 (←)
埋土断面 (↓)



C10区住居跡か？

写真図版9 第7号住居跡



全 景



埋土断面

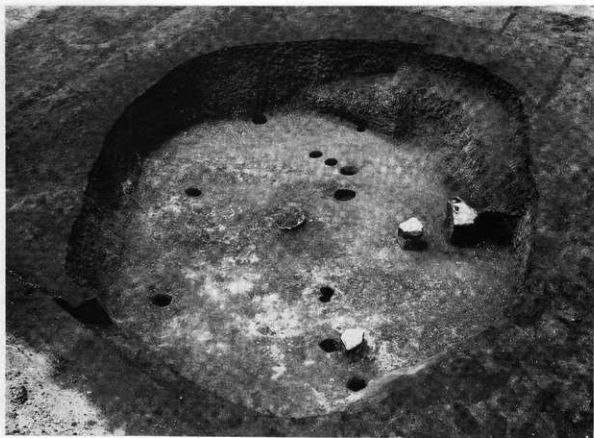


探検出状況

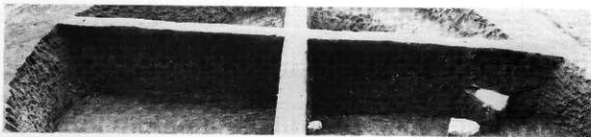


炉断ち割り

写真図版10 第8号住居跡



全 景



埋土断面



土器埋設炉検出状況



土器埋設炉断ち割り

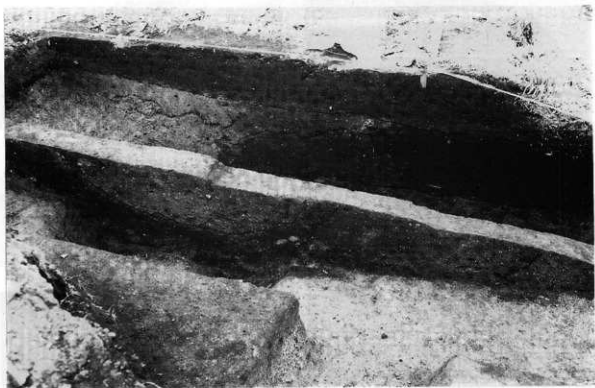


土器出土状況

写真図版11 第9号住居跡

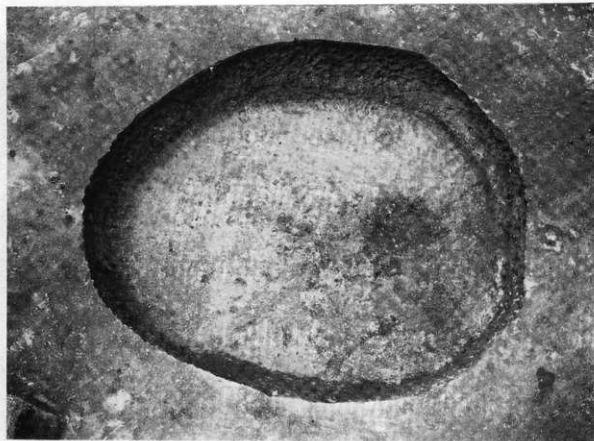


全 景



埋土断面（手前右側部分）

写真図版12 第1号竪穴状遺構



全 景

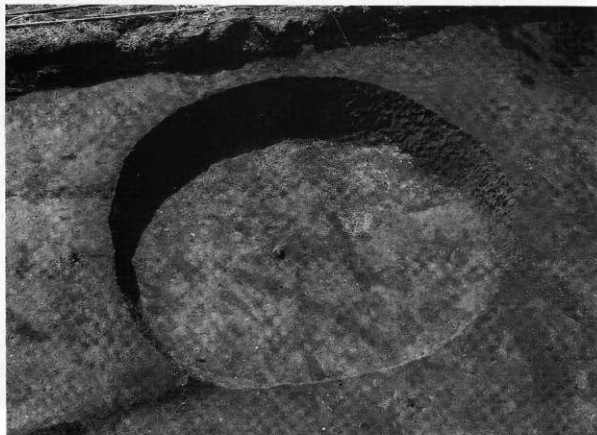


埋土断面



作業風景（西から）

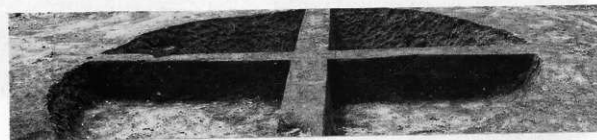
写真図版13 第2号壑穴状遺構



全 景



埋土断面（北から）



埋土断面（東から）

写真図版14 第3号竪穴状遺構



第1号土坑 (全景)



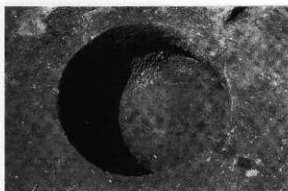
第2号土坑 (全景)



第1号土坑 (埋土)



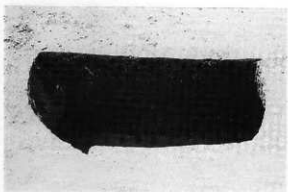
第2号土坑 (埋土)



第3号土坑 (全景)



第4号土坑 (全景)



第3号土坑 (埋土)



第4号土坑 (埋土)

写真图版15 土坑 (1)



第5号土坑 (全景)



第6号土坑 (全景)



第5号土坑 (埋土)



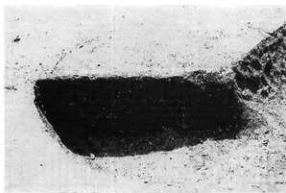
第6号土坑 (埋土)



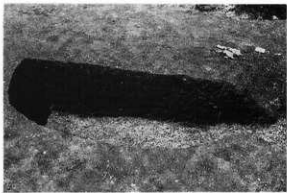
第7号土坑 (全景)



第8号土坑 (全景)

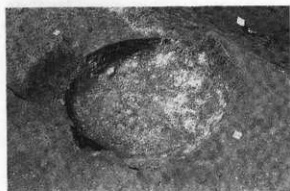


第7号土坑 (埋土)

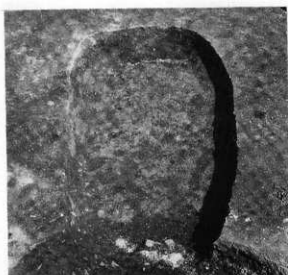


第8号土坑 (埋土)

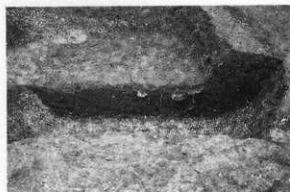
写真图版16 土坑(2)



第9号土坑 (全景)



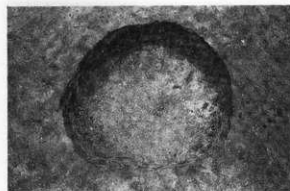
第10号土坑 (全景)



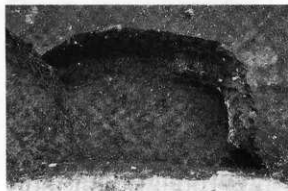
第9号土坑 (埋土)



第10号土坑 (埋土)



第11号土坑 (全景)



第12号土坑 (全景)



第11号土坑 (埋土)



第12号土坑 (埋土)

写真图版17 土坑(3)



第13号土坑 (全景)



第14号土坑 (全景)



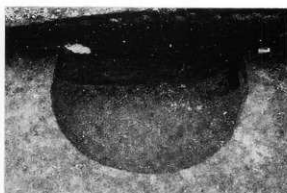
第13号土坑 (埋土)



第14号土坑 (埋土)



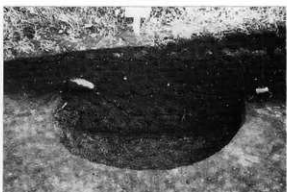
第15号土坑 (全景)



第16号土坑 (全景)

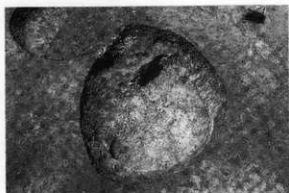


第15号土坑 (埋土)



第16号土坑 (埋土)

写真图版18 土坑(4)



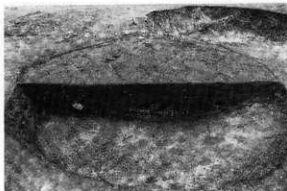
第17号土坑 (全景)



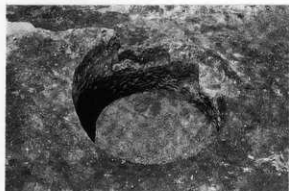
第18号土坑 (全景)



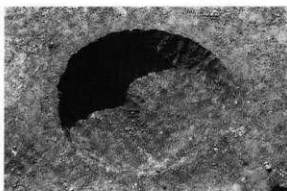
第17号土坑 (埋土)



第18号土坑 (埋土)



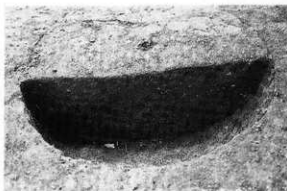
第19号土坑 (全景)



第20号土坑 (全景)



第19号土坑 (埋土)



第20号土坑 (埋土)

写真图版19 土坑(5)



第21号土坑 (全景)



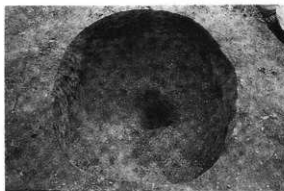
第22号土坑 (全景)



第21号土坑 (埋土)



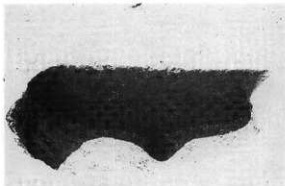
第22号土坑 (埋土)



第23号土坑 (全景)



第24号土坑 (全景)



第23号土坑 (埋土)

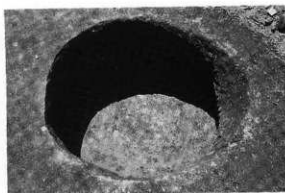


第24号土坑 (埋土)

写真図版20 土坑(6)



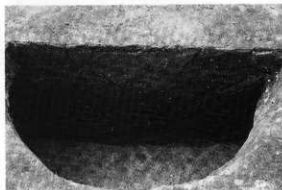
第25号土坑 (全景)



第26号土坑 (全景)



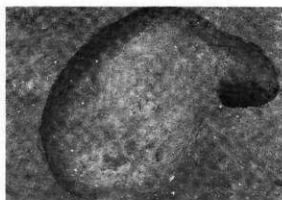
第25号土坑 (埋土)



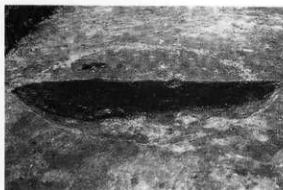
第26号土坑 (埋土)



第27号土坑 (全景)



第28号土坑 (全景)

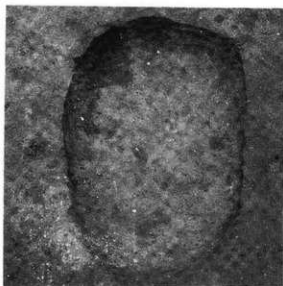


第27号土坑 (埋土)



第28号土坑 (埋土)

写真图版21 土坑(7)



第29号土坑 (全景)



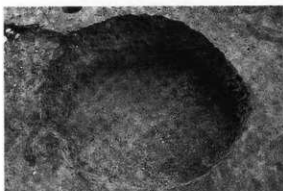
第29号土坑 (埋土)



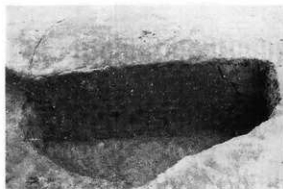
第30号土坑 (埋土)



第31号土坑 (埋土)



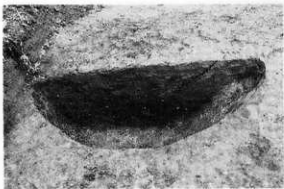
第32号土坑 (全景)



第32号土坑 (埋土)



第33号土坑 (全景)



第33号土坑 (埋土)

写真图版22 土坑(8)



第1号炉跡（検出）



第2号炉跡（検出）



第1号炉跡（断ち割り）



第2号炉跡（断ち割り）



第3号炉跡（検出）



第1号埋設土器遺構

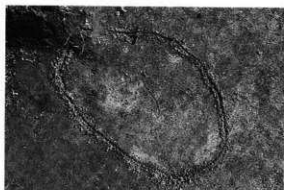


第3号炉跡（断ち割り）



第2号埋設土器遺構

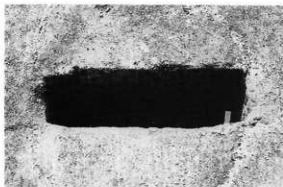
写真図版23 炉跡・土器埋設遺構



第1号烧土遺構（検出）



第2号烧土遺構（検出）



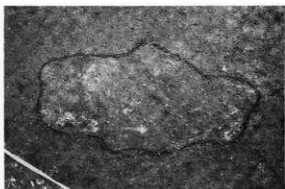
第1号烧土遺構（断ち割り）



第2号烧土遺構（断ち割り）



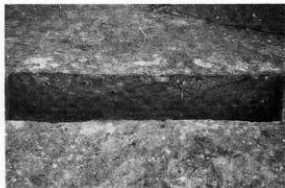
第3号烧土遺構（検出）



第4号烧土遺構（検出）

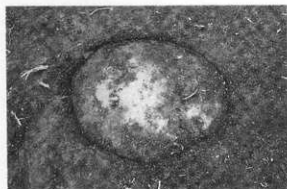


第3号烧土遺構（断ち割り）



第4号烧土遺構（断ち割り）

写真図版24 烧土遺構（1）



第5号焼土遺構（検出）



第5号焼土遺構（断ち割り）

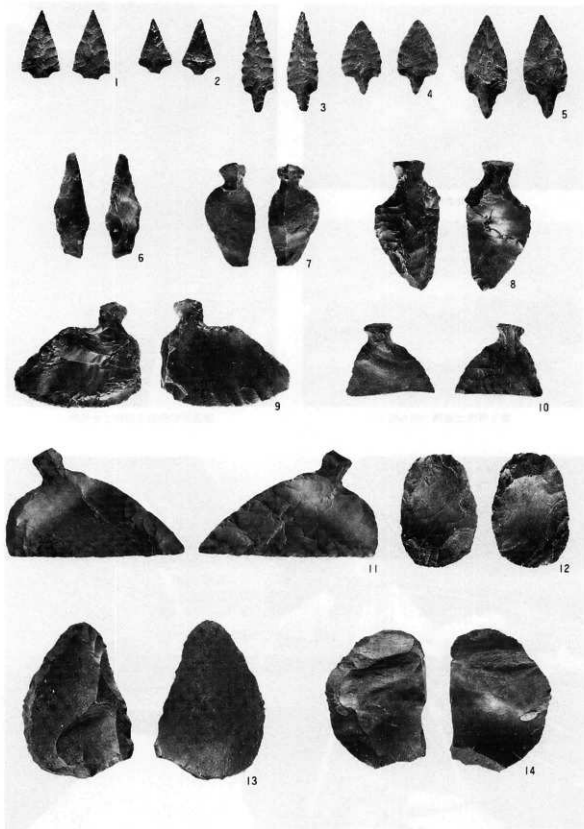


調査区中央部住居跡と土坑群

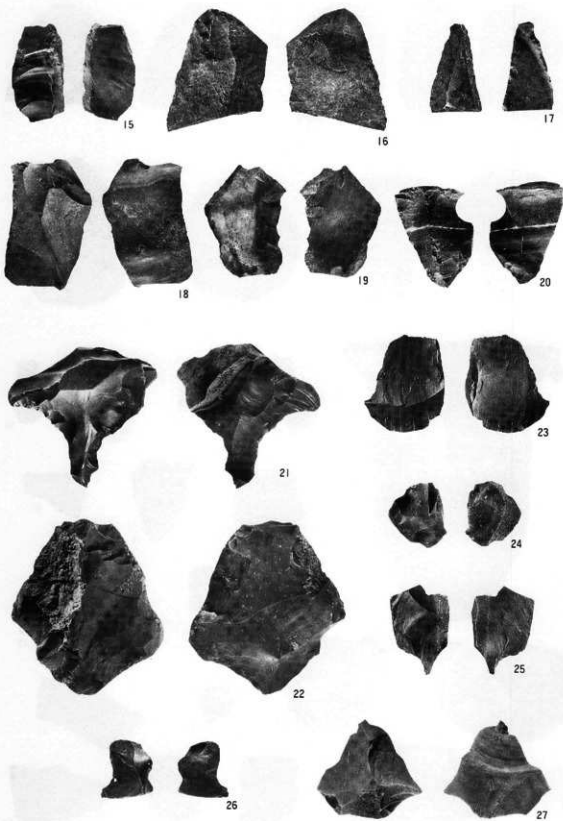


作業風景（西から）

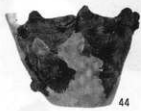
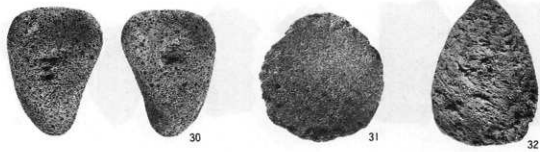
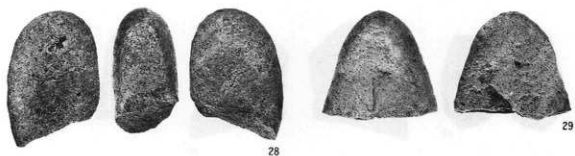
写真図版25 焼土遺構（2）・作業風景ほか



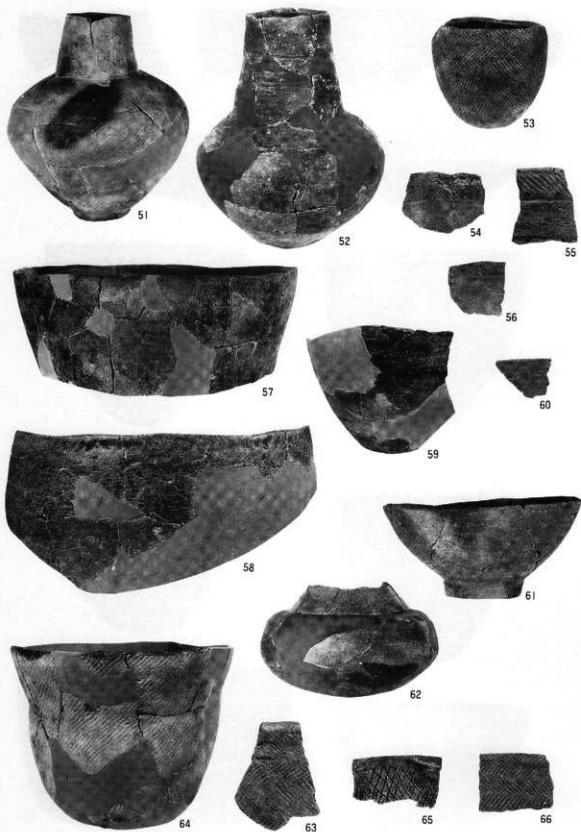
写真图版26 第1号住居跡出土遺物(1)



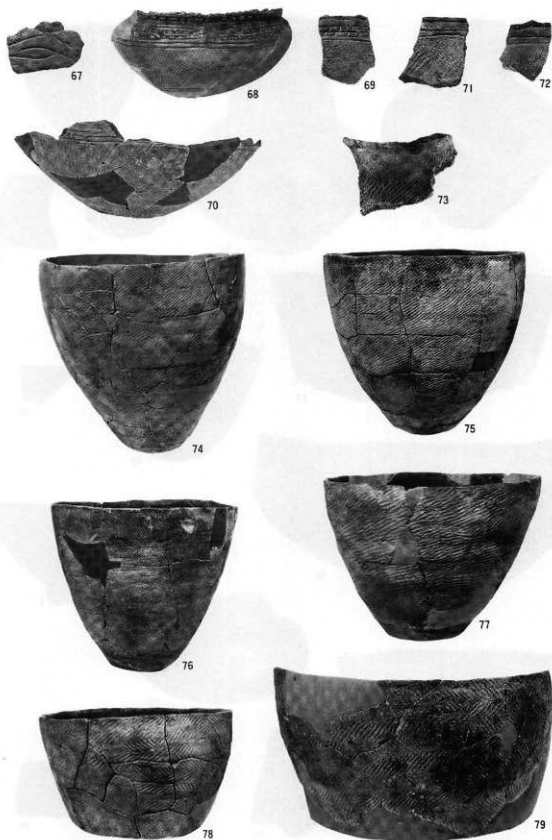
写真图版27 第1号住居跡出土遺物(2)



写真図版28 第1号住居跡出土遺物(3)



写真図版29 第1号住居跡出土遺物(4)



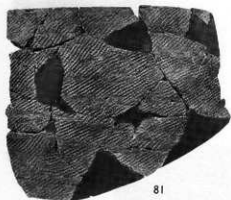
写真図版30 第1号住居跡出土遺物(5)



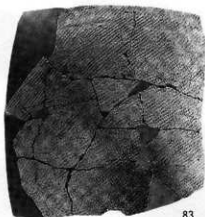
80



82



81



83



84

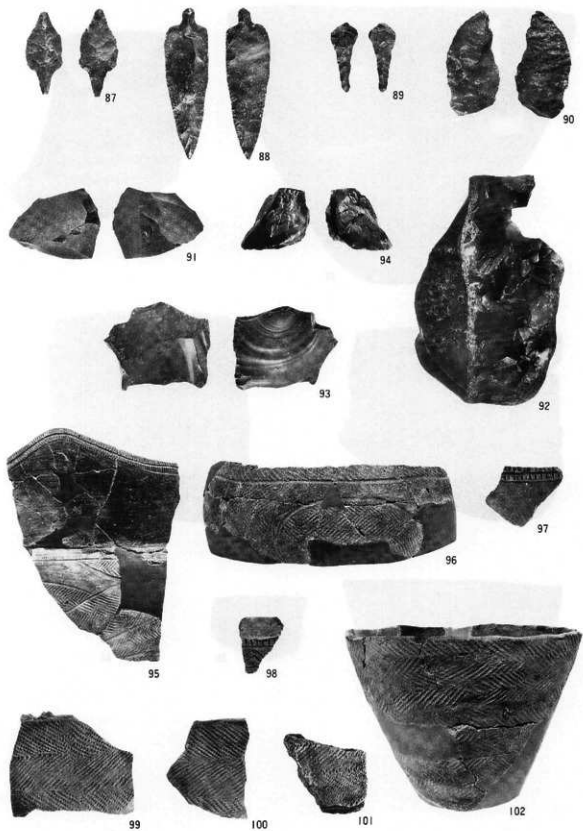


85

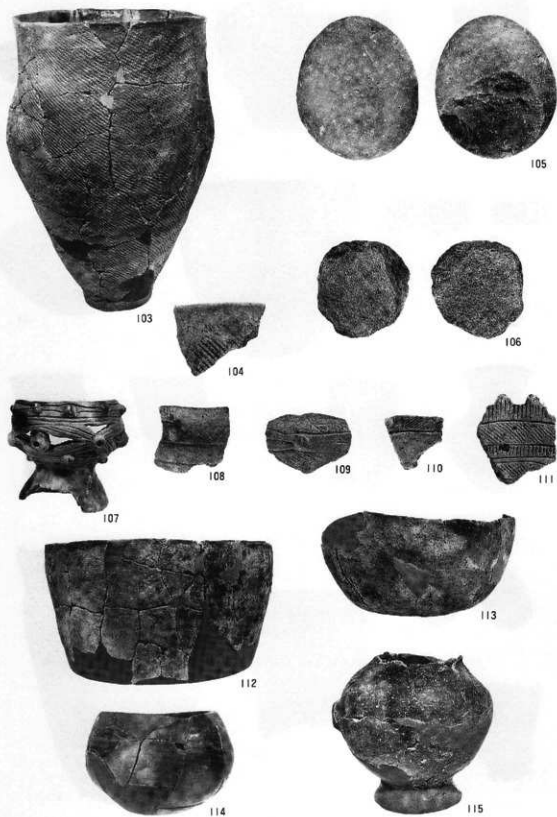


86

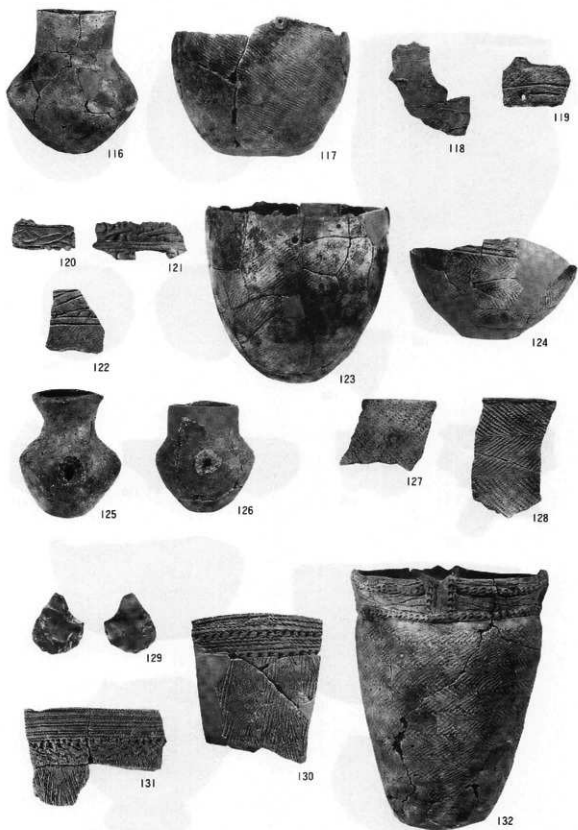
写真図版31 第1号住居跡出土遺物(6)



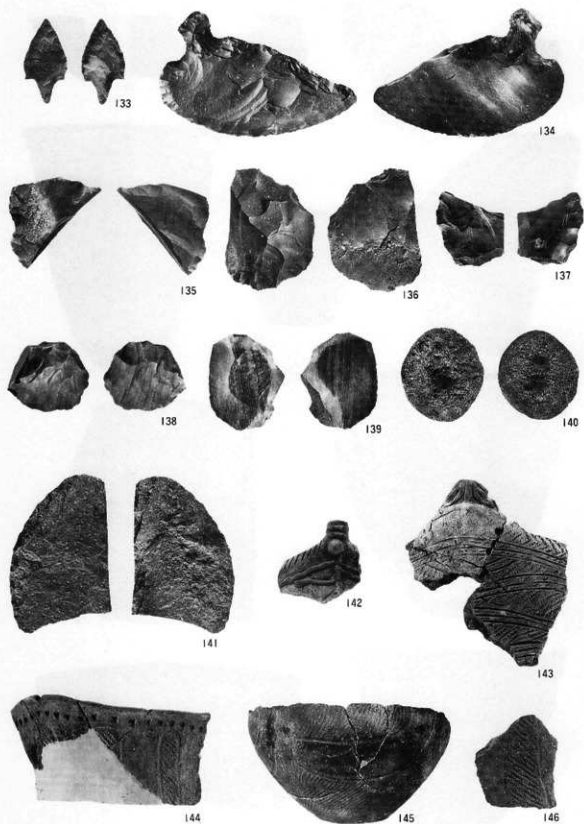
写真图版32 第2号住居跡出土遺物



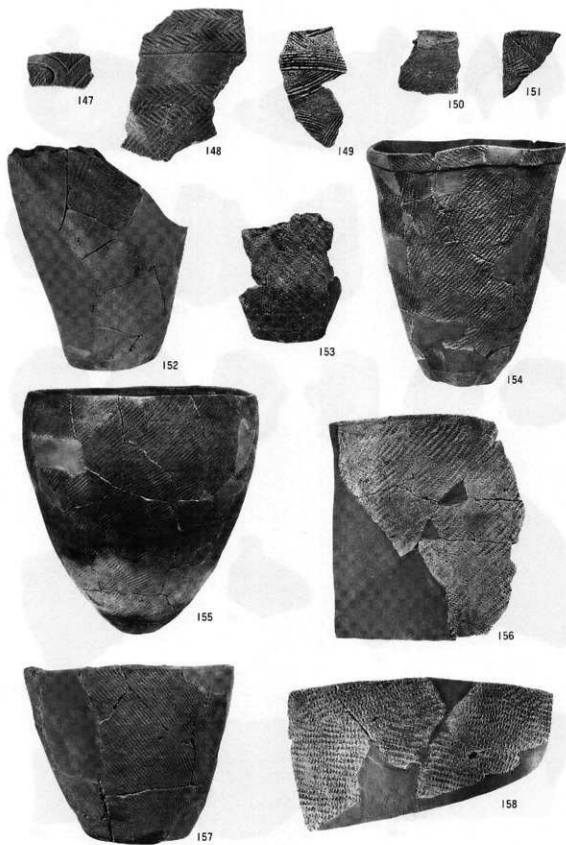
写真図版33 第3号・第4号住居跡出土遺物(1)



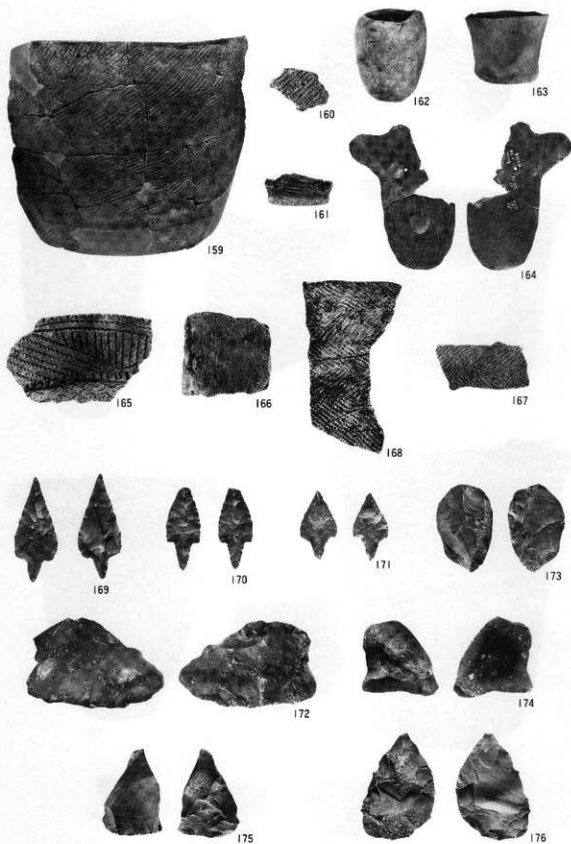
写真図版34 第4号(2)・第5号住居跡出土遺物



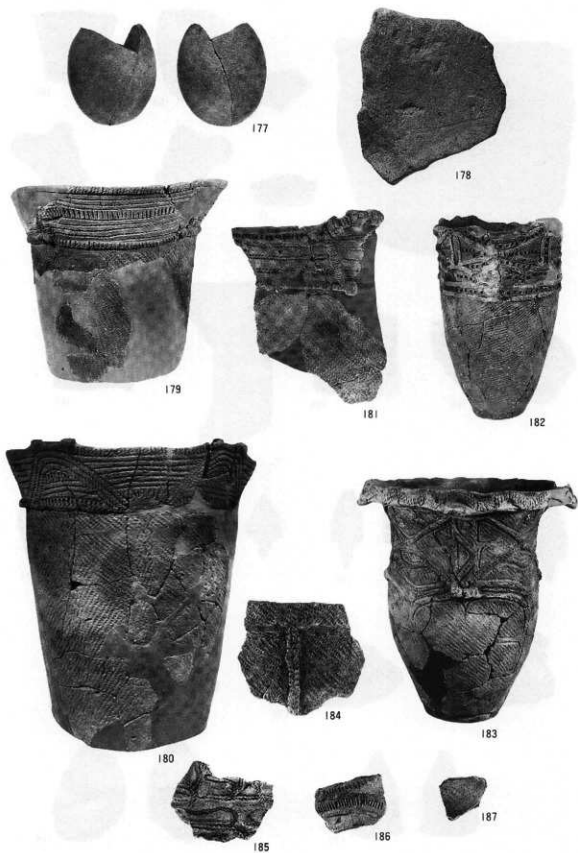
写真图版35 第6号住居跡出土物(1)



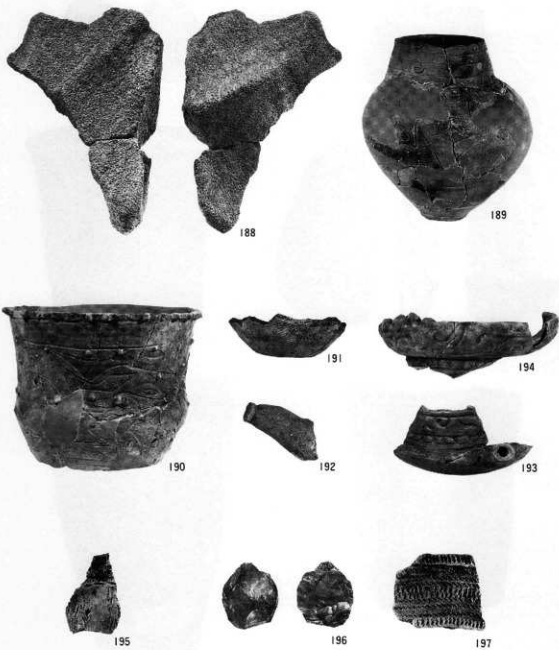
写真図版36 第6号住居跡出土遺物(2)



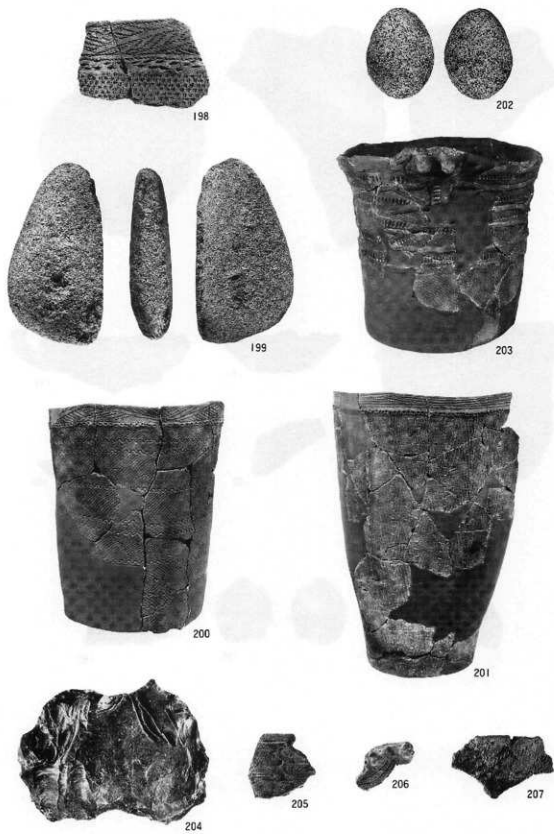
写真図版37 第6号(3)・第8号・第9号住居跡出土遺物(1)



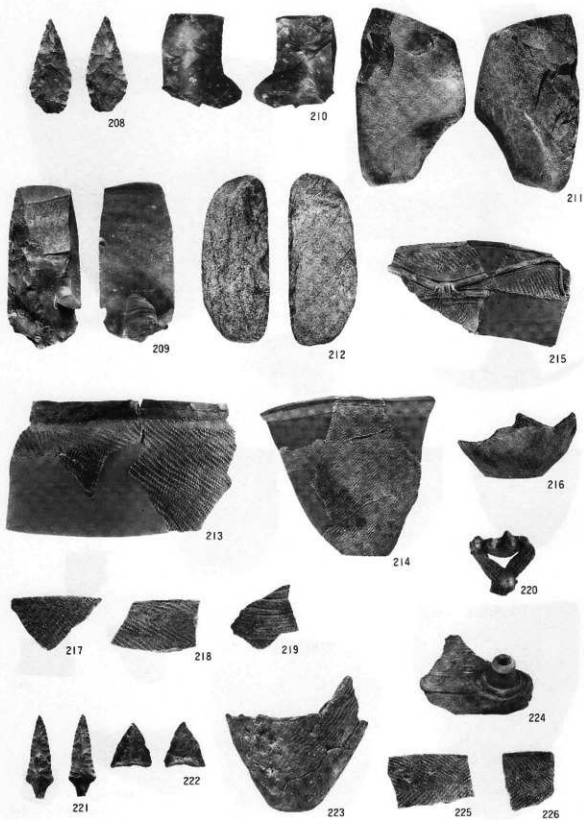
写真図版38 第9号住居跡出土遺物(2)



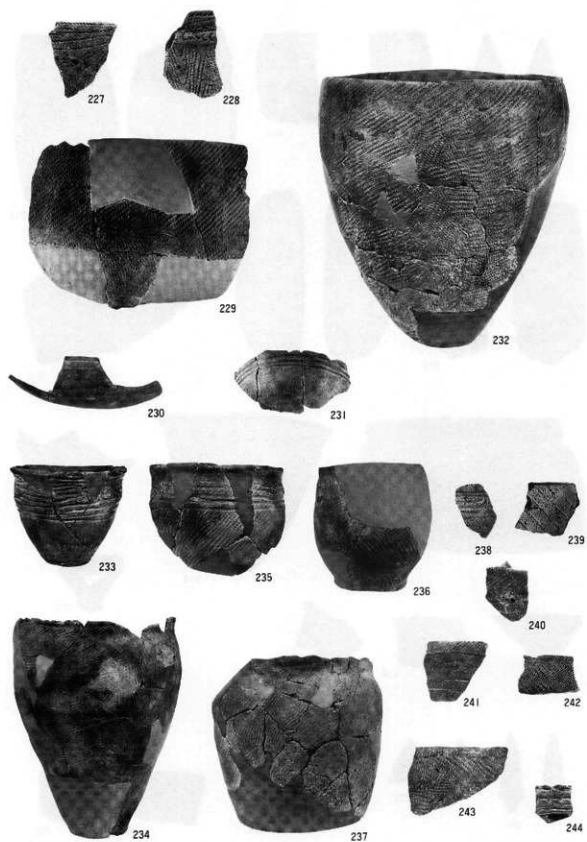
写真図版39 整穴状遺構出土遺物



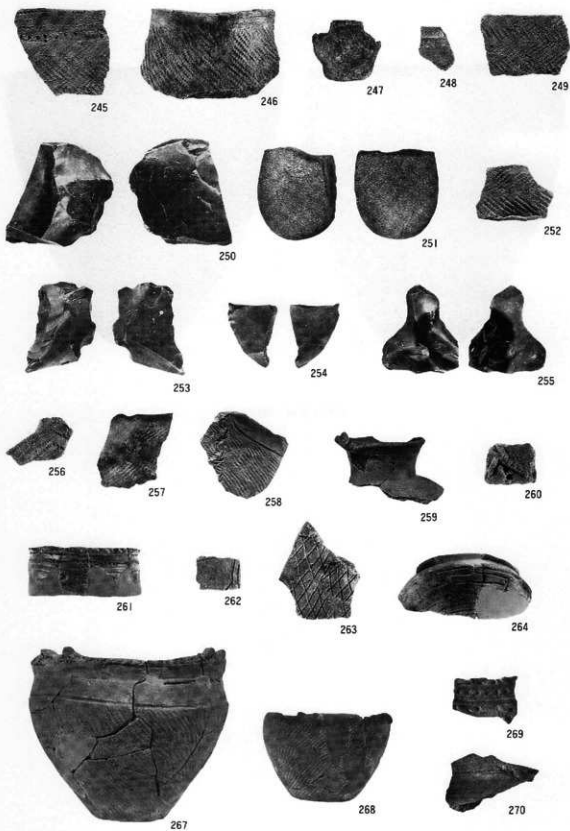
写真図版40 土坑内出土遺物(1)



写真图版41 土坑内出土遗物(2)



写真図版42 土坑内出土遺物(3)



写真図版43 土坑内(4)・炉跡・焼土遺構出土遺物

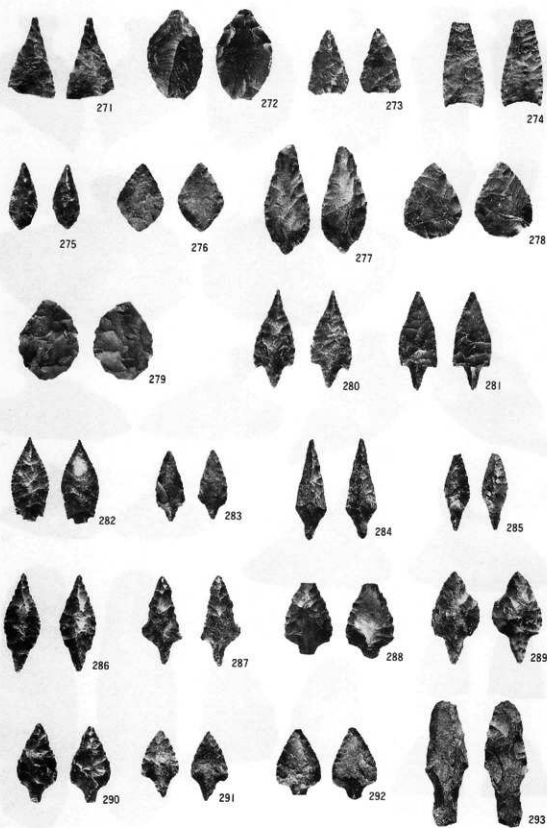


265

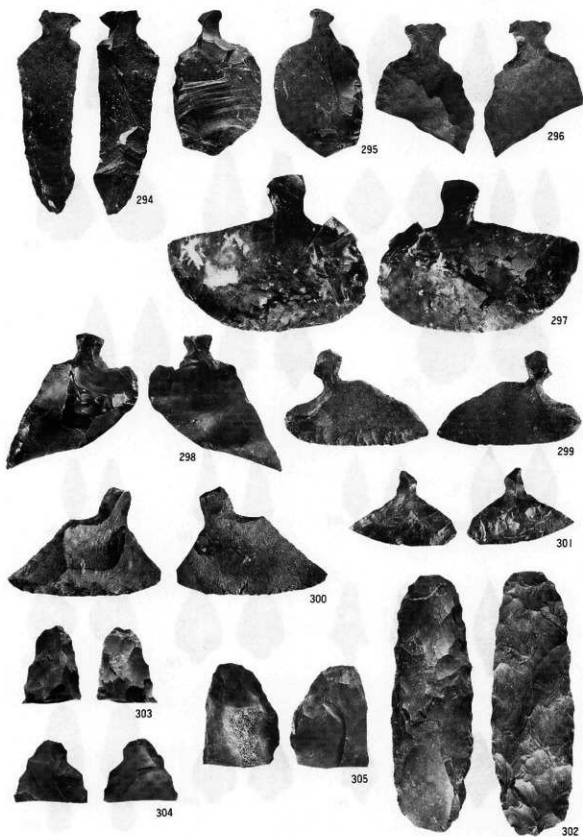


266

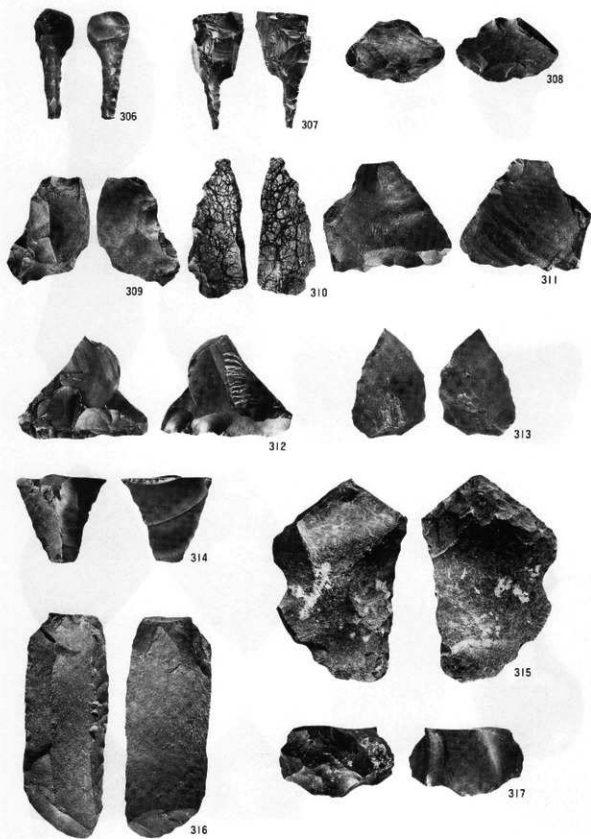
写真図版44 埋設土器



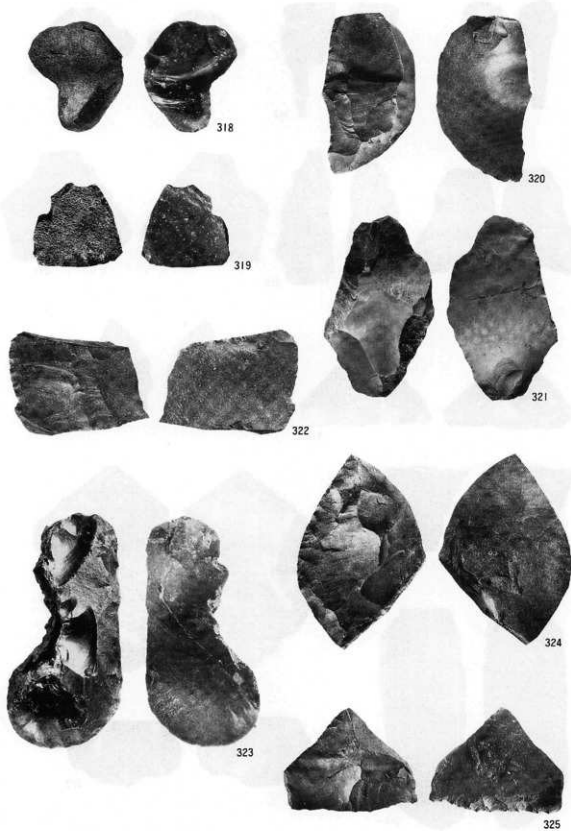
写真図版45 遺構外出土石器 (1)



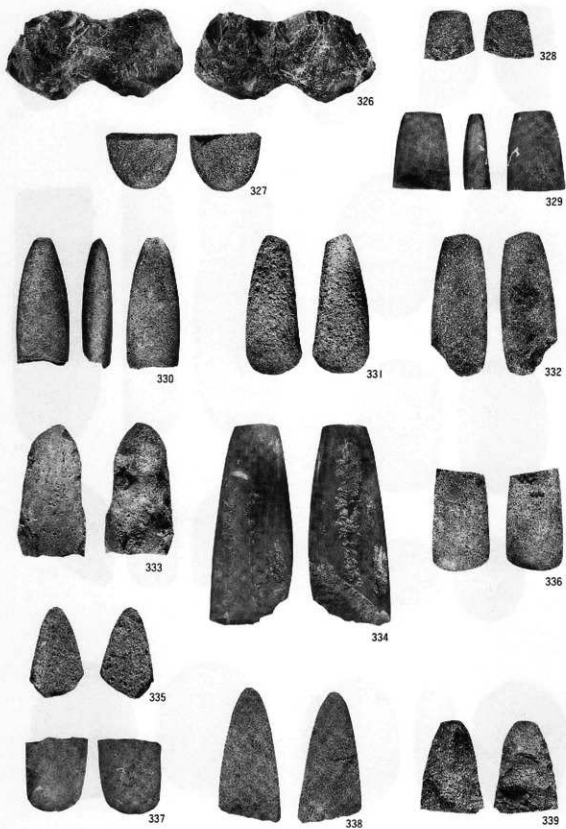
写真図版46 遺構外出土石器（2）



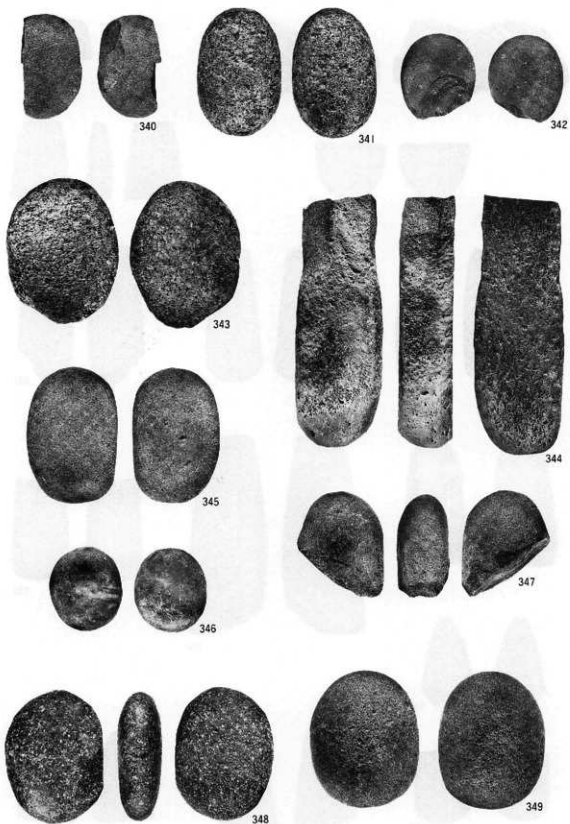
写真図版47 遺構外出土石器 (3)



写真図版48 遺構外出土石器 (4)



写真図版49 遺構外出土石器 (5)



写真図版50 遺構外出土石器 (6)



350



351



352



353



354



355



356



358



357

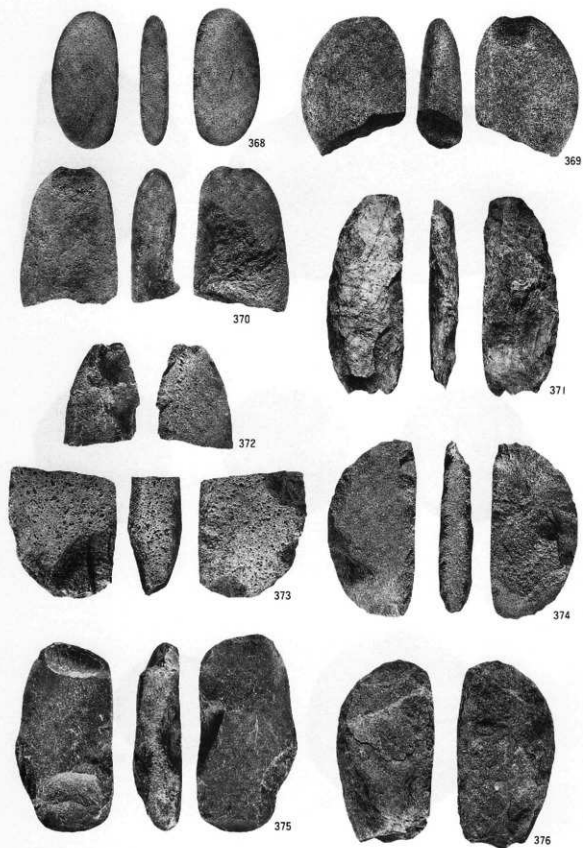


359

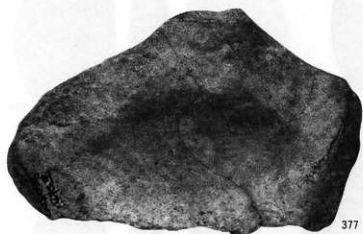
写真図版51 遺構外出土石器 (7)



写真図版52 遺構外出土石器（8）



写真図版53 遺構外出土石器 (9)



377



378



379



380



381

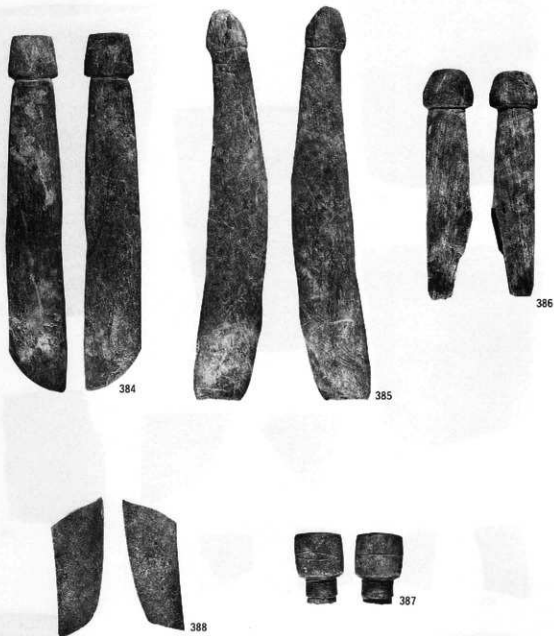


382

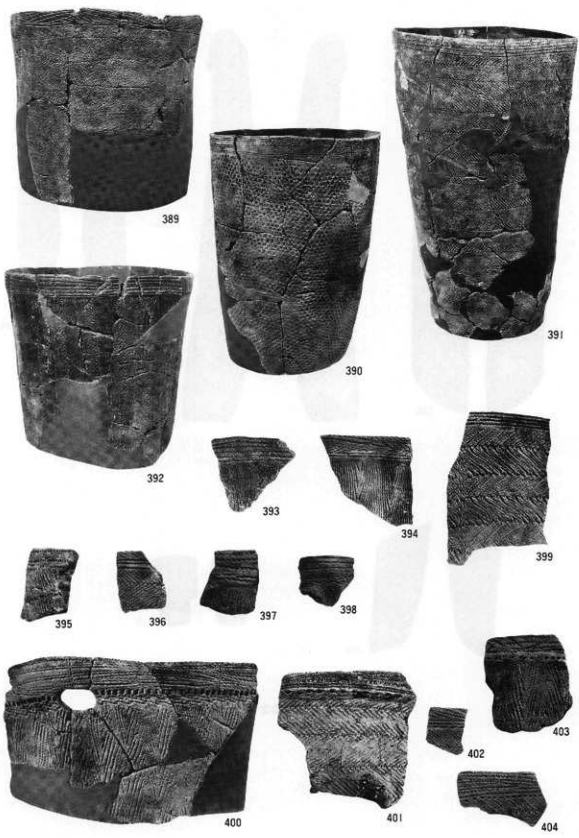


383

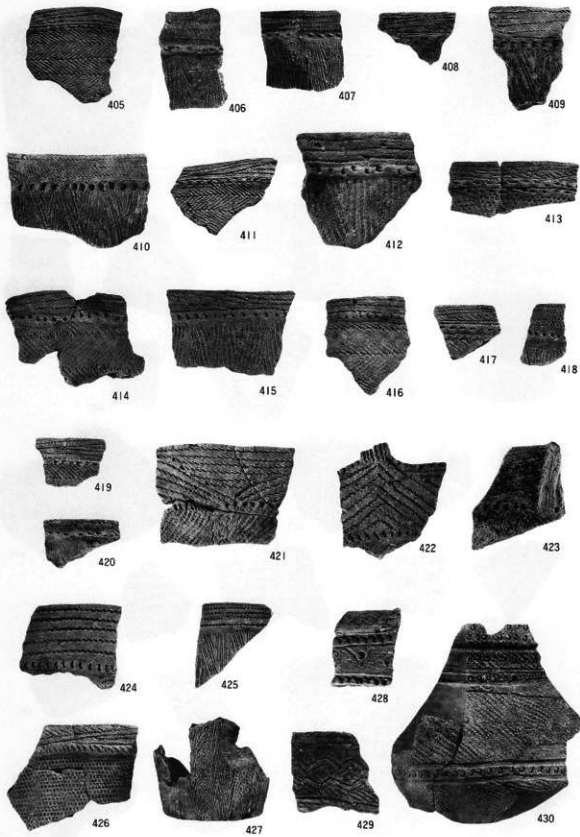
写真図版54 遺構外出土石器(10)・石製品(1)



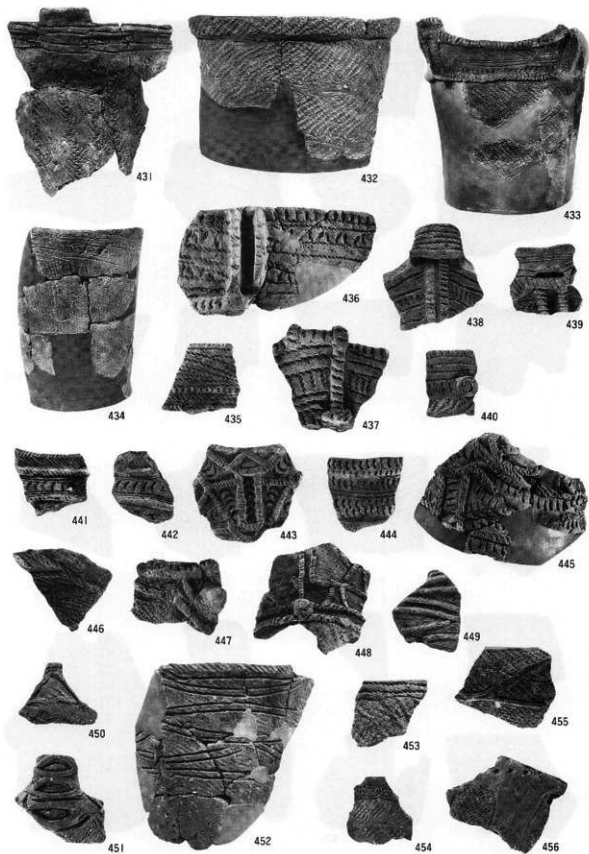
写真図版55 遺構外出土石製品(2)



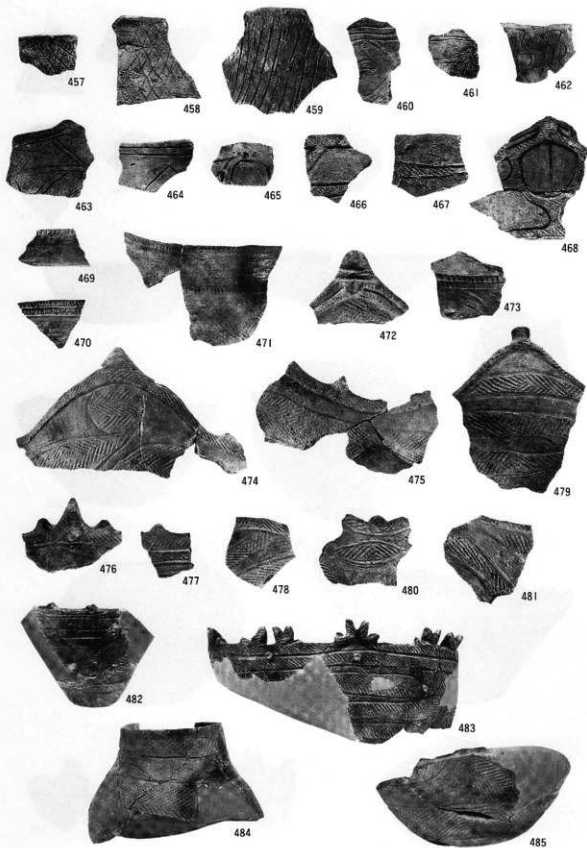
写真図版56 遠禰外出土土器 (1)



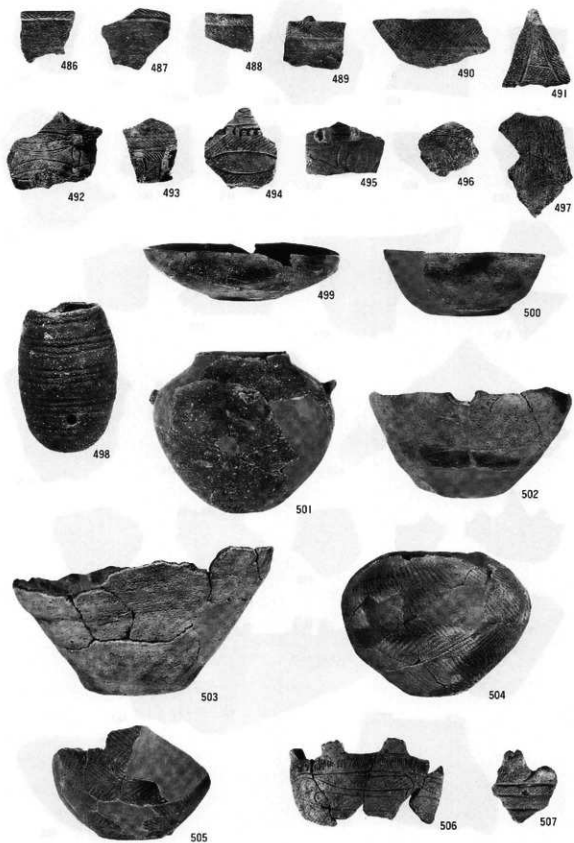
写真図版57 遺構外出土土器 (2)



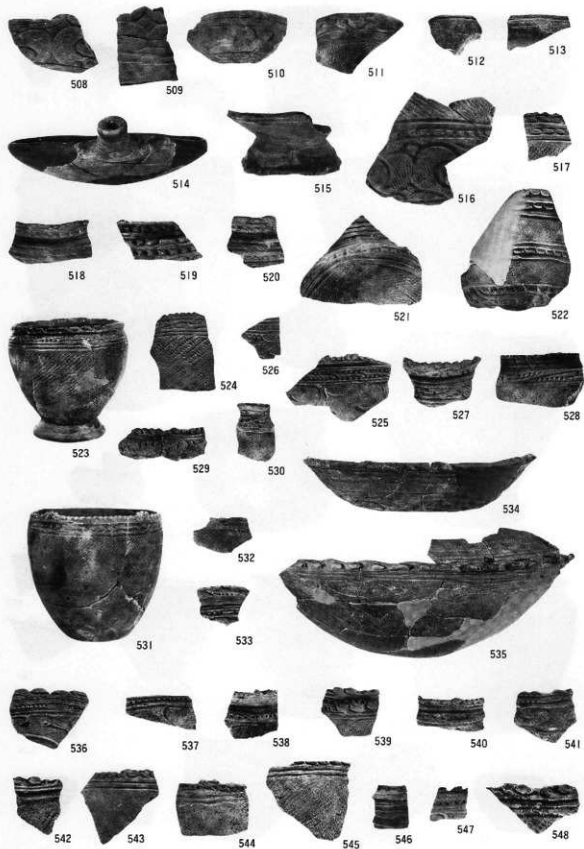
写真図版58 遺構外出土土器 (3)



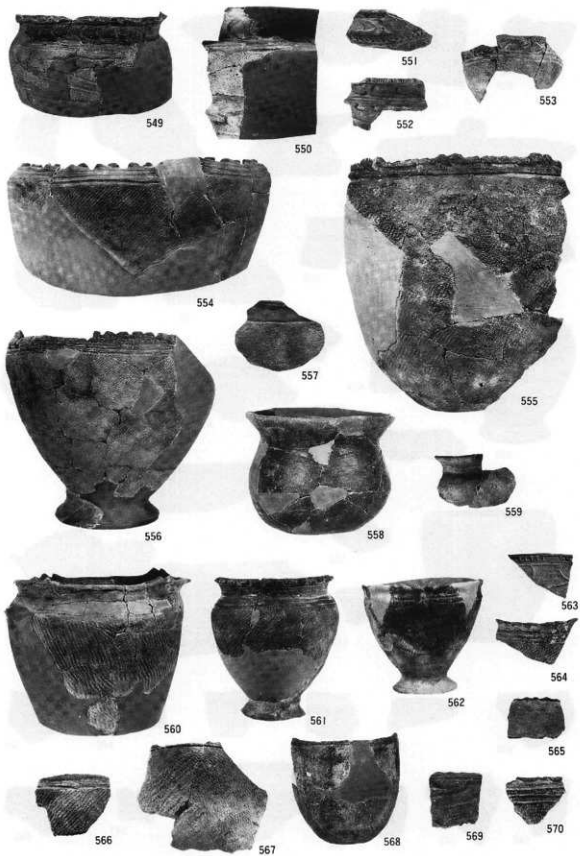
写真図版59 遺構外出土土器 (4)



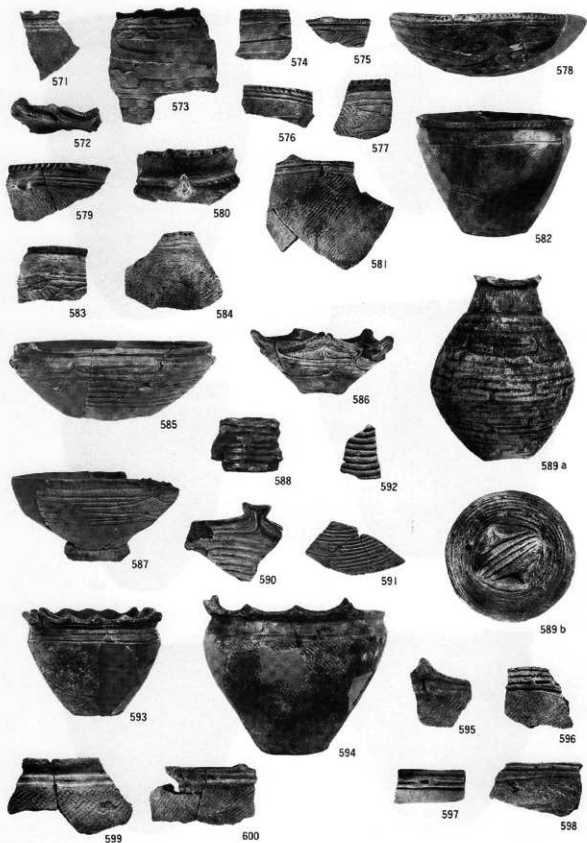
写真図版60 遺構外出土土器 (5)



写真図版61 遺構外出土土器 (6)



写真図版62 遺構外出土土器 (7)



写真図版63 遺構外出土土器 (8)



601



602



603



604



605



606

写真图版64 遺構外出土土器 (9)



607



608



609



613



610

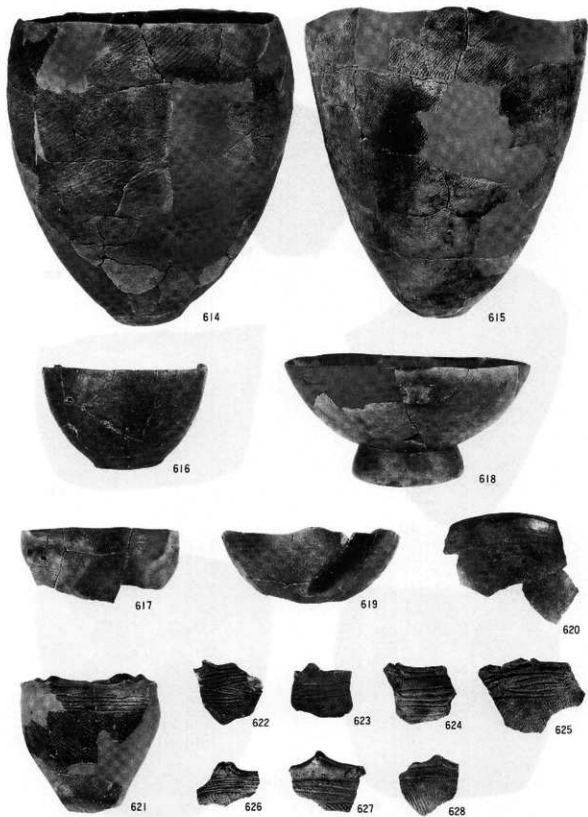


611



612

写真図版65 遺構外出土土器 (10)



写真図版66 遺構外出土土器(11)



写真図版67 遠構外出土ミニチュア土器・土製品

報告書抄録

ふりがな	えさしかよんいせきはつくちょうさほうこくしょ							
書名	江刺家IV遺跡発掘調査報告書							
副書名	県営畜産経営環境整備事業関連遺跡発掘調査							
巻次								
シリーズ名	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第277集							
編著者名	濱田 宏、高橋 興右衛門							
編集機関	財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター							
所在地	〒020 岩手県盛岡市下飯岡11地割185 TEL019-638-9001							
発行年月日	西暦1998年 1月 30日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ""	東緯 ""	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
江刺家IV 遺跡	岩手県九戸郡 九戸村江刺家 第13地割字綱 倉45ほか	03506		40度 15分 18秒	141度 24分 10秒	19960411 } 19960621	2,000	県営畜産経営環境整備事業に伴う事前調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
江刺家IV 遺跡	集落	縄文時代 前期末 ～中期 初 中期末 後期 晩期	竪穴住居跡 (縄文時代9棟) 竪穴状遺構3棟 土坑33基 炉跡3基 焼土遺構5基 埋設土器2基	縄文土器 (前・中・後・ 晩期) 土偶、円盤状土 製品、耳飾り 石器・石製品 (石刀など)		○縄文時代中期・後期を 中心とした集落跡 ○礫を伴う土坑あり		

財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター職員

所 長	松 尾 昭 明		
副 所 長	鷹 羽 康 造		
(管理課)			
管理課長	澤 田 寛	文 化 財	星 雅 之
主 任 事	横 山 文 彦	専 門 調 査 員	高 木 晃
	千 葉 勝 彦	//	大 森 博 文
(調査課)		//	朝 倉 雄 大
調査課長	小 田 野 哲 憲	//	杉 沢 昭 太 郎
課長補佐	高 橋 興 右 衛 門	//	溜 池 浩 二 郎
//	工 藤 利 幸	//	菊 池 貴 広
主任文化財	中 川 重 紀	//	村 上 拓 美
専門調査員		//	中 村 直 美
//	佐々木 清 文	期 限 付	川 向 聖 子
//	高 橋 義 介 孝	専 門 職 員	佐 藤 良 和 幸
//	酒 井 宗 孝	//	柴 田 慈 浩
文 化 財	古 館 貞 身	//	鈴 木 木 聡 央
専門調査員		//	高 橋 笑 和 弘
//	小笠原 健一郎	//	平 澤 里 香 規
//	工 藤 徹	//	山 口 俊 浩 幸 恵
//	小山内 透	//	山 下 谷 佳 志 麻 子
//	金 子 佐 知 子	//	熊 佐 々 木 綾 健 一 夫
//	岩 渕 計 速	//	佐 藤 山 野 敦 義 由 次 直
//	松 本 建 遠	//	中 布 松 七
//	菊 地 榮 壽 子	//	
//	宮 本 節 子	//	
//	下 田 隆 衛 悟 人	//	
//	早 坂 達 宏	//	
//	鳥 居 田 昭 彦 光 子	//	
//	濱 田 昭 彦 光 子	//	
//	金 子 昭 彦 光 子	//	
//	晴 山 雅 光 子	//	
//	木 戸 口 俊 直 人 彦	//	
//	羽 柴 直 正		
//	千 葉 正		
(資料課)			
資料課長	佐々木 嘉 直		
文化財	伊 藤 拓		
専門調査員			

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第277集

江刺家IV遺跡発掘調査報告書

県営畜産経営環境整備事業関連遺跡発掘調査

印刷 平成10年1月25日

発行 平成10年1月30日

発行 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

〒020 盛岡市下飯岡11-185

TEL (019) 638-9001・9002

印刷 株式会社 杜陵印刷

〒020-01 盛岡市みたけ二丁目22-50

TEL (019) 641-8000(代)